

地域創生学群 地域創生学類 (2010年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	1
	1年				
	家族を問う 小野 憲昭	1学期	1	2	2
	1年				
	人間と文化 重信 幸彦	1学期	1	2	3
	1年				
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	4
	1年				
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	5
	1年				
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	6
	1年				
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	7
	2年				
	家族の再生 小野 憲昭	2学期	2	2	8
	2年				
	文化と政治 重信 幸彦	2学期	2	2	9
	2年				
言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	10	
2年					
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	11	
2年					
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	12	
2年					
生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	13	
1年					
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	14	
2年					
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	15
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	16
		1年			
	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	17
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	18
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	19
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	20
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	21
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	22
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	23
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	24
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	25
		1年			
フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	26	
	1年				
フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	27	
	1年				
フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	28	
	1年				
フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	29	
	1年				
自己管理論	2学期	1	2	30	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	キャリア・デザイン 真鍋 和博	1学期	1	2	31
		1年			
	キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	32
		1年			
	キャリア・デザイン 真鍋 和博	1学期	1	2	33
		1年			
	キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	34
		1年			
	コミュニケーションと思考法 真鍋 和博	2学期	1	2	35
		1年			
	コミュニケーションと思考法 真鍋 和博	2学期	1	2	36
		1年			
	コミュニケーションと思考法 真鍋 和博	2学期	1	2	37
		1年			
	コミュニケーションと思考法 真鍋 和博	2学期	1	2	38
		1年			
	コミュニケーションと思考法 真鍋 和博	2学期	1	2	39
		1年			
	プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	40
		2年			
大学論・学問論 小野 憲昭 他	1学期	1	2	41	
	1年				
法律の読み方 小野 憲昭 他	2学期	1	2	42	
	1年				
社会調査 稲月 正	2学期	1	2	43	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (サッカー) 磯貝 浩久	1学期	1	1	44	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (テニス) 原田 守治	1学期	1	1	45	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズI(バスケットボール)	1学期	1	1	46
	原田 守治	1年			
	フィジカル・エクササイズI(バドミントン)	1学期	1	1	47
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI(バレーボール)	1学期	1	1	48
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI(バドミントン)	1学期	1	1	49
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズI(バドミントン)	1学期	1	1	50
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズI(バレーボール)	1学期	1	1	51
	高西 敏正	1年			
	フィジカル・エクササイズI(バドミントン)	1学期	1	1	52
	徳永 政夫	1年			
	フィジカル・エクササイズII(バドミントン)	2学期	1	1	53
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズII(バドミントン)	2学期	1	1	54
	原田 守治	1年			
	フィジカル・エクササイズII(バスケットボール)	2学期	1	1	55
	原田 守治	1年			
フィジカル・エクササイズII(バレーボール)	2学期	1	1	56	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII(バレーボール)	2学期	1	1	57	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII(サッカー)	2学期	1	1	58	
鯨 吉夫	1年				
フィジカル・エクササイズII(バドミントン)	2学期	1	1	59	
鯨 吉夫	1年				
フィジカル・エクササイズII(サッカー)	2学期	1	1	60	
磯貝 浩久	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ)	2学期	1	1	61
	加倉井 美智子	1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I	1学期	1	2	62
	重信 幸彦	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	63
	徳永 政夫	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	64
	小野 憲昭	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	65
	戸蒔 仁司	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	66
	重信 幸彦	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	67
	徳永 政夫	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	68
	小野 憲昭	1年			
	教養基礎演習II	1学期	1	2	69
	戸蒔 仁司	1年			
教養演習A I	1学期	2	2	70	
重信 幸彦	2年				
教養演習A I	1学期	2	2	71	
戸蒔 仁司	2年				
教養演習A II	2学期	2	2	72	
重信 幸彦	2年				
教養演習A II	1学期	2	2	73	
戸蒔 仁司	2年				
教養演習B I	1学期	3	2	74	
小野 憲昭	3年				
教養演習B I	1学期	3	2	75	
重信 幸彦	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ 戸蒔 仁司	1学期	3	2	76
		3年			
	教養演習BⅡ 小野 憲昭	2学期	3	2	77
		3年			
	教養演習BⅡ 重信 幸彦	2学期	3	2	78
		3年			
教養演習BⅡ 戸蒔 仁司	1学期	3	2	79	
	3年				
■テーマ科目	プロジェクト演習Ⅰ 見館 好隆	2学期	2	2	80
		2年			
	プロジェクト演習Ⅱ 見館 好隆	1学期	3	2	81
		3年			
	自然学のまなざし 竹川 大介 他	1学期	1	2	82
		1年			
地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	83	
	1年				
現代人のこころ 小松 佐穂子	1学期	1	2	84	
	1年				
私たちと宗教 佐藤 真人	2学期	1	2	85	
	1年				
思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	86	
	1年				
ものがたりと人間 重信 幸彦 他	1学期	1	2	87	
	1年				
文化と表象 真鍋 昌賢 他	2学期	1	2	88	
	1年				
言語とコミュニケーション 漆原 朗子 他	2学期	1	2	89	
	1年				
文学を読む 岩本 真理子 他	1学期	1	2	90	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	戦争と人間 重信 幸彦 他	1学期	1	2	91
	1年				
	現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	92
	1年				
	民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2	93
	1年				
	人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	94
	1年				
	ジェンダー論 力武 由美	1学期	1	2	95
	1年				
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	96
	1年				
	共生の作法 山本 光英 他	2学期	1	2	97
	1年				
	北九州学 小野 憲昭	2学期	1	2	98
	1年				
	企業と社会 山岡 敏秀	1学期	1	2	99
	1年				
つながりの人間学 児玉 弥生 他	2学期	1	2	100	
1年					
現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	101	
1年					
現代社会の諸問題 山本 光英 他	2学期	1	2	102	
1年					
現代の国際情勢 金 鳳珍	1学期	1	2	103	
1年					
国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	104	
1年					
国際紛争と国連 戸蒔 仁司	1学期	1	2	105	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	106
		1年			
	開発と統治 三宅 博之 他	1学期	1	2	107
		1年			
	グローバル化する経済 前田 淳 他	1学期	1	2	108
		1年			
	テロリズム論 戸蔭 仁司	2学期	1	2	109
		1年			
	国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	110
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	111
		1年			
	歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	112
		1年			
そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	113	
	1年				
戦後の日本経済 迎 由理男	2学期	1	2	114	
	1年				
都市と農村の生活文化史 重信 幸彦	2学期	1	2	115	
	1年				
ものと人間の歴史 重信 幸彦 他	1学期	1	2	116	
	1年				
人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	117	
	1年				
■情報教育科目	情報表現 浅羽 修丈	1学期	2	2	118
		2年			
	情報表現 中尾 泰士	1学期	2	2	119
		2年			
	情報表現 浅羽 修丈	1学期	2	2	120
		2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報表現 中尾 泰士	1学期	2	2	121
		2年			
	プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	122
		2年			
	プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	123
		2年			
■外国語教育科目	英語I 下條 かおり	1学期	1	1	124
		律政群 1 - A			
	英語I 渡邊 晶子	1学期	1	1	125
		律政群 1 - B			
	英語I 相原 信彦	1学期	1	1	126
		律政群 1 - C			
	英語I 新藤 照夫	1学期	1	1	127
		律政群 1 - D			
	英語I 安丸 雅子	1学期	1	1	128
		律政群 1 - E			
	英語I 野上 良子	1学期	1	1	129
		律政群 1 - F			
	英語I 酒井 秀子	1学期	1	1	130
		律政群 1 - G			
	英語I 木梨 安子	1学期	1	1	131
		律政群 1 - I			
	英語II Stephanie A.Houghton	2学期	1	1	132
		律政群 1 - A			
	英語II 渡邊 晶子	2学期	1	1	133
		律政群 1 - B			
英語II 相原 信彦	2学期	1	1	134	
	律政群 1 - C				
英語II 新藤 照夫	2学期	1	1	135	
	律政群 1 - D				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語II 安丸 雅子	2学期	1	1	136
		律政群 1 - E			
	英語II 下條 かおり	2学期	1	1	137
		律政群 1 - F			
	英語II 酒井 秀子	2学期	1	1	138
		律政群 1 - G			
	英語II 木梨 安子	2学期	1	1	139
		律政群 1 - I			
	英語III ケネス・ギブソン	1学期	1	1	140
		律政群 1 - A			
	英語III アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	141
		律政群 1 - B			
	英語III Stephanie A.Houghton	1学期	1	1	142
		律政群 1 - C			
	英語III アレクサンダー・ボードナー	1学期	1	1	143
		律政群 1 - D			
	英語III クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	144
		律政群 1 - E			
	英語III ホセ・クルーズ	1学期	1	1	145
		律政群 1 - F			
英語III デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	146	
	律政群 1 - G				
英語III 船方 浩子	1学期	1	1	147	
	律政群 1 - I				
英語IV ケネス・ギブソン	2学期	1	1	148	
	律政群 1 - A				
英語IV アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	149	
	律政群 1 - B				
英語IV Stephanie A.Houghton	2学期	1	1	150	
	律政群 1 - C				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語IV アレクサンダー・ボードナー	2学期	1	1	151
		律政群 1 - D			
	英語IV クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	152
		律政群 1 - E			
	英語IV ホセ・クルーズ	2学期	1	1	153
		律政群 1 - F			
	英語IV デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	154
		律政群 1 - G			
	英語IV 船方 浩子	2学期	1	1	155
		律政群 1 - I			
	英語V 漆原 朗子	1学期	2	1	156
		律政群 2 - D			
	英語V 十時 康	1学期	2	1	157
		律政群 2 - E			
	英語V 安丸 雅子	1学期	2	1	158
		律政群 2 - F			
	英語V 村田 希巳子	1学期	2	1	159
		律政群 2 - G			
英語V 薬師寺 元子	1学期	2	1	160	
	律政群 2 - A				
英語V 三宅 啓子	1学期	2	1	161	
	律政群 2 - B				
英語V 木梨 安子	1学期	2	1	162	
	律政群 2 - C				
英語VI 漆原 朗子	2学期	2	1	163	
	律政群 2 - D				
英語VI 十時 康	2学期	2	1	164	
	律政群 2 - E				
英語VI 安丸 雅子	2学期	2	1	165	
	律政群 2 - F				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語VI 村田 希巳子	2学期	2	1	166
		律政群 2 - G			
	英語VI Stephanie A.Houghton	2学期	2	1	167
		律政群 2 - A			
	英語VI 三宅 啓子	2学期	2	1	168
		律政群 2 - B			
	英語VI 木梨 安子	2学期	2	1	169
		律政群 2 - C			
	英語VII ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	2	1	170
		律政群 2 - D			
	英語VII ケネス・ギブソン	1学期	2	1	171
		律政群 2 - E			
	英語VII アルバート・オスカー・モウ	1学期	2	1	172
		律政群 2 - F			
	英語VII マーニー・セイディ	1学期	2	1	173
		律政群 2 - G			
	英語VII デビッド・アンソニー・コフリン	1学期	2	1	174
		律政群 2 - A			
	英語VII ホセ・クルーズ	1学期	2	1	175
		律政群 2 - B			
英語VII アレクサンダー・ボードナー	1学期	2	1	176	
	律政群 2 - C				
英語VIII ジョセフ・ディレンシュナイダー	2学期	2	1	177	
	律政群 2 - D				
英語VIII ケネス・ギブソン	2学期	2	1	178	
	律政群 2 - E				
英語VIII アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	179	
	律政群 2 - F				
英語VIII マーニー・セイディ	2学期	2	1	180	
	律政群 2 - G				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語VIII デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	2	1	181	
	律政群 2 - A					
	英語VIII ホセ・クルーズ	2学期	2	1	182	
	律政群 2 - B					
	英語VIII アレクサンダー・ボードナー	2学期	2	1	183	
	律政群 2 - C					
	中国語I 野村 和代	1学期	1	1	184	
	律群 1年					
	中国語II 野村 和代	2学期	1	1	185	
	律群 1年					
	中国語III 大連交換教員	1学期	1	1	186	
	律群 1年					
	中国語IV 大連交換教員	2学期	1	1	187	
	律群 1年					
	中国語V 有働 彰子	1学期	2	1	188	
	済営人律政群 2年					
	中国語VI 有働 彰子	2学期	2	1	189	
	済営人律政群 2年					
中国語VII 馮 雅蓮	1学期	2	1	190		
済営人律政群 2年						
中国語VIII 馮 雅蓮	2学期	2	1	191		
済営人律政群 2年						
朝鮮語I 金 貞淑	1学期	1	1	192		
済営群 1年						
朝鮮語II 金 貞淑	2学期	1	1	193		
済営群 1年						
朝鮮語III 金 貞淑	1学期	1	1	194		
済営群 1年						
朝鮮語IV 金 貞淑	2学期	1	1	195		
済営群 1年						

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	朝鮮語V 金 貞愛	1学期	2	1	196
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VI 金 貞愛	2学期	2	1	197
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VII 金 貞淑	1学期	2	1	198
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VIII 金 貞淑	2学期	2	1	199
		済営比人律政群 2年			
■専門基幹科目	地域学入門 伊野 憲治 他	1学期	1	2	200
		1年			
	コミュニティ論 石塚 優	1学期	1	2	201
		1年			
	市民活動概論 西田 心平	2学期	1	2	202
		1年			
	北九州社会論 神山 和久	2学期	2	2	203
		2年			
	キャリア形成論 眞鍋 和博	1学期	2	2	204
		2年			
	システム活用 廣渡 栄寿	1学期	2	2	205
		2年			
	地域創生実習I 伊野 憲治	1・2学期 (ペア)	2	2	206
		2年			
スポーツ・ボランティア実習I 徳永 政夫 他	1・2学期 (ペア)	2	2	207	
	2年				
障害者スポーツ実習I 内田 若希	1・2学期 (ペア)	2	2	208	
	2年				
地域創生基礎演習A 伊野 憲治 他	1学期	1	2	209	
	1年				
地域創生基礎演習B 伊野 憲治	2学期	1	2	210	
	1年				

地域創生学群 地域創生学類 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門基幹科目	地域創生基礎演習 B	2学期	1	2	211
	佐藤 貴之	1年			
	地域創生基礎演習 B	2学期	1	2	212
	徳永 政夫	1年			
	地域創生基礎演習 B	2学期	1	2	213
	内田 若希	1年			
	地域創生基礎演習 C	1学期	2	2	214
	伊野 憲治	2年			
	地域創生基礎演習 D	2学期	2	2	215
	伊野 憲治	2年			
■専門科目	地域コーディネート論	2学期	1	2	216
	西田 心平	1年			
	地域調査論	1学期	2	2	217
	神山 和久	2年			
	NPO論	1学期	1	2	218
	楢原 真二	1年			
	政治過程論	2学期	1	2	219
	松田 憲忠	1年			
	公共政策論	1学期	2	2	220
	楢原 真二	2年			
	地方自治論	1学期	2	2	221
	森 裕亮	2年			
	政策過程論	1学期	2	2	222
	申 東愛	2年			
	公共経営論	2学期	2	2	223
狭間 直樹	2年				
都市経営論	1学期	2	2	224	
古賀 哲矢	2年				
都市経済論	2学期	2	2	225	
古賀 哲矢	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	福祉政策論 狭間 直樹	1学期	2	2	226
		2年			
	都市環境論 三宅 博之	1学期	2	2	227
		2年			
	法学総論 徳永 達哉	1学期	1	2	228
		1年			
	日本国憲法原論 植木 淳	1学期	1	2	229
		1年			
	憲法人権論 植木 淳	2学期	1	2	230
		1年			
	民法総則 矢澤 久純	1学期 (ヘア)	1	4	231
		1年			
	社会法総論 柴田 滋	2学期	2	2	232
		2年			
	刑法犯罪論 山本 光英	2学期 (ヘア)	2	4	233
		2年			
	憲法機構論 落合 俊行	1学期	2	2	234
		2年			
	行政法総論 村上 英明	1学期 (ヘア)	2	4	235
		2年			
物権法 中山 布紗	2学期	2	2	236	
	2年				
家族法 小野 憲昭	1学期	2	2	237	
	2年				
現代日本経済入門 A 前田 淳	1学期	1	2	238	
	1年				
現代日本経済入門 B 柳井 雅人	1学期	1	2	239	
	1年				
経済学入門 A 藤井 敦	1学期	1	2	240	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	経済学入門 A	1学期	1	2	241
	牛房 義明	1年			
	経済学入門 B	1学期	1	2	242
	後藤 尚久	1年			
	経済学入門 B	1学期	1	2	243
	安岡 匡也	1年			
	マネジメント論基礎	2学期	1	2	244
	浦野 恭平	1年			
	マネジメント論基礎	2学期	1	2	245
	浦野 恭平	1年			
	企業論基礎	2学期	1	2	246
	山岡 敏秀	1年			
	企業論基礎	2学期	1	2	247
	山岡 敏秀	1年			
	簿記論I	1学期	1	2	248
	白石 和孝	1年			
	簿記論I	1学期	1	2	249
	岡部 勝成	1年			
	簿記論II	2学期	1	2	250
	白石 和孝	1年			
簿記論II	2学期	1	2	251	
任 章	1年				
統計学I	1学期	1	2	252	
林田 実	1年				
統計学II	2学期	1	2	253	
林田 実	1年				
数学	1学期	1	2	254	
吉田 祐治	1年				
経営統計	2学期	1	2	255	
吉田 祐治	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	地域経済I	1学期	2	2	256
	杉浦 勝章	2年			
	地域経済II	2学期	2	2	257
	杉浦 勝章	2年			
	金融論I	1学期	2	2	258
	後藤 尚久	2年			
	金融論II	2学期	2	2	259
	後藤 尚久	2年			
	国際経済論I	1学期	2	2	260
	魏 芳	2年			
	国際経済論II	2学期	2	2	261
	魏 芳	2年			
	経営戦略	2学期	2	2	262
	浦野 恭平	2年			
	産業組織論I	1学期	2	2	263
	後藤 宇生	2年			
	産業組織論II	2学期	2	2	264
	後藤 宇生	2年			
	人事管理論	2学期	2	2	265
	福井 直人	2年			
コンピュータシステム	2学期	1	2	266	
武藤 直彦	1年				
財務会計論I	1学期	2	2	267	
西澤 健次	2年				
財務会計論II	2学期	2	2	268	
西澤 健次	2年				
プログラミングI	1学期	1	2	269	
隈本 覚	1年				
プログラミングII (新JAVA)	1学期	2	2	270	
下野 雅芳	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	データ構造 正代 隆義	2学期	2	2	271
	2年				
	データ解析 齋藤 朗宏	2学期	2	2	272
	2年				
	データベース 池田 欽一	1学期	2	2	273
	2年				
	システムデザイン 佐藤 貴之	1学期	2	2	274
	2年				
	現代社会と福祉 1 河嶋 静代	1学期	1	2	275
	1年				
	現代社会と福祉 2 小賀 久	2学期	1	2	276
	1年				
	福祉国家論 狭間 直樹	2学期	1	2	277
	1年				
	地域福祉の理論と方法 1 深谷 裕	1学期	2	2	278
	2年				
	地域福祉の理論と方法 2 渡辺 良司	2学期	2	2	279
	2年				
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1 石塚 優	1学期	2	2	280
2年					
高齢者に対する支援と介護保険制度 2 石塚 優	2学期	2	2	281	
2年					
児童福祉論 河嶋 静代	1学期	2	2	282	
2年					
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 河嶋 静代	2学期	2	2	283	
2年					
障害者福祉論 小賀 久	2学期	2	2	284	
2年					
障害者に対する支援と障害者自立支援制度 小賀 久	1学期	2	2	285	
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	相談援助の基盤と専門職 1 戸丸 洋	1学期	1	2	286
		1年			
	相談援助の基盤と専門職 2 戸丸 洋	2学期	1	2	287
		1年			
	低所得者に対する支援と生活保護制度 藤藪 貴治	2学期	2	2	288
		2年			
	保健医療サービス 来田 時子	1学期	2	2	289
		2年			
	権利擁護と成年後見制度 河原 一雅	1学期	2	2	290
		2年			
	心理学概論 田中 信利	2学期	1	2	291
		1年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	292
		2年			
	老年心理学 石塚 優	2学期	2	2	293
		2年			
	教育心理学 柴村 馨	2学期	2	2	294
		2年			
	スポーツ心理学 内田 若希	1学期	2	2	295
		2年			
人体の構造と機能及び疾病 小野 二六一	1学期	2	2	296	
	2年				
ボランティア活動論 西田 心平	1学期	1	2	297	
	1年				
ボランティア活動実践論 西田 心平 他	1学期	2	2	298	
	2年				
スポーツ指導論 徳永 政夫 他	1学期	1	2	299	
	1年				
障害者スポーツ指導論 内田 若希	2学期	1	2	300	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	スポーツ・ボランティア指導論 徳永 政夫	2学期	1	2	301
		1年			
	スポーツ・ボランティア各論 上村 英樹	1学期	2	2	302
		2年			
	コミュニティスポーツ論 中西 純司	2学期	2	2	303
		2年			
	障害者スポーツ各論 内田 若希	2学期	2	2	304
		2年			
	社会調査の基礎	1学期	2	2	305
		2年			
	相談援助の理論と方法 1 藤藪 貴治	1学期	2	2	306
		2年			
	相談援助の理論と方法 2 松川 素子	2学期	2	2	307
	2年				
相談援助の理論と方法 3 藤田 博久	1学期	2	2	308	
	2年				
福祉行財政と福祉計画 難波 利光	1学期	2	2	309	
	2年				
福祉サービスの組織と経営 藤村 昌憲	2学期	2	2	310	
	2年				
社会保障 濱畑 芳和	集中	2	2	311	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	312
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	2学期	1	2	313
		1年			
	人間と文化 重信 幸彦	1学期	1	2	314
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	315
		1年			
国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	316	
	1年				
教養としての平和学 戸蒔 仁司	2学期	1	2	317	
	1年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	318	
	1年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	319
		1年			
	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	320
		1年			
フィジカル・ヘルスI 内田 若希	1学期	1	2	321	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 徳永 政夫	2学期	1	1	322	
	1年				
■テーマ科目	自然学のまなざし 日高 京子	1学期	1	2	323
		1年			
	現代人のこころ 税田 慶昭	1学期	1	2	324
		1年			
現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	325	
	1年				
障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	326	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会の諸問題 山本 光英 他	2学期	1	2	327
		1年			
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	328
		1年			
	グローバル化する経済 前田 淳 他	1学期	1	2	329
		1年			
	国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	330
		1年			
歴史の読み方I 小林 道彦	1学期	1	2	331	
	1年				
歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	332	
	1年				
都市と農村の生活文化史 重信 幸彦	2学期	1	2	333	
	1年				
人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	334	
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 廣渡 栄寿	2学期	1	2	335
		1年			
	データ処理 中尾 泰士	1学期	1	2	336
	1年				
データ処理 佐藤 貴之	1学期	1	2	337	
	1年				
■外国語教育科目	ビジネス英語I ホセ・クルーズ	1学期	1	1	338
		群1年			
	ビジネス英語II ホセ・クルーズ	2学期	1	1	339
		群1年			
ビジネス英語III ホセ・クルーズ	1学期	2	1	340	
	群2年				
ビジネス英語IV ホセ・クルーズ	2学期	2	1	341	
	群2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域学入門 伊野 憲治 他	1学期	1	2	342
		1年			
	キャリア学概論 見館 好隆	2学期	1	2	343
		1年			
	市民活動実践論 西田 心平	1学期	2	2	344
		2年			
	地域文化論 重信 幸彦	1学期	2	2	345
		2年			
	危機管理論 戸蔭 仁司	2学期	2	2	346
		2年			
	システム活用 廣渡 栄寿	2学期	2	2	347
		2年			
	まちづくり計画 片岡 寛之	1学期	2	2	348
		2年			
	地域創生基礎演習 A 伊野 憲治 他	1学期	1	2	349
		1年			
	地域創生基礎演習 B 深谷 裕	2学期	1	2	350
		1年			
地域創生基礎演習 B 中島 俊介	2学期	1	2	351	
	1年				
地域創生基礎演習 B 神山 和久	2学期	1	2	352	
	1年				
地域創生基礎演習 B 片岡 寛之	2学期	1	2	353	
	1年				
地域創生基礎演習 B 西田 心平	2学期	1	2	354	
	1年				
地域創生基礎演習 C 中島 俊介	1学期	2	2	355	
	2年				
地域創生基礎演習 C 神山 和久	1学期	2	2	356	
	2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門基幹科目	地域創生基礎演習 C 片岡 寛之	1学期	2	2	357
	2年				
	地域創生基礎演習 C 西田 心平	1学期	2	2	358
	2年				
	地域創生基礎演習 D 中島 俊介	2学期	2	2	359
	2年				
	地域創生基礎演習 D 神山 和久	2学期	2	2	360
	2年				
	地域創生基礎演習 D 片岡 寛之	2学期	2	2	361
	2年				
	地域創生基礎演習 D 西田 心平	2学期	2	2	362
	2年				
	相談援助演習 1 石塚 優	1学期	2	2	363
	2年				
相談援助演習 1 深谷 裕	1学期	2	2	364	
2年					
相談援助演習 2 石塚 優	2学期	2	2	365	
2年					
相談援助演習 2 深谷 裕	2学期	2	2	366	
2年					
■専門科目	地域コーディネート論 西田 心平	2学期	1	2	367
	1年				
	地域調査論 神山 和久	1学期	2	2	368
	2年				
	公共政策論 楢原 真二	1学期	2	2	369
	2年				
都市環境論 三宅 博之	1学期	2	2	370	
2年					
景観まちづくり論 片岡 寛之	2学期	2	2	371	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	福祉環境デザイン論 内田 晃	2学期	2	2	372
	2年				
	ものづくりマネジメント論 吉村 英俊	2学期	2	2	373
	2年				
	日本国憲法原論 植木 淳	1学期	1	2	374
	1年				
	民法概論I 小野 憲昭 他	1学期	2	2	375
	2年				
	民法概論II 矢澤 久純	2学期	2	2	376
	2年				
	現代日本経済入門A 素川 博司	1学期	1	2	377
	1年				
	現代日本経済入門B 素川 博司	2学期	1	2	378
	1年				
	経済学入門A 後藤 宇生	1学期	1	2	379
	1年				
	経済学入門B 安岡 匡也	1学期	1	2	380
	1年				
	マネジメント論基礎 西村 香織	2学期	1	2	381
	1年				
企業論基礎 中間 信博	2学期	1	2	382	
1年					
簿記論I 池口 慶一	1学期	1	2	383	
1年					
統計学I 林田 実	1学期	1	2	384	
1年					
国際経済論I 魏 芳	1学期	2	2	385	
2年					
経営戦略 浦野 恭平	2学期	2	2	386	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	人事管理論	2学期	2	2	387
	福井 直人	2年			
	コンピュータシステム	2学期	1	2	388
	泉 英明	1年			
	財務会計論I	1学期	2	2	389
	西澤 健次	2年			
	データベース	1学期	2	2	390
	池田 欽一	2年			
	現代社会と福祉 1	1学期	1	2	391
	河嶋 静代	1年			
	現代社会と福祉 2	2学期	1	2	392
	深谷 裕	1年			
	地域福祉の理論と方法 1	1学期	2	2	393
	深谷 裕	2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1	1学期	2	2	394
	石塚 優	2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 2	2学期	2	2	395
	石塚 優	2年			
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2学期	2	2	396
	河嶋 静代	2年			
相談援助の基盤と専門職 1	1学期	1	2	397	
坂本 毅啓	1年				
相談援助の基盤と専門職 2	2学期	1	2	398	
坂本 毅啓	1年				
低所得者に対する支援と生活保護制度	2学期	2	2	399	
藤藪 貴治	2年				
観光社会学	2学期	1	2	400	
	1年				
発達心理学	1学期	2	2	401	
税田 慶昭	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	老年心理学 石塚 優	2学期	2	2	402
			2年		
	人体の構造と機能及び疾病 宇野 卓也	1学期	2	2	403
			2年		
	社会調査の基礎	1学期	2	2	404
			2年		
	相談援助の理論と方法 1 藤藪 貴治	1学期	2	2	405
			2年		
	相談援助の理論と方法 2 松川 素子	2学期	2	2	406
			2年		
	福祉行財政と福祉計画 難波 利光	1学期	2	2	407
			2年		
	社会保障 柴田 滋	1学期	2	2	408
			2年		

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から55年体制の成立（1955）までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『桂太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、「文化」という言葉を、ごく日常的に使う。「日本文化」「アメリカ文化」「中国文化」から、「若者文化」「大学文化」「会社文化」まで・・・何でも「文化」であり、どこにも「文化」がある、といったありさまである。そして私達はしばしば、「文化」と名づけられたものは、人間にとって良きものである、というイメージをいだきがちである。しかし、人間は「文化」という御旗をかかげて、互いに諍い、排除しあい、また殺しあうことすらある。「文化」とは、何か？ 本講義では、「文化」の否定的側面にも向き合いながら、人間にとっての「文化」について検討したい。 キーワード 【差異】【ことば】【他者】【アイデンティティ】【国民国家】

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。参考文献は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 「文化」とは何か？
- 1回 「文化」って、何でしょう？
 - 2回 「文化」という言葉に何を託そうとしてきたか：「文化」という概念の変容
 - 3回 「文化」を語る時代・近代
 - 4回 「文化」の発見：博物館という装置から
 - 5回 「文化」が違う、とはどういうことか：文化相対主義から
 - 6回 語られるものとしての「文化」
 - 7回 「文化」の学はいかに可能か？
- 第二部 語られる<沖縄>・語る<沖縄>：文化の政治性を問うために
- 8回 <沖縄>という場所と近代
 - 9回 <沖縄>の「文化」への視線：「日琉同祖」という物語
 - 10回 「詩の国・夢の国」という物語
 - 11回 「国語」と沖縄の桎梏
 - 12回 沖縄方言論争と<沖縄>の「文化」の位置
 - 13回 抗争する「文化」というアリーナ：「文化と政治」へ
 - 14回 まとめ
 - 15回 質問日

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポート... 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：ことばの不思議
- 第2回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第3回 連濁
- 第4回 鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 数量詞
- 第11回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第12回 日本語と英語の受動態
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業中の態度...10% 課題...25% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 問題提起、戦争の定義の難しさ
- 5回～6回 平和の定義、積極平和論
- 7回～8回 絶対平和主義(非暴力主義として)
- 9回～10回 絶対平和主義(反戦主義、日本の平和主義)
- 11回～13回 正戦論の登場
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われるが、本当にそうなのか？安易なイフの設定はたしかに禁物だが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるだろう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思う。なお、「歴史と政治」「歴史の読み方II」を受講していただいた方が、講義の理解はより深まります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)など。適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】
- 4回 もし、伊藤博文が暗殺されなかったら - 韓国併合回避の可能性はあったか？ - 【山県有朋】
- 5回 もし、明治天皇がもっと長生きしていたら - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】
- 6回 もし、シーメンス事件が発覚しなかったら？ - 大隈内閣と21カ条要求 - 【山本権兵衛】
- 7回 もし、原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 もし、加藤高明が急死しなかったら？ - 外交政策の安定化 - 【護憲三派内閣】
- 9回 もし、若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 もし、2・26事件が起こらなかったら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 もし、1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？(日独伊三国同盟)【ヒトラー】
- 12回 もし、鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？(太平洋戦争)【本土決戦】。
- 13回 もし、西郷隆盛が亡くならなかったら【西南戦争】【藩閥政府】。
- 14回 歴史にifは必要だ！
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10%、課題...10%、期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。1年生科目の「歴史と政治」を受講している方がわかりやすい。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されません。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族の再生 【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

現代家族の状況、家族の形成、再生の試みを紹介しながら今後の家族の行方を探り、家族の可能性、家族とともに生きることを考えてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-ガイダンス
- 2回 家族を見つめる①
- 3回 家族を見つめる②
- 4回 家族を見つめる③
- 5回 家族モデルを考える①
- 6回 家族モデルを考える②
- 7回 家族モデルを考える③
- 8回 家族の危機を回避する①
- 9回 家族の危機を回避する②
- 10回 家族の危機を回避する③
- 11回 家族の危機を回避する④
- 12回 家族の危機を回避する⑤
- 13回 家庭裁判所の利用を考える①
- 14回 家庭裁判所の利用を考える②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」をことさらに語るには、どのような効力があるのだろうか。誰が何時、何を「文化」と名づけて、どのように語り、どのような意味と価値を生み出したのか。そこにどのような政治的な効力があるのかをよみとり、「文化と政治」という問題を検討したい。

具体的には、①日本の国民国家形成期である明治期、②総力戦の体制を構築した昭和初期、そして③現代の文化財保護等における、「文化」という名づけと、多様な「資源化」の政治を検討する。

また講義期間中に、外部講師による講義で、日本以外のフィールドを扱うことを予定している。

ビジョン科目「人間と文化」を前提に講義するので「人間と文化」を履修していることが望ましい。

教科書 /Textbooks

必要な資料は講義中にプリントで配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 「文化」を語るとは？【文化】【国民国家】
- 2回～5回 国民国家・日本の形成と「文化」の政治 : 「美術」と「文学」という近代【明治期・日本】【内国勸業博覧会】【言文一致】【国民文学】
- 6回～9回 動員の政治と「文化」 : 大政翼賛会文化部の活動から【地方文化運動】
- 10回～13回 資源として「文化」・商品としての「文化」 【文化財保護行政】【観光】
- 14回 文化について学ぶとは
- 15回 まとめと質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート80% 授業内小レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科, 中溝 幸夫 / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼球運動研究の基礎知識：読みと眼球運動(1)：(中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているか：読みと眼球運動(2)：(中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか：言語活動の認知神経科学入門(中溝)
- 第5回 未定
- 第6回 ことばはどのように身につけられるのか：言語習得(漆原)
- 第7回 ことばはどのように失われるのか：脳科学と失語症・失文法(漆原)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子(日高)
- 第9回 特別講義(外部講師)
- 第10回 概念と言葉：概念におけるプロトタイプ効果など(ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か：隠喩論(ストラック)
- 第12回 両義性と仄めかし：アイコン性、phonaestemesなど(ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの：文法形式と意味の類像性(杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら？：ことばと思考・言語相対論(杉山)
- 第15回 まとめ：担当者によるパネル・ディスカッション(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% レポート...16%×5
5名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫って生きたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】。
- 第3回～第6回：異文化共存の方法、オリエンタリズムの克服方法【一元論的理解VS.多元論的理解】【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回～第12回：具体的事例「自閉症児者との共存・共生」
- 第13回～14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

1年次ビジョン科目「教養としての平和学」からさらに進んで、戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「教養としての平和学」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 安全保障とは何か
- 3回～6回 第1テーマ 20世紀の戦争I～世界大戦
 - A.戦争と平和(戦争を学ぶ必要性、戦争の定義、戦争と平和)
 - B.戦争の経歴(絶対主義時代の戦争、革命戦争、近代戦争)
 - C.両大戦の特徴(総力化、イデオロギー化、全面化)
 - D.戦争の変質(勢力均衡、アメリカの戦争観)
- 7回～8回 第2テーマ 20世紀の戦争II～核兵器の時代
 - A.原爆の出現(開発、完成、投下)
 - B.核兵器の種類と威力
 - C.核兵器出現に伴う変化
 - D.代理戦争(国際内戦)
 - E.核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 9回～10回 第3テーマ 21世紀の戦争I
 - A.冷戦終焉と「安全保障の終焉」?(「歴史の終焉?」「文明の衝突?」)
 - B.米国の脅威認識(911、国土安全保障戦略、ブッシュドクトリン、民主主義の拡大)
- 11回～14回 第4テーマ 21世紀の戦争II
 - A.「テロとの戦争」
 - B.破綻国家と人道的介入
 - C.正戦論の復権
 - D.対アフガニスタン武力行使の評価
 - E.イラク戦争
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。ただし、「教養としての平和学」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「戦争と人間」「国際社会と日本」などを受講しておく、さらに深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの近代に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【官僚制】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【物象化】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【分業体制】
- 6回 生活世界論のはじまり(1) 近代科学と現象学
- 7回 生活世界論のはじまり(2) フッサールの近代批判
- 8回 生活世界論のひろがり(1) アーレント、人と思想
- 9回 生活世界論のひろがり(2) アーレントの近代批判
- 10回 公私の区別とその起源(1) 古代ギリシャ概説
- 11回 公私の区別とその起源(2) 古代ギリシャにおける政治
- 12回 宗教の私事性と公的領域(1) 宗教弾圧と異端審問
- 13回 宗教の私事性と公的領域(2) 社会との確執
- 14回 宗教の私事性と公的領域(3) 信仰とプライバシー
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 課題...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容はハードだが、一年生向けの科目であることを考慮に入れ、分かりやすい解説に努めたい。聴講にあたっては、高校世界史の教科書を簡単に見直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共同体と身体 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体のイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。
この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを精神的な観点から考察しつつ、「生活世界」と「自己」のつながりをさらに掘り下げて分析する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本の身体のイメージI
- 3回 日本の身体のイメージII
- 4回 古代ギリシャの身体観I
- 5回 古代ギリシャの身体観II
- 6回 キリスト教共同体と身体I
- 7回 キリスト教共同体と身体II
- 8回 文学作品の中の身体
- 9回 近代社会の勃興と心身二元論
- 10回 現象学的身体論
- 11回 日本の身体のイメージIII
- 12回 現代社会と身体問題の変容I
- 13回 現代社会と身体問題の変容II
- 14回 現代社会と身体問題の変容III
- 15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...30% 期末レポート...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。事前の準備はとくに必要ないが、抽象的な議論が苦手な人には登録を勧めない。
なお、受講者の理解度をモニターすることで、内容を平易なものに変える可能性がある。その場合にはスケジュールどおりにならないことをあらかじめ了承願いたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的な視点からとらえながら、日々の生活を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【共同体感覚】
 - 3回 ストレスマネジメントとは。ストレスの概念を知る。【ストレスコーピング】
 - 4回 自分のストレスに気づく 【セルフカウンセリング】
 - 5回 ストレス対処法を習得する【心理療法】
 - 6回から11回 心の健康法とその主要理論 【積極的傾聴】
 リラクゼーションの視点から ・ 認知療法的視点から
 遊び・アートの視点から ・ 対人関係の視点から
 - 12回から13回 発達障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の運用について。青年期の発達課題の視点から。【同一性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 出席...40% 受講の姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的な視点からとらえながら、日々の生活を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【共同体感覚】
 - 3回 ストレスマネジメントとは。ストレスの概念を知る。【ストレスコーピング】
 - 4回 自分のストレスに気づく 【セルフカウンセリング】
 - 5回 ストレス対処法を習得する【心理療法】
 - 6回から11回 心の健康法とその主要理論 【積極的傾聴】
 リラクゼーションの視点から ・ 認知療法的視点から
 遊び・アートの視点から ・ 対人関係の視点から
 - 12回から13回 発達障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の運用について。青年期の発達課題の視点から。【同一性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 出席...40% 受講の姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス(心の健康)を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な人格を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
 - 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【とらわれ】
 - 3回～5回 人間の発達と自己形成【エリクソンの発達理論】
 - 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
 - 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
 - 11回～12回 ライフスタイルについて。ライフスタイルとは。ライフスタイル診断。【アドラー】
 - 13回～14回 ライフプランについて(仕事と遊びの心理学)。生活分析カウンセリング
キャリアプラン 【自然】【遊び】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 授業の出席...40% 授業参加の態度・姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習)レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習)レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウエイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウエイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習) ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義) ストレッチの理論
- 5回 (実習) ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義) ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習) 軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義) フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習) 球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習) 球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義) これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義) これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義) レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習) レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習) ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義) ストレッチの理論
- 5回 (実習) ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義) ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習) 軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義) フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習) 球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習) 球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義) これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義) これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義) レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習) レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・他 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 第 1 回 自己管理I総論【保健師】：自己管理に必要な青年期の心身両面からの問題を総論する。
- 第 2 回 防犯の心得【警察官】：被害にあわないための具体的な自己防衛法を学び生活に役立てる。
- 第 3 回 自己管理II体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す。
- 第 4 回 若者にもっとも大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的な栄養の知識を身につける。
- 第 5 回 歯と口の健康を保つセルフケア【歯科医師】：歯及び口腔のセルフケアを学び豊かな人生を送るための基礎を養う。
- 第 6 回 薬と健康【薬剤師】：薬の効果、サプリメントなど健康のための薬の知識を学ぶ。
- 第 7 回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ。
- 第 8 回 自己管理III心の健康【保健師】：心と身体の関係から起こる疾病の予防や対策を学ぶ。
- 第 9 回 健康な体と感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ。
- 第 10 回 救急法I【消防士】：救急法I、IIは講義と救急救命の実技を組み合わせて行う。
- 第 11 回 救急法II火災や自然発生災害時での身の守り方救急法などを学習する
- 第 12 回 障害とノーマラージュエーション【作業療法士】：障害者の自立生活を支援するための資源、サービス、情報など身近な事柄として紹介する。
- 第 13 回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害・ハラスメント防止などの知識と予防対策を学ぶ。
- 第 14 回 自己管理まとめ【保健師】：ポイント・記述などで総合的に理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

①出席：60% (出席と毎回のミニレポート) ②まとめ(ポイント・記述など)：40%、①②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布したレジュメをよく読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実と成長する秘訣 ③将来のヒントを学びます。講義全体のキーワードは「働くこと」「成長の秘訣」「将来のキャリア」です。

<進め方> 講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果> 将来の自分の進路を絞り込んでいる人は、どんな準備をすれば良いかが理解できます。将来の自分の進路がイメージできない人は、世の中の仕事の現実を知るチャンスです。

教科書 /Textbooks

なし。その都度資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～14回 プロフェッショナル人材の講演【働くこと】【成長の秘訣】【将来のキャリア】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業ごとのレポート60%、最終レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※第1回と最終回以外すべて社会人ゲストによる公演です(事情によりビデオになる場合あり)。
- ※講演する社会人が所属する企業や仕事に関して必ず予習をしてください。
- ※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。
- ※2009年度企業：ジェイコム北九州、安川電機、門司港ホテル、TOTOインフォム、コクヨ、山口銀行。2010年度は公務員や教員、起業家、大企業の第一線で活躍する女性、地元で家庭と両立する女性などにも来て頂こうと思っています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学論・学問論【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 /ONO NORIAKI / 法律学科, 矢田 俊文 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

これから大学生活を送る新入生に対し、大学とはなにか、大学で何を学び、新しい時代をどのように生き抜くべきかについて、真剣に考える機会を提供することを目的としている。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 「知の時代」と学問・大学
- 3回 戦後大学史 新制大学と学生急増の時代
- 4回 戦後大学史 18歳人口減少と大学改革の時代
- 5回 北九州市立大学の改革 中期計画と大学運営
- 6回 北九州市立大学の改革 教育改革1 学部学科再編
- 7回 北九州市立大学の改革 教育改革2 学生生活支援
- 8回 北九州市立大学の改革 地域貢献
- 9回 大学生活を始めるにあたって-大学生活から学んだもの-
- 10回 企業に入り社会人となって
- 11回 企業とは何か-企業経営から学んだこと-
- 12回 世界を知る
- 13回 世界から学ぶ
- 14回 社会人となるための心構え-新しい時代を生き抜くために-
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の感想文... 20% 総括レポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【規範の特性】【法の機能】【法の実在形式】【法源】【罪法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑法】【法の適用】【憲法と刑法の関係】【法の解釈】
- 6回 民事判例を読む①【判例】【先例】【認定事実】
- 7回 民事判例を読む②【判例研究の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 8回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 9回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 10回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 11回 民法の視点から社会を読む②【相続】【遺言】【失権】
- 12回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
- 【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 13回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 14回 民法と刑法の交錯する世界を読む【民事責任】【慰謝料】【制裁】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'10』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か【意味世界】、【解釈】
- 第2回 量的調査と質的調査【量的データ】、【質的データ】
- 第3回 調査と研究の進め方【記述の問い】、【説明の問い】
- 第4回 社会調査を企画する【個別面接調査】、【留置調査】、【郵送調査】
- 第5～8回 ワーディングと調査票の作成【ダブル・バーレル】、【キャリア・オーバー効果】、【パーソナル - インパーソナル】
- 第8～9回 サンプリング【母集団】、【標本】、【無作為抽出法】、【標本誤差】
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成【コーディング】、【カラム設計】、【データ・クリーニング】
- 第11回 分布と統計量【単純集計】、【代表値】、【分散】、【標準偏差】、【分位数】
- 第12回 検定の考え方【帰無仮説】、【第1種、第2種の誤り】
- 第13～14回 クロス表と相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」（1学期）と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(1)
- 3回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(2)
- 4回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(3)
- 5回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(4)
- 6回 サービスの基礎練習(1)
- 7回 サービスの基礎練習(2)
- 8回 ボレーやスマッシュの基礎練習(1)
- 9回 ボレーやスマッシュの基礎練習(2)
- 10回 ルール・戦術の説明
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 フライト練習(1) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 3回 フライト練習(2) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 4回 フライト練習(3) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 5回 サーブ練習<ショートサービス、ロングサービス>
- 6回 攻めと守りのコンビネーション練習(1)
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(2)
- 8回 ルール説明(1) <シングルス>
- 9回 ルール説明(2) <ダブルス>
- 10回 シングルスゲーム(1)
- 11回 シングルスゲーム(2)
- 12回 ダブルスゲーム(1)
- 13回 ダブルスゲーム(2)
- 14回 ダブルスゲーム(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バレーボールの基礎(1) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 3回 バレーボールの基礎(2) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 4回 バレーボールの基礎(3) <サーブ編>
- 5回 バレーボールの基礎(4) <サーブ編>
- 6回 バレーボールの基礎(5) <アタック編>
- 7回 バレーボールの基礎(6) <アタック編>
- 8回 バレーボールの基礎(7) <ルール編> ルールの習得
- 9回 バレーボールの応用(1) フォーメーション
- 10回 バレーボールの応用(2) ゲーム展開
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 基本技術(フライト)の学習(1)
- 4回 基本技術(フライト)の学習(2)
- 5回 基本技術(フライト)の学習(3)
- 6回 基本技術(サービス)の学習
- 7回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(1)
- 8回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(2)
- 9回 ルールの説明
- 10回 ゲームの練習
- 11回 リーグ戦形式の試合(1)
- 12回 リーグ戦形式の試合(2)
- 13回 リーグ戦形式の試合(3)
- 14回 リーグ戦形式の試合(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習 (フォアハンド・ バックハンド)
- 3回 フライトの基礎練習 (1) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 4回 フライトの基礎練習 (2) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 5回 フライトの基礎練習 (3) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 6回 フライトの基礎練習 (4) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 7回 サービスの基礎練習
- 8回 ラリーゲームでの応用練習 (クリアー・ ドロップ・ ヘアピンのコンビネーション)
- 9回 ルール・ 戦術の説明
- 10回 攻めと守りのコンビネーション練習
- 11回 シングルスゲーム (1)
- 12回 シングルスゲーム (2)
- 13回 ダブルスゲーム (3)
- 14回 ダブルスゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1、3対2) (1)
- 6回 応用練習 (2対1、3対2) (2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド、速攻など) (1)
- 10回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド、速攻など) (2)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム (2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム (3)
- 14回 ゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 基本的なインサイドステップのシュートパス練習
- 3回 トラッピングからのパス練習
- 4回 リフティング
- 5回 ミニゲーム (1) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 6回 ミニゲーム (2) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 7回 ミニゲーム (3) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 8回 ミニゲーム (4) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 9回 ルール説明
- 10回 ゲーム (1)
- 11回 ゲーム (2)
- 12回 ゲーム (3)
- 13回 ゲーム (4)
- 14回 ゲーム (5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、レクリエーションスポーツ種目も含め、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、受講上の注意
- 2回 バレーボール(1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン(1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール(1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス(2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目(1)
- 13回 選択種目(2)
- 14回 選択種目(3)
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
特定のテーマを設定し、それを調べ、読み、考え、議論し、書くという作業を通して、大学で学ぶための基礎的なスキルを習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks
受講希望者と相談の上、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
何をテーマにして、どのように進めるかは、基本的には受講生と相談の上で決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method
授業への参加(発表・コメント)50パーセント、期末レポート50パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
参加する姿勢を重視する。無断欠席は、他の参加者に迷惑がかかるので、厳禁する。無断欠席を一回でもした場合は、単位の取得を認めない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができない場合がありますので注意してください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	グループディスカッション (1)
2回	" (2)
3回	" (3)
4回	グループゲーム (1)
5回	" (2)
6回	自分自身を理解する
7回	自分自身を人に理解させること
8回	人を理解すること
9回	集団で克服していくトレーニング
10回	キャンプのオリエンテーション (1)
11回	" (2)
12回	" (3)
13回	" (4)
14回	" (5)
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50% 受講態度 ... 20% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の翌年度の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に検索してみてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。
* 教養基礎演習IIもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習II」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

参考までに、昨年度の「防衛セミナー」では、①陸自空挺部隊経験者兼災害派遣経験者(3佐)、②陸自イラク復興支援経験者兼現職募集課長(1佐)、③陸自海外大使館における防衛駐在官経験者兼現職地本本部長(1佐)、④空自春日基地司令(将補)、⑤海自下関基地隊司令(1佐)、⑥陸自イラク復興支援群長経験者兼現職幹部候補生学校長(将補)、などを招聘し、貴重なレクチャーをしていただいた。今年度は、上に述べたとおり、比較的若手と呼ぶ。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1～2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習II」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

特定のテーマを設定し、それを調べ、読み、考え、議論し、書くという作業を通して、大学で学ぶための基礎的なスキルを習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

受講希望者と相談の上、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

何をテーマにして、どのように進めるかは、基本的には受講生と相談の上で決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加(発表・コメント)50パーセント、期末レポート50パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加する姿勢を重視する。無断欠席は、他の参加者に迷惑がかかるので、厳禁する。無断欠席を一回でもした場合、単位の取得を認めない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 (1)
- 6回 ブルークターン (2)
- 7回 パラレルターン (3)
- 8回 ウデルン (4)
- 9回 学生自身によるスキー計画 (1) 場所
- 10回 " (2) 期間
- 11回 " (3) 金額
- 12回 " (4) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成
- 14回 " (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50% 受講態度 ... 20% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の翌年度の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に検索してみてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。
* 教養基礎演習Iもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いため、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習I」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks
 履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method
 毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AII」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

参考までに、昨年度の「防衛セミナー」では、①陸自空挺部隊経験者兼災害派遣経験者(3佐)、②陸自イラク復興支援経験者兼現職募集課長(1佐)、③陸自海外大使館における防衛駐在官経験者兼現職地本本部長(1佐)、④空自春日基地司令(将補)、⑤海自下関基地隊司令(1佐)、⑥陸自イラク復興支援群長経験者兼現職幹部候補生学校長(将補)、⑦陸自第40普通科連隊長兼小倉駐屯地司令(1佐)などを招聘し、貴重なレクチャーをしていただいた。今年度は、上に述べたとおり、比較的若手を呼ぶ。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1～2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になりたいかな、と思っている人は履修を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks

履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AI」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養演習AI」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養演習AI」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣、○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣、○中地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。可能な限り、教養演習BIIもあわせて受講するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks

履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BII」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

参考までに、昨年度の「防衛セミナー」では、①陸自空挺部隊経験者兼災害派遣経験者(3佐)、②陸自イラク復興支援経験者兼現職募集課長(1佐)、③陸自海外大使館における防衛駐在官経験者兼現職地本本部長(1佐)、④空自春日基地司令(将補)、⑤海自下関基地隊司令(1佐)、⑥陸自イラク復興支援群長経験者兼現職幹部候補生学校長(将補)、⑦陸自第40普通科連隊長兼小倉駐屯地司令(1佐)などを招聘し、貴重なレクチャーをしていただいた。今年度は、上に述べたとおり、比較的若手と呼ぶ。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1～2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する人は履修を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣、○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣、○中地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。可能な限り、教養演習BIもあわせて受講するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks
 履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method
 毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BI」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養演習BI」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養演習BI」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。演習全体のキーワード：「経験から学ぶ力」「主体性」「二人称的思考」

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

なし。その都度資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
第15回 まとめ ※【経験から学ぶ力】【主体性】【二人称的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※参加募集は夏休み前などに行います。なお、参加人数には制限があります。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は是非ご相談ください。
- ※2学期の履修登録の修正登録期間に忘れずに履修登録してください。
- ※期間限定プロジェクトを除き、翌年度前期の『プロジェクト演習II』も履修登録してください。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。各グループ自由に設定してください。
- ※教室も指定しませんが、空いていれば学生プラザのプロジェクトルームを使用してください。
- ※2009年度実績：オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、就活生応援マガジン「キャリアーナ」、JOB×HUNTER 2011、北Q企業大解剖-the movie-、Navy Wavy (ニューウエーブ北九州)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。演習全体のキーワード：「経験から学ぶ力」「主体性」「二人称的思考」

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

なし。その都度資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
第15回 まとめ ※【経験から学ぶ力】【主体性】【二人称的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※この演習を履修できるのは、原則2年次に『プロジェクト演習I』を履修した人です。ただし、オープンキャンパスなど期間限定のタイプは単独でも履修可能です。
- ※プロジェクトへ参加募集は掲示板に掲示します。なお、参加人数には制限があります。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。各グループ自由に設定してください。
- ※教室も指定しませんが、空いていれば学生プラザのプロジェクトルームを使用してください。
- ※2009年度実績：オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、就活生応援マガジン「キャリアーナ」、JOB×HUNTER 2011、北Q企業大解剖-the movie-、Navy Wavy (ニューウェーブ北九州)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。授業とあわせて以下の本をよんでほしい。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 ○『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第一講 「今西錦司と自然学」
- 二講 「私とあなたの自然学」
- 第三講 「バックミンスターフラーと自然学」
- 第四講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
- 第五講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
- 第六講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
- 第七講 「風の谷のナウシカの自然学」 第八講 「人の進化と自然学」
- 岩松
- 第九講 人々はどのように自然に親しんできたか - 自然の中の旅と観光
- 第十講 人々はどのように自然を観てきたか - 自然風景の感じ方
- 第十一講 人々はどのように自然を利用してきたか - 日本の竹文化史
- 第十二講 人々はどのように自然を利用していきけるか - 日本の竹産業と政策
- 第十三講 人々はどのように自然の中で暮らしているか - 日本の木造民家の生活
- 第十四講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか - 中国文化との比較
- 第十五講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

竹川 自分が生きている世界について野に出て考えてみたくなったか 50%
岩松 平常点&小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読んでほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

地球は今から約46億年前に誕生した。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。この授業では、現在の地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

丸山茂徳・磯崎行雄『生命と地球の歴史』岩波書店
川上紳一『生命と地球の共進化』日本放送出版協会NHKブックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回 生きている地球2【ウェゲナーと大陸移動説】
- 4回 地球惑星の起源と進化【太陽系の起源】
- 5回 水の惑星の誕生と地球生命の起源【生命の起源】
- 6回 目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 7回 凍りついた地球【全球凍結】
- 8回 生物進化史上最大の事変【カンブリア爆発】
- 9回 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%，ミニ課題・レポート：30%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミニ課題・レポートは提出期限を厳守のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 小松 佐穂子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

今現在，“心理学”の分野で明らかになっていることについて学ぶことを通して，自分や他者の“こころ”について考える。基本的に，心理学についての新たな知識の獲得を目指す，獲得した知識をふまえて，自ら，現代社会の問題に取り組み，考える態度を学んで欲しい。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【心理学】
- 2回 心理学の研究法【実験法】【観察法】【調査法】
- 3回 ものの見え方，感じ方(1)【知覚】
- 4回 ものの見え方，感じ方(2)
- 5回 学習のしくみ【条件づけ】【学習】
- 6回 人間の記憶のしくみ(1)【記憶】【認知】
- 7回 人間の記憶のしくみ(2)
- 8回 母と子の結びつき【愛着】
- 9回 対人コミュニケーション【感情】【表情】
- 10回 心の病【心身症】【神経症】
- 11回 気分のコントロール【うつ病】【認知のゆがみ】
- 12回 高齢化社会【中年期】【老年期】
- 13回 女性の社会進出に伴う生き方【アイデンティティ】
- 14回 こころの知能指数【情動性知能】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題)...30% ミニレポート...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思惟構造を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教についての理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要について
- 2回 宗教とはなにか？
- 3回 宗教の諸類型と世界の諸宗教
- 4回 一神教について1（一神教の発生）【ユダヤ教】
- 5回 一神教について2（キリスト教の成立）【キリスト教】【イスラム教】
- 6回 一神教と日本の宗教風土【牧畜文化】【稲作漁撈文化】【都市国家】
- 7回 仏教について1（インドの仏教）【シャカ】【上座部仏教】【大乘仏教】
- 8回 仏教について2（中国の仏教）【儒教】【道教】【殺生戒】
- 9回 仏教について3（日本の仏教）【本覚思想】【戒律】
- 10回 神道について1（古代の神道）【禊祓】【罪と穢】
- 11回 神道について2（神道と東アジアの宗教）【皇帝祭祀】【神祇令】
- 12回 日本の宗教風土1（神と仏）【神仏習合】【神仏隔離】
- 13回 日本の宗教風土2（祖先崇拜）【盆と彼岸】【寺檀制度】
- 14回 日本の宗教風土3（近代から現代へ）【神仏分離】【政教分離】【新宗教】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（レポート含む）...50% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布した資料は下読みしておくこと。
5～6回のレポートを課す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて展開されてきた主要な思想の流れを解説する。この時代が「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想に着目してゆく。これらの発想をヒントにして、自我の成立、他者との関係性を考え直すことが、本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存主義の思想(1) 概説
- 3回 実存主義の思想(2) キルケゴール
- 4回 実存主義の思想(3) ハイデガー
- 5回 実存主義の思想(4) サルトル
- 6回 実存主義の思想(5) メルロ=ポンティ
- 7回 中間テスト
- 8回 精神分析の思想(1) フロイト1
- 9回 精神分析の思想(2) フロイト2
- 10回 精神分析の思想(3) メラニー・クライン
- 11回 精神分析の思想(4) ジャック・ラカン
- 12回 フェミニズムの思想(1)
- 13回 フェミニズムの思想(2)
- 14回 フェミニズムの思想(3)
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※中間テストを受験していない者は期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第七回に中間テスト(第三回~第六回の確認テスト)を実施するので、受講希望者は遅くとも第三週目から出席しておく必要がある。このテストを受験していない者には単位を認めない。
また、授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペなど)が発覚したレポートは即座に零点となるので、十分に注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ものがたりと人間【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター, 木下 善貞 / 英米学科
/Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「ものがたり」とは、決して「文学」の問題に限られるものではない。神話から文芸、噂話さらには日々のニュースまで、言語をあやつる人間は、「ものがたり」という行為を通して出来事や<世界>、「歴史」を了解し、そしてそこで生きる「自己」像を創り上げてきた。つまり、「私」とは何か、という問いまで、「ものがたり」として存在していることを意味する。この科目は、人間の限界と可能性を、「ものがたり」をキーワードにしながら、文学、文化、歴史、心理、法学など多様な学の知を横断しながら考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

必要な資料等は、講義中にプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ものがたりとは何か (重信) 【語る】【語り手】
 - 2回～3回 ものがたりの生成 (重信) 【うわさ】
 - 4回～6回 ものがたりと歴史 (重信) 【物語文】
 - 7回 ものがたりと「落語」 (小野) 【声】【場】
 - 8回 ものがたりと「法律」 (小野) 【法廷】【声と説得】
 - 9回～10回 ものがたりに心理学から考える (税田) 【発達】
 - 11回～13回 ものがたりの論理 :文学テキストから (木下) 【第一の語り手】
 - 14回 まとめ :ものがたりの力 (重信)
 - 15回 質問日
- (以上はあくまでも予定であり、各回の講義タイトル、内容が変更される場合がある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語、授業途中の出入りを厳禁する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名
/Instructor

真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科, 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は二部構成となっており、前半では表象論の基礎的問題を扱い、後半では日本の近世までに制作された美術作品について扱う。
前半は、まず表象概念の説明をアニメ、演劇などをとりあげておこなう。そののちに、「戦争」というテーマのもとに銅像、語り芸、映画などの例をとりあげて、表象研究の意義について考える。
後半は、映像やアニメに日本の近世以前の美術作品が借用されている例を紹介する。どの場面にこういった作品が描き込まれているかを受講者に見出してもらい、それらの作品の概要について確認して行く。それによって、現代の我々の生活の中には、その気になれば、歴史的美術作品の断片が数多く見出せることを実感してもらう。前半は主に真鍋が、後半は主に五月女が担当する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回【表象論事始め】理論①
- 2回 理論②
- 3回 表象の分析① - 『ハウルの動く城』をとりあげて -
- 4回 表象の分析② - 『おくりびと』をとりあげて -
- 5回【テーマ研究】戦争と表象①
- 6回 戦争と表象②
- 7回 戦争と表象③
- 8回 前半のまとめ
- 9回【映像・アニメに見出せる日本の絵画】映像Aの出題編
- 10回 映像Aの解答編①
- 11回 映像Aの解答編②・映像Bの出題編
- 12回 映像Bの解答編・アニメAの出題編
- 13回 アニメAの解答編・アニメBの出題編
- 14回 アニメBの解答編
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 30% 中間・期末テスト ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前半においては、毎回コメントカードを記入して提出してもらう。
後半においては、毎回課題を出し、その次の回到回答を発表してもらうので、必ず予習が必要となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科, 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなののでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などとよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 語用論(山崎)
- 第5回 ことばと文化(山崎)
- 第6回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第7回 会話の規則(平野)
- 第8回 英語の方言・日本語の方言(平野)
- 第9回 ことばのバリエーション(平野)
- 第10回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第11回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第12回 人と機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第13回 コミュニケーション力(漆原)
- 第14回 予備日
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% レポート...20%×4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名
/Instructor

岩本 真理子 / 比較文化学科, 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科, 水本 弘文 / 比較文化学科
馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科, 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
										○	○

授業の概要 /Course Description

文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるだろうか。文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高い。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ、フランス語と生まれ変わることもある。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で日本語、英語、ドイツ語などで書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促す。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・詩とは何か
 - 2回 ドイツの詩
 - 3回 ドイツの詩
 - 4回 イギリスの詩
 - 5回 イギリスの詩
 - 6回 イギリスの詩
 - 7回 アメリカの詩
 - 8回 アメリカの詩
 - 9回 フランスの詩
 - 10回 フランスの警句とことわざ
 - 11回 言葉から形へ
 - 12回 言葉から形へ
 - 13回 日本の詩
 - 14回 日本の詩
 - 15回 まとめ
- (各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と人間【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
岩本 真理子 / 比較文化学科, 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「戦争」は、人類が抱え込んできた難問であり続けている。「獣」は人間のような過剰な殺戮をおこなわないという観察的事実から、過剰な殺戮・すなわち虐殺こそが人間の特色であるという見方も、不可能ではない。戦争とは、人間にとってどのような営みなのか、という根源的な問いを踏まえ、近代の総力戦以降、私たちはどのように戦争を遂行し、またどのような体験をしてきたのか、幅広く戦争という営みを見据えたい。そして人間にとっての戦争を、政治、文化、記憶と歴史そして哲学と倫理等の側面から多角的に検証し、戦争と共生のはざままで今日の我々が共有すべき問いについて考える。

教科書 /Textbooks

必要な資料はプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

今年度は、国際政治学・平和学(戸蒔)、政治・外交史(小林)、ドイツ文化/文学(岩本)、哲学・倫理学(伊原木)、民俗学・文化論(重信)など、異なった専門の教員がオムニバス講義を展開する予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート 80% 授業内小レポート 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植、着床前診断、中絶といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)、○平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)、○川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版](有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは何か ~ 本講義の構成と概説
- 第2回~第8回 「正義」の応用問題 ~ 生命倫理と法【安楽死・尊厳死】【着床前診断】【中絶】【脳死・臓器移植】
- 第9回~第13回 「現代正義論」【ロールズ】【ノジック】【共同体主義】【裁判員制度】
- 第14回~第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジユメの配布を基本とするが、ト・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社、2003年）
J・リンスほか『大統領制民主主義の失敗』（南窓社、2003年）
L・ダイヤモンドほか『シビリアン・コントロールとデモクラシー』（刀水書房、2006年）
中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞・グロバリゼーションとデモクラシー【第三の波】【市民社会】
- 第2 - 3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
- 第4 - 5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
- 第6 - 7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
- 第8 - 9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
- 第10 - 11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
- 第12 - 13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
- 第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席重視、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と出席などで総合評価
出席 10%、小テスト... 10% レポート(任意) 10% 試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジユメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

人権といえば特別なことというイメージを持つかもしれない。しかし、実際には気付かない、知らないというだけで自分自身の人権が侵害されていたり、無意識のうちに他者の人権を侵害していることがある。

本講義では、識字問題や在日外国人問題など様々な事例から、現存する人権課題とその社会的背景を考察する。そして、人権とは非常に身近で重要なものであるということを実感していただきたい。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所 発行）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に提示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回テーマを決め、ビデオ等を交えながら授業を行う。
出席確認と授業の理解を深めるため、毎回「感想」を書き込む用紙を配布する。

(【 】はキーワード)

- 1回 わたしにとっての人権
- 2回 人権の歴史(1)【近代革命】
- 3回 人権の歴史(2)【国連】
- 4回 人権概念の整理(1)【国家】【憲法】
- 5回 人権概念の整理(2)【国際人権】
- 6回 日本における人権課題(1)【部落問題】
- 7回 日本における人権課題(2)【冤罪】
- 8回 生活の中の人権(1)【ハンセン病】
- 9回 生活の中の人権(2)【平和】
- 10回 教育マイノリティの現状【識字】
- 11回 教育マイノリティの現状と課題【夜間中学】
- 12回 外国人の人権(1)【国籍】
- 13回 外国人の人権(2)【在日コリアン】
- 14回 海外における人権課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験と出席状況で評価する
出席 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

女性の名前に「美」が付くことが多いのはなぜか、工学部や法学部、経済学部に女子学生が少ないのはなぜか、子育ては母親の役割とされているのはなぜか、男女の賃金に差があるのはなぜか-そんな身の回りの「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。講義のキーワードは「ジェンダー」「ポリティクス」。

教科書 /Textbooks

伊藤公雄・樹村みのり・国信潤子『女性学・男性学-ジェンダー論入門』（有斐閣、2002/02、1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』岩波書店
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』明石書店
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 女であることの損・得 / 男であることの損・得【ジェンダー役割】【性の二重基準】
 - 2回 作られる<男らしさ><女らしさ>【男らしさ】【女らしさ】【メディア・リテラシー】
 - 3回 女性学って何?【女性の視点】【周縁化】【名前のない病】
 - 4回 あなたとわたし【ジェンダー】【セクシュアリティ】
 - 5回 ジェンダー・フリーな教育のために【隠れたカリキュラム】【ジェンダー・トラッキン グ】
 - 6回 恋愛の女性学・男性学【ロマンティック・ラブ・イデオロギー】【デートDV】
 - 7回 男性学って何?【男性の鏡】【自殺】【専業主夫】
 - 8回 ジェンダーと労働【賃金格差】【間接差別】【ワーク・ライフ・バランス】
 - 9回 花子さんの見た未来?【多様な生き方】【多様な働き方】【多様な家族】
 - 10回 多様な家族に向かって【近代家族】【婚姻制度】【選択的夫婦別姓】【婚外子差別】 【DV】
 - 11回 育児はだれのもの【母性愛神話】【三歳児神話】【育児休業法】
 - 12回 国際化のなかの女性問題・男性問題【グローバル化】【移住労働の女性化】【人身取引】
 - 13回 平和の思想と<男らしさ>【平和】【暴力】【軍事化】
 - 14回 ジェンダー・フリー社会の見取り図【男女共同参画社会】【国連女性差別撤廃条約】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席と授業中の積極的な発言...25%、ワークショップでのプレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

メディア表現、法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発表、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。
ワークショップでのプレゼンにはパワーポイント資料を用いるため、スキルを見つけておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 山本 光英 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科, 落合 俊行 / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 國武 英生 / 法律学科
 中山 布紗 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
 狭間 直樹 / 政策科学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年						
対象入学年度 /Year of School Entrance				1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
														○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、さまざまな極めて複雑な関係から成り立っている。我々は個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えなければならない。我々の生活が、およそ一人では成り立たない以上、他者との関係、すなわち、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係などさまざまな関係の中で成り立っていることを考えなければならない。他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルール、平たくいえばマナー（作法とってよい）を知ることが必要である。今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えるのが本講座の目的である。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第2回 人間社会とルール（マナーとルール、社会と規範、規範と法則、法と社会、法と道德の違いなど）（山本）
- 第3回 裁判とは何か（民事裁判、刑事裁判、行政裁判、裁判の関係者など）（岡本）
- 第4回 民事少額訴訟とは何か（小池）
- 第5回 基本的人権とは何か（基本的人権と公共の福祉、法の下での平等、プライバシーの権利、国民相互間の基本的人権など）（落合）
- 第6回 社会福祉の視点から（狭間）
- 第7回 雇用とは何か（雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了）（國武）
- 第8回 犯罪とは何か（構成要件、違法、責任、罪刑法定主義）（大杉）
- 第9回 契約とは何か（法律関係の主体、契約自由の原則、契約の成立と効力、契約の履行など）（矢澤）
- 第10回 財産とは何か（さまざまな財産、物権と債権、財産権の保障、財産権とその制約、財産権と公共の福祉など）（中山）
- 第11回 労働者の権利と生活の保障（労働法の出現、社会法の原理、労働法の内容、争議権と公共の福祉、社会保障など）（國武）
- 第12回 生存と環境保護（公害をめぐる法規制、環境保護政策の展開、循環型社会へ向けての法規制、個人・国境・世代をこえる環境問題など）（岡本）
- 第13回 国際社会と日本（二宮）
- 第14回 （予備日）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート（計3本）を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による（鉛筆書きは不可、パソコン・ワープロで書いたものは不可とする）。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

共生の作法【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北九州学【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしぶりや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、北九州の文化を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知と一と！？北九州？？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 小倉郷土会①
- 3回 小倉郷土会②
- 4回 小倉郷土会③
- 5回 北九州の人と文学
- 6回 北九州の方言
- 7回 北九州の民話・伝承
- 8回 北九州の祭り
- 9回 海峡花火
- 10回 門司港の観光
- 11回 小倉城
- 12回 上野焼
- 13回 北九州の食文化
- 14回 北九州の農業
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容、スケジュールは一応の予定です。ゲストの都合等により変更になることがあります。詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメは事前に配布するつもりですので、配布したレジュメをよく読んで受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生を果たした。欧米から日本的経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。曰く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

そうすると社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちが資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 重信 幸彦 / 基盤教育センター
加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・他 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

私達は、家族、近隣そして友人、さまざまに分類しうる人間関係のなかで生き、生かされて、そのなかで多様な葛藤や親密性を経験しながら、他者との関係性を築きあげている。この科目では、「社会」と私達が名づけている関係性を、「社会」という言葉を使わずに「つながり/つながる」をキーワードに、自己と他者との関わりを具体的に問うことからときほぐし、「社会とは何か」を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、ガイダンス 遊びの記憶から
- 2、あそぶ 1 / 教育学 (児玉)
- 3、あそぶ 2 / 民俗学 (重信)
- 4、あそぶ 3 / ワークショップ 序 いる・なごむ・つるむ (加倉井)
- 5、あそぶ 4 / ワークショップ 破 つくる・ためす・あそぶ (加倉井)
- 6、あそぶ 5 / ワークショップ 急 あそぶ・ふりかえる (加倉井)
- 7、あそぶ 6 まとめ (児玉・加倉井・重信)
- 8、たべる 1 / 民俗学 (重信)
- 9、たべる 2 / 食事風景の観察から (児玉・重信)
- 10、たべる 3 / ワークショップ ~五感と共感・分配と葛藤~ (児玉)
- 11、つながる 1 / 近場から街へ (児玉・重信)
- 12、特別講義 つながる 2 / 駄菓子屋という場 (松田道雄)
- 13、特別講義 つながる 3 / 関係性はもう一つの世界をつくる (松田道雄)
- 14、つながる 4 見えない者同志のつながりへ (児玉・加倉井・重信)
- 15、<つながりの人間学>へ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理』（山内友三郎・塚崎智監訳）昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値(5)【自己意識】、【F L O】
- 7回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 8回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 9回 現代における差別の問題(3)【種差別】
- 10回 現代における差別の問題(4)【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義(1)【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義(4)【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小レポート含む)...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 /Instructor
山本 光英 / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡 邦信 / 法律学科, 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
落合 俊行 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「個人と国家との関係」(落合)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を思想的に考察する。講義全体のキーワードは【ポストコロナリズムの思想課題】 【国際情勢】

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』（知の攻略 思想読本4）、作品社、2003（第3刷）、2000円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

関連文献は授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 2~3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか(1)(2) 【ポストコロナリズム】
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文 【ポスト構造主義】
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文 【カルチュラル・スタディーズ】 【植民地主義】
- 【帝国】
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文 【フェミニズム】
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文 【植民地近代性】 【ナショナリズム】
- 【グローバリズム】
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 轡田竜蔵論文 【オリエンタリズム】
- 11回 第III部の1、朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、趙慶喜論文 【アイデンティティ】 【ジェンダー】
- 13回 第III部の3、高橋哲哉論文 【過去の克服】
- 14回 第III部の4、野村浩や・鄭暎恵論文 【他者】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（2~3本）、授業参加への熱意など

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書のなかに登場する概念、理論を勉強しつつ、関連文献を自主的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
 1980年代後半以降、いわゆる「ニュー・カマーズ」とよばれる外国人労働者の流入が顕著になってきた。さらに、近年、その定住化の進展とともに、日本人(社会)と彼ら/彼女ら(の社会)との共生関係の構築が課題となってきた。こうした課題について考える基礎知識を提供する。
 授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
 ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察を加えたい。なお、民族関係論の基礎知識とともに、グローバルな現象をローカルな場(地域)において実証的に把握していく方法についても習得してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの紹介【グローバル化】、【エスニシティ】
- 2回 グローバル化の進展【国際労働力移動】
- 3回 出入国管理について【外国人登録】、【出入国管理】
- 4～5回 エスニシティに関する理論【道具主義】、【原初主義】、【分断労働市場】、【オリエンタリズム】
- 6～7回 日本の近代化と在日韓国・朝鮮人 - 歴史的把握【韓国併合】【植民地政策】
- 8～9回 在日韓国・朝鮮人と教育・職業【教育達成】、【社会移動】
- 10～11回 在日韓国・朝鮮人と日本の地域社会【生活構造】【生活史】
- 12～13回 日系ブラジル人と日本社会【顔の見えない定住化】、【非正規雇用】
- 14～15回 国家、自治体、NGOの役割【自治体の国際化施策】、【協働と対抗的相補性】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは、きわめて新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。民族・エスニシティ問題は、政治・経済・文化・社会のさまざまな領域にかかわるきわめて現代的な事柄であるが、同時に、それが現在にいたる歴史的経緯もまた重要である。この授業では、民族・エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「ネイション」と「エスニシティ」【多文化主義】【同化主義】
- 3回 イギリスにおける民族とエスニシティ(1)【連合王国】【ブリクストン暴動】
- 4回 イギリスにおける民族とエスニシティ(2)【スカーマン報告】【オルダム暴動】
- 5回 イギリスにおける民族とエスニシティ(3)【サッチャー主義】【ロンドン同時多発テロ】
- 6回 フランスにおける民族とエスニシティ(1)【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 7回 フランスにおける民族とエスニシティ(2)【ライシテ】【スカーフ問題】
- 8回 東南アジアからみた「ネイション」と「エスニシティ」：学説史の整理【ナショナリズム】
- 9回 インドネシア(1)：「多様性の中の統一」からこぼれ落ちる人々【華人】
- 10回 インドネシア(2)：「統一が分離独立か」の二者択一を超えて【アチェ】【災害】
【イスラム教】
- 11回 ベトナム：ナショナリズムの輝きと黄昏【ベトナム戦争】【難民】【ドイモイ】
- 12回 マレーシア(1)：半島部における「民族の政治」【プミブトラ】【バンサ・マレーシア】
- 13回 マレーシア(2)：サバにおける民族の生成【ボルネオ】【選挙】
- 14回 東南アジアの事例のまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（統治）」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|--------------------------------|-----------|-------------|
| 1回 「開発と統治」をはじめにあたって | | 担当：三宅 |
| 2回 民主化問題を考える視座（1） | 【民主化問題】 | 担当：伊野 |
| 3回 民主化問題を考える視座（2） | | 担当：伊野 |
| 4回 理論と現実—ミャンマーの民主化をめくって【ミャンマー】 | | 担当：伊野 |
| 5回 援助と民主主義：バングラデシュの事例 | 【援助】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| 6回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動 | 【バングラデシュ】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| | 【一村一品運動】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| 7回 途上国と一村一品運動 | | |
| 8回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化 | 【グラミン銀行】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| 9回 1970年代の韓国の開発と民主化運動 | 【韓国】 | 担当：申 |
| 10回 韓国：1990年代以降の民主化と環境政策 | 【環境政策】 | 担当：申 |
| 11回 滞在経験を通して感じた米国のガバナンス | 【米国】 | 担当：申 |
| 12回 地域社会から見たガバナンス | 【地域社会】 | 担当：三宅 |
| 13回 日本の子ども会を取り巻く環境 | 【子ども会】 | 担当：三宅 |
| 14回 もっと詳しく聴きたいアンコールアワー | | 担当：指名教員 |
| 15回 まとめ | | 担当：三宅 |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30 % 小課題の提出 ... 20 % 試験 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【昼】

担当者名
/Instructor

前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
										○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この科目では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを適宜配布するか、ホームページからのダウンロードを指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。
- 1回 グローバル化とは何か(定義、諸説、歴史)
 - 2～3回 日本・米国経済のグローバル化 【ブラザ合意】 【FTA】
 - 4～6回 EU経済とグローバル化 【ユーロ】 【安定成長協定】
 - 7～8回 アジア経済とグローバル化 【WTO】 【技術移転】
 - 9～10回 企業の国際的活動とグローバル化 【多国籍企業】 【直接投資】 【国際経営比較】
 - 11～13回 金融規制緩和とグローバル化 【証券化】 【為替制度】
 - 14回 グローバル化の展望と世界経済への影響 【貧富の差】 【経済発展】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布されるプリントの予習復習を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。
テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史
テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粋主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場
国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ
オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米国同時多発テロ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣 2006年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○勝田政治『廃藩置県-「明治国家」が生まれた日』(講談社)○長志珠絵『近代日本と国語ナシヨナリズム』(吉川弘文館)○鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
 - 2回 ガイダンス②「日本」という枠組み
 - 3回 県名を読む①【国郡制】と【幕藩制】
 - 4回 県名を読む②県名と県庁所在地
 - 5回 県名を読む③戊辰戦争
 - 6回 『国語元年』を読む(ビデオ)①文部省説諭
 - 7回 『国語元年』を読む(ビデオ)②統一話し言葉
 - 8回 『国語元年』を読む(ビデオ)③山の手言葉
 - 9回 『国語元年』を読む(ビデオ)④「日本語」から「【国語】」へ
 - 10回 『ラスト・サムライ』を読む
 - 11回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
 - 12回 『平家物語』を読む②【言葉戦】
 - 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
 - 14回 「桃太郎」と吉備王国
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生100名以上の場合は筆記試験100%、受講生100名以下の場合は授業レポート50%筆記試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

旧憲法下最長の政権担当者であり、日英同盟（1902）、日露戦争（1904 - 05）、韓国併合（1910）を行った桂太郎の生涯（1847 - 1913）を中心に、幕末から大正政変までの明治の政治史を概説します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『日本評伝選・桂太郎』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○伊藤之雄『日本評伝選・明治天皇』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 明治維新と桂太郎
- 第3回 ドイツ留学と陸軍の建設
- 第4回 日清戦争への道
- 第5回 政治への目覚め（陸相時代）
- 第6回 伊藤博文との対決（最初の組閣）
- 第7回 日英同盟と日露戦争
- 第8回 国家目標の模索
- 第9回 桂園体制
- 第10回 原敬との駆引き（2回目の組閣）
- 第12回 現状打破への衝動
- 第13回 明治という時代の終わり - 大正政変
- 第14回 桂太郎 - 明治国家の光と影
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1960年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、ベトナム、フランス、ドイツアメリカ、スペイン、といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2・3回 日本(小林)【60年安保】、【所得倍増政策】
- 第4・5回 ベトナム(伊野)【ベトナム戦争】
- 第6・7回 フランス(伊原木)【五月革命】
- 第8・9回 ドイツ(中道)【学生運動】
- 第10・11回 アメリカ(寺田)【公民権運動】
- 第12・13回 スペイン(岡住)【移民問題】
- 第14回 1970年代への展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20%小テスト...20%レポート...60%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「感想文」を提出してもらいます。一回でも未提出があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題を当時のニュースビデオなどを利用して解説してゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回用意するレジュメにしたがって授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 戦後改革
- 2回 経済復興
- 3回 産業政策の効果
- 4回 メインバンクシステム
- 5回 安定株主化
- 6回 重化学工業化
- 7回 農工間人口移動
- 8回 大衆消費社会
- 9回 エネルギー革命
- 10回 石油危機
- 11回 赤字国債
- 12回 サービス経済化と産業構造の変化
- 13回 債権大国
- 14回 アジアの成長と日本経済
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史 【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代史の通史的な理解を前提に、私たちの日常生活の歴史を、「都市と農村」という問題系から検討することを目的とする。特に資本主義の仕組みが日常生活を取り込み、消費中心の都市生活が進展する一方で、農村の衰微が問題になった1930年代の日本を舞台に講義する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。必要な資料はプリントで配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 「東京が攻めてくる」 【郊外化】
- 第一部 「モダン都市」という暮らし
- 2回 1、第三の空間・「街頭」という生活空間 【盛り場】
- 3回 2、「モボ」と「モガ」という仮面 【銀座】 【新宿】
- 4回 3、「スピード」という価値 【自動車】 【内燃機関】
- 5回 4、「見る」ことと欲望 【博覧会】 【勤工場】
- 6回 5、新たな欲望の装置：テパート 【陳列販売】 【百貨店】
- 7回 6、モダン都市の光と闇 【新中間層】 【細民】
- 第二部 「都市化」する農村の暮らし
- 8回 7、開発される個の欲望 【色を身に纏うこと】 【温かな食物を食うこと】
- 9回 8、消費と農村生活の矛盾 【現金収入】 【養蚕】
- 10回 9、商人の論理と農民の論理の狭間で 【資本主義】
- 11回 10、「親子心中」という問題 【解体される共同体】
- 12回 11、孤立する貧困 【家】 【新たな貧困】
- 13回 12、「都市」のなかの農村へ
- 14回 13、現代日本と「海」の向こうの農村
- 15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 ... 80% 授業中の小レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容・アウトラインに関するレジュメは一切配布しないので、よく聴きノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

もの与人間の歴史【昼】

担当者名
/Instructor

重信 幸彦 / 基盤教育センター, 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考資料等は、プリントにして授業中に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 内燃機関の近代 (重信)
- 1、自動車と出会った「明治ニッポン」【内国勲業博覧会】 / 2、内燃機関と身体【職人】
 - 3、自動車とカタストロフィ【交通事故】【交通法規】
- 第二部 都市と自動車 (重信)
- 4、フォードVSシボレー【都市化】 / 5、「円タク」とモダン都市【タクシー】
 - 6、加速化と均質化【身体】【時間】 / 7、自動車と都市の政治【交通統制】
- 第三部 フォーディズムの時代 (中野)
- 8、ヘンリー・フォードとアメリカ【フォード】 / 9、フォード・システムと大衆社会【フォーディズム】 / 10、ポスト・フォーディズムへ
- 第四部 「家庭」と自動車 (重信)
- 11、「家庭」という価値と自動車【新中間層】【中流幻想】 / 12、マイホームとマイカー【高度成長期】 / 13自動車というメディア【メディア】 / 14自動車と人間 / 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【昼】

担当者名
/Instructor

山崎 勇治 / 経済学科, 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
										○	○

授業の概要 /Course Description

講義の目的

歴史の面白さを、特定の人物を中心として学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

第1回 開講に当たって講義の目的と方針ならびに評価の方法について

第2回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか

第3回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史

第4回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領

第5回 「ラスト・サムライ山岡鉄舟と幕末・明治」「上杉鷹山と儒教的経営」

第6回 「保科正之と江戸幕府」「親鸞と平安・鎌倉時代」

第7回 「聖徳太子と飛鳥・奈良時代」

第8回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史

第9回 「ガンディ」の映画鑑賞

第10回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?

第11回 私のイギリス案内-ビュートリックス・ポターと湖水地方のナショナルトラスト運動

第12回 M.ケインズと世界恐慌-ロシア人バレリーナとの恋愛を中心に-

第13回 サッチャーとビッグバン

第14回 ベバリッジと福祉国家

第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席を重視する。具体的な方法については初日の開講時間に説明をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

1学期

授業形態 講義
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
										○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。
講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。
講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
										○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。
講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。
講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミング基礎 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
										○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。「データ処理」で学習した表計算の柔軟で高度な利用を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムについての理解を深めます。使用する言語は、VBA (Visual Basic for Application) です。この言語は、Excelに備わっており、Excelが利用できる環境であれば、VBAが利用できます。
講義全体のキーワードは、Excel、VBA、プログラミングです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Excel VBAの文字が入った書籍が各社から多く出版されています。この中の入門編や基礎編が参考になります。例：「10日でおぼえるExcel VBA入門教室」、瀬戸遥、翔泳社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 VBA、マクロ、プログラミングについて【VBA】
- 2回 マクロ記録でマクロを作成【マクロ】、【処理の自動化】
- 3回 VBAの基本構文【プロシジャ】、【オブジェクト】
- 4回 Visual Basic Editorの利用【ヘルプ】、【デバッグ】
- 5回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 6回 フローチャート1【構造化プログラミング】
- 7回 フローチャート2
- 8回 ブックとシートとセルの操作1【BOOK】、【SHEET】、【セル】
- 9回 ブックとシートとセルの操作2
- 10回 入力支援【入力画面】、【データ参照】
- 11回 制御構造【if文】
- 12回 制御構造【for文】
- 13回 制御構造【while文】
- 14回 制御構造【select文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に通講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとお講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミング基礎 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
										○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。「データ処理」で学習した表計算の柔軟で高度な利用を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムについての理解を深めます。使用する言語は、VBA (Visual Basic for Application) です。この言語は、Excelに備わっており、Excelが利用できる環境であれば、VBAが利用できます。
講義全体のキーワードは、Excel、VBA、プログラミングです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Excel VBAの文字が入った書籍が各社から多く出版されています。この中の入門編や基礎編が参考になります。例：「10日でおぼえるExcel VBA入門教室」、瀬戸遥、翔泳社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 VBA、マクロ、プログラミングについて【VBA】
- 2回 マクロ記録でマクロを作成【マクロ】、【処理の自動化】
- 3回 VBAの基本構文【プロシジャ】、【オブジェクト】
- 4回 Visual Basic Editorの利用【ヘルプ】、【デバッグ】
- 5回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 6回 フローチャート1【構造化プログラミング】
- 7回 フローチャート2
- 8回 ブックとシートとセルの操作1【BOOK】、【SHEET】、【セル】
- 9回 ブックとシートとセルの操作2
- 10回 入力支援【入力画面】、【データ参照】
- 11回 制御構造【if文】
- 12回 制御構造【for文】
- 13回 制御構造【while文】
- 14回 制御構造【select文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に通講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとお講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are listening, reading and writing English. The class is taught in English. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to communicate confidently when they spend time studying, working or traveling in English.

教科書 /Textbooks

- ① "Word Master Approach for the TOEIC Test" <Word Book> Published by Seibido
- ② "The Heinle Picture Dictionary English/日本語", Audio CDs and Interactive CD-ROM Published by Thomson
- ③ 『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』 朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course will help the students to increase their English vocabulary while listening to English speakers and looking at pictures in the text book. We will also use software to polish students' English ability.

- 1回 Introduction
- 2回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 3回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 4回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 5回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 6回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 7回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 8回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 9回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 10回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 11回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 12回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 13回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 14回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 15回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on five factors: attendance, effort in class, completion of homework, in-class assignment, tests and final examination. Complete breakdowns of score percentage for the final grade on the basis of your performance in classroom activities and on the results of tests. participation in class 15% completion of homework and in-class assignment 58% final exam 27%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The students must be prepared to listen to and memorize the sounds they hear on Audio CDs, as well as to be able to spell the words they hear. The students must also use Interactive CD-ROM for homework. Student must ask questions in class.
第1回目の授業にすべてのテキストを必ず持ってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

基本的読解力を養成すべく、日常会話で用いられる程度の英語を読んだり聞いたりしたときに、その内容を把握できるようになるために、ある状況下で用いられる表現や語彙を出来る限り覚えていく。読解力の度合いを測るためにTOEICで400点を獲得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

西田晴美 『Power Charge for the TOEIC Test』 (金星堂) ISBN978-4-7647-3874-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 英語の構造【品詞】
 - 2回 TOEIC Listening Part の練習【先読み】
 - 3回 TOEIC Reading Part の練習【速読】
 - 4回 Unit 1 Eating Out【文型】
 - 5回 Unit 1 Eating Out【語順】
 - 6回 Unit 2 Amusement【名詞】
 - 7回 Unit 2 Amusement【代名詞】
 - 8回 Unit 3 Daily Life【形容詞】【名詞】
 - 9回 Unit 3 Daily Life【副詞】【動詞】
 - 10回 Unit 4 Directions【動詞の活用】
 - 11回 Unit 4 Directions【分詞】【形容詞】
 - 12回 Unit 5 Travel【自動詞】【他動詞】
 - 13回 Unit 5 Travel【助動詞】
 - 14回 まとめ
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 確認テスト・課題...30% 期末試験...60%
(理由なく欠席を4回した場合、期末試験を受けることはできません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校入試レベルの文法書を準備しておくと同様です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

英語の総合的な力をつける。その目標のために、使用テキストに書かれているように、知的世界に遊ぶ、楽しみながら、考える英語力を目指し、内容ある雄弁な英語能力を向上させる。

教科書 /Textbooks

Debating Current Issues 意見の相違から見る社会問題 (成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキストの補助教材としてThe Japan Timesから短い記事をピックアップして配布

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Chapter 1 Cell Phone
- 2回 Chapter 1 Cell Phone
- 3回 Chapter 2 Student Evaluations
- 4回 Chapter 2 Student Evaluations
- 5回 Chapter 3 The Gender Gap
- 6回 Chapter 3 The Gender Gap
- 7回 Chapter 4 Manga and Anime
- 8回 Chapter 4 Manga and Anime
- 9回 Chapter 5 Global Food Shortage
- 10回 Chapter 5 Global Food Shortage
- 11回 Chapter 6 The Oil Crisis
- 12回 Chapter 6 The Oil Crisis
- 13回 Chapter 7 The True Spirit of the Olympics
- 14回 Chapter 7 The True Spirit of the Olympics
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30% 報告 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 新藤 照夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、具体的にある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

A Strategic Approach to the TOEIC Test Listening 西陰浩子 他 著 (成美堂)
Practical Tips for the TOEIC Test 杉田麻哉 他 著 (成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Getting Ready for a Business Trip/Chapter 1
- 3回 Departure/Chapter2
- 4回 On a Plane/Chapter3
- 5回 Arrival/Chapter4
- 6回 Meeting People/Chapter5
- 7回 Mini-test 1/Chapter6
- 8回 Making an Appointment/Chapter7
- 9回 At a Hotel/Chapter8
- 10回 TOEIC 模擬テスト
- 11回 Visiting a Company/Chapter9
- 12回 Small Talk (1)/Chapter10
- 13回 Negotiation/Chapter11
- 14回 Mini-Test 2/Chapter12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況 (小テスト含む) 40% + 学期末試験60%、TOEIC受験結果

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の準備を毎回十分にやること。
日頃から英語に親しむ・学習する機会を出来るだけ作ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。

教科書 /Textbooks

林 裕二著 Seize the main points of the TOEIC Test 「ターゲットとポイントで学ぶTOEIC テスト」(金星堂 ¥1995)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICと講義概要
- 2回 Unit1 基本時制
- 3回 Unit1
- 4回 Unit2 進行形・完了形
- 5回 読解プリント
- 6回 Unit2
- 7回 Unit3 名詞と主語と動詞の一致
- 8回 Unit3
- 9回 Unit3
- 10回 読解プリント
- 11回 Unit7 助動詞
- 12回 Unit7
- 13回 Unit7
- 14回 Unit7
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(20%) + 学期末試験(80%) × TOEIC・TOEFL受験結果

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 野上 良子 / NOGAMI YOSHIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律政群 1 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

実用的な英語運用能力を測定するテストとしてのTOEICの重要性は近年ますます高まってきている。TOEIC受験を奨励する企業も多く、就職対策としてスコア向上は急務である。そこで授業ではTOEIC対策として、テスト形式と連動して作成されたテキストを用い(目標500点)、基本的な語彙、文法をマスターしながら、リスニング・リーディング両方にわたる総合的な英語運用能力を養成していく。また1学期は、Reader Explorer 1という写真や図表が効果的に用いられているテキストを使い、世界の異なる文化に触れ、興味深いトピックを発見しながら、特にリーディングの強化をはかる。

教科書 /Textbooks

『新TOEICテスト全パート完全征服ガイド』(Conquering the TOEIC Test)
著者：河原真也・野上良子
発行所：朝日出版社 (ISBN978-4-255-15458-9)
Reading Explorer 1
発行所：センテージ ラーニングELT(ISBN978-1-4240-0637-3)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	TOEIC Ch.1 【写真描写問題】	Reading Explorer Unit 1: Amazing Animals
2回	TOEIC Ch.2 【応答問題】	R E Unit 2: Travel and Adventure
3回	TOEIC Ch.3 【会話問題】	R E Unit 3: Music and Festivals
4回	TOEIC Ch.4 【説明文問題】	R E Review 1
5回	TOEIC 【Practice for Listening Parts】	R E Unit 4: Other Worlds
6回	TOEIC Ch.5 【短文穴埋め問題】	R E Unit 5: City Living
7回	TOEIC Ch.6 【長文穴埋め問題】	R E Unit 6: Clothing and Fashion
8回	TOEIC Ch.7 【読解問題】	R E Review 2
9回	TOEIC 【Practice for Reading Parts】	R E Unit 7: Dinosaurs Come Alive
10回	TOEIC Ch.8 【Mini Test 1】	R E Unit 8: Stories and Storytellers
11回	TOEIC Ch.9 【Mini Test 2】	RE Unit 9: Tough Jobs
12回	TOEIC Ch.10 【Mini Test 3】	R E Review 3
13回	TOEIC Ch.11 【Mini Test 4】	R E Unit 10: Pyramid Builders
14回	TOEIC Ch.12 【Mini Test 5】	R E Unit 11: Legends of the Sea
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

本学の英語教育基本方針により、少なくとも年1回のTOEIC受験が義務付けられている。成績評価は「個別教員による評価」+「TOEIC到達度」からなる。個別教員の評価は、定期試験(50%)、小テストの成績(25%)、課題(25%)及び出席状況や授業中の態度などを総合的に判断してなされる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、単語を集中的に学習し、さらに実践的な問題(TOEIC Bridgeの問題)を解くことで、実用的な英語力の養成をはかります。

教科書 /Textbooks

『DUO[デュオ] セレクト』(出版社:アイシーピー)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方等の説明及び小テストの実施。
- 2回 テキスト「Section 1, 2, 3」
- 3回 テキスト「Section 4, 5, 6」
- 4回 テキスト「Section 7, 8, 9」
- 5回 テキスト「Section 10, 11, 12」
- 6回 テキスト「Section 13, 14, 15」
- 7回 テキスト「Section 16, 17, 18」
- 8回 復習
- 9回 テキスト「Section 19, 20, 21」
- 10回 テキスト「Section 22, 23, 24」
- 11回 テキスト「Section 25, 26, 27」
- 12回 テキスト「Section 28, 29, 30」
- 13回 テキスト「Section 31, 32, 33」
- 14回 復習
- 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)... 30% 課題(中テストを含む)... 30% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回小テストを実施するので、予習及び復習を必ずやってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、基礎文法を扱った教材を通して特にリスニング及びリーディング力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

石井隆之 他著 「Access to simple English」 成美堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実力テスト (必ず出席のこと)
- 2回 Chapter 1 基本時制
- 3回 Chapter 2 進行形
- 4回 Chapter 3 完了形
- 5回 Chapter 4 受動態
- 6回 Chapter 6 5文型
- 7回 Chapter17 助動詞
- 8回 Chapter 8 不定詞
- 9回 Chapter 9 動名詞
- 10回 Chpater10 分詞
- 11回 Chapter15 関係代名詞
- 12回 Chapter16 関係副詞
- 13回 Chapter18 仮定法
- 14回 Chapter22 比較
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト50% + 期末テスト50%
欠席2回まで。遅刻2回で1回で欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor Stephanie A.Houghton / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 実習
 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

This is an intercultural communication course that also develops the four English language skills of listening, speaking, reading and writing. The main objectives of this course are to help you understand intercultural interaction and overcome cultural difference in real life. In addition, you will study and take the TOEIC test independently to help you function effectively in international society using English after you have graduated.

教科書 /Textbooks

Teaching materials will be provided by the teacher.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Teacher and student self-introductions, and course overview
- 2 回 What is culture?
- 3 回 Power and achievement
- 4 回 Universalism and benevolence
- 5 回 Tradition, security and conformity
- 6 回 Stimulation, self-direction and hedonism
- 7 回 Speeches & discussion
- 8 回 Speeches & discussion
- 9 回 Speeches & discussion
- 10 回 Film Review (Cultural Difference)
- 11 回 Film Review (Cultural Difference)
- 12 回 Intercultural negotiation
- 13 回 Intercultural mediation
- 14 回 Stereotypes
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grade = Teacher grade + your actual TOEIC (TOEFL) score (balanced)
 TOEIC (TOEFL)スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

英語を読んだり、聞いたりしたときの理解度・読解度を高める。その到達度をみるためにTOEICで500点を獲得することを目的とする。ここでは特にTOEICで高得点を目指すため、その練習に重点を置く。

教科書 /Textbooks

西田晴美 『Power Charge for the TOEIC Test』 (金星堂) ISBN978-4-7647-3874-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 Unit 6 Advertising【時制】
- 2回 Unit 6【時制】【節】
- 3回 Unit 7 Personnel【イデオロム】
- 4回 Unit 8 Purchases【一致】【主語】【述語動詞】
- 5回 Unit 9 Office Work【不定詞】【名詞】【形容詞】【副詞】
- 6回 Unit 9 Office Work【動名詞】【名詞】
- 7回 Unit 9 Office Work【不定詞】【動名詞】【動詞】
- 8回 Unit 10 Employment【関係代名詞】【形容詞】【代名詞】
- 9回 Unit 10 Employment【関係副詞】【副詞】
- 10回 Unit 11 Business【接続詞】【節】
- 11回 Unit 11 Business【前置詞】【句】
- 12回 Unit 12 Finance & Banking【構文】
- 13回 Unit 13 Health & Welfare【仮定法】【時制】
- 14回 Unit 14 Computers & The Internet【仮定法】【時制】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題...30% 期末試験...60%
(理由なく欠席を4回した場合、期末試験を受けることはできません)
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校入試レベルの文法書を準備しておくこと役立ちます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

1学期で習得した英語力を、Japan Timesの記事を用いながらさらに伸ばしていく。記事の内容は様々で、政治・社会などや時には社説などを読み解くことで総合的な読解力をつける。

教科書 /Textbooks

主としてJapan Timesのオンラインニュース

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のやり方を説明し、2回目のプリント配布。
- 2回 Japan Timesの記事の内容を解釈。予め指名された学生によるまとめ(英文による)
- 3回 3回目から14回目までは2回目と同じ方法ですすめる。
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30% 報告 20% 期末試験 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 新藤 照夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、具体的にある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

A Strategic Approach to the TOEIC Test Listening 西陰浩子 他 著 (成美堂)
TOEIC Test: On Target <Book1> 大賀リ工 他 著 (南雲堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Sickness and Injury/Chapter 1
- 3回 Transportation/Chapter2
- 4回 Presentation/Chapter3
- 5回 Trouble/Chapter4
- 6回 Small Talk 2/Chapter5
- 7回 Mini-test 3/Chapter6
- 8回 At a Restaurant/Chapter7
- 9回 Making a Complaint/Chapter8
- 10回 TOEIC 模擬テスト
- 11回 Shopping/Chapter9
- 12回 Sightseeing/Chapter10
- 13回 Returning Home/Chapter11
- 14回 Mini-Test 4/Chapter12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況 (小テスト含む) 40% + 学期末試験60%、TOEIC受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の準備を毎回十分にやること。
日頃から英語に親しむ・学習する機会を出来るだけ作ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。

教科書 /Textbooks

林 裕二著 Seize the main points of the TOEIC Test 「ターゲットとポイントで学ぶTOEIC テスト」(金星堂 ¥1995)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICと講義概要
- 2回 Unit6 不定詞と動名詞
- 3回 Unit6
- 4回 Unit6
- 5回 読解プリント
- 6回 Unit6
- 7回 Unit6
- 8回 Unit6
- 9回 Unit6
- 10回 読解プリント
- 11回 Unit5 分詞
- 12回 Unit5
- 13回 Unit5
- 14回 Unit5
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(20%) + 学期末試験(80%) × TOEIC・TOEFL受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
Points of this class are listening, reading and writing English. The class is taught in English. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to communicate confidently when they spend time studying, working or traveling in English.

教科書 /Textbooks
① "Word Master Approach for the TOEIC Test" <Word Book> Published by Seibido
② "The Heinle Picture Dictionary English/日本語", Audio CDs and Interactive CD-ROM Published by Thomson
③ 『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』 朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
This course will help the students to increase their English vocabulary while listening to English speakers and looking at pictures in the text book. We will also use software to polish students' English ability.
1回 Introduction
2回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
3回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
4回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
5回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
6回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
7回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
8回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
9回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
10回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
11回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
12回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
13回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
14回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
15回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method
Grades will be based on five factors: attendance, effort in class, completion of homework, in-class assignment, tests and final examination. Complete breakdowns of score percentage for the final grade on the basis of your performance in classroom activities and on the results of tests. participation in class 15% completion of homework and in-class assignment 58% final exam 27%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
The students must be prepared to listen to and memorize the sounds they hear on Audio CDs, as well as to be able to spell the words they hear. The students must also use Interactive CD-ROM for homework. Student must ask questions in class.
第1回目の授業にすべてのテキストを必ず持ってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期に引き続き、単語を集中的に学習し、さらに実践的な問題(TOEICの問題)を解くことで実用的な英語力の養成をはかります。

教科書 /Textbooks

『DUO[デュオ]セレクト』(出版社:アイシーピー)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICの問題を利用した簡易テストを実施。
- 2回 テキスト「Section 1, 2, 3」
- 3回 テキスト「Section 4, 5, 6」
- 4回 テキスト「Section 7, 8, 9」
- 5回 テキスト「Section 10, 11, 12」
- 6回 テキスト「Section 13, 14, 15」
- 7回 テキスト「Section 16, 17, 18」
- 8回 復習
- 9回 テキスト「Section 19, 20, 21」
- 10回 テキスト「Section 22, 23, 24」
- 11回 テキスト「Section 25, 26, 27」
- 12回 テキスト「Section 28, 29, 30」
- 13回 テキスト「Section 31, 32, 33」
- 14回 復習
- 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)... 30% 課題(中テストを含む)... 30% 期末試験... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回小テストを実施するので、予習及び復習をやってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEIC問題を扱った教材を通して、特にリスニング及びリーディング力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

寺西雅之 他著「TOEIC Test Success」 南雲堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテストを受験する学生は、授業とは別に個人のスコアにあった問題集で自習することを勧める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実力テスト (必ず出席のこと)
- 2回 Lesson 1 English Studies
- 3回 Lesson 2 Scheduling and Planning
- 4回 Lesson 3 English Language Proficiency Tests and Business
- 5回 Lesson 4 Dating, Relationships, and Advice
- 6回 Lesson 5 Music and Style
- 7回 Lesson 6 Jobs and Employment
- 8回 Lesson 7 Health and Fitness
- 9回 Lesson 8 Finding Purpose and Setting Life Goals
- 10回 Lesson 9 Money and Happiness
- 11回 Lesson 10 Travel and Adventure
- 12回 Lesson 11 Movies and Preferences
- 13回 Lesson 12 Museums and Culture
- 14回 Lesson 13 Disabilities and Access
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト50% + 期末テスト50%
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業予習を必ずしてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律政群 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

Basic communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation and Introductions
- 2 回 Text Unit 2 "Meeting People"
- 3 回 Text Unit 3 "Around the World"
- 4 回 Text Unit 4 "Setting Up a Home Office"
- 5 回 Text Unit 5 "Favorite Things"
- 6 回 Text Unit 6 "Interesting Places"
- 7 回 Text Unit 7 "Office...or Living Room?"
- 8 回 Text Unit 9 "The Collectors"
- 9 回 Text Unit 10 "The Modern World"
- 1 0 回 Game Day!
- 1 1 回 Text Unit 11 "Traveling"
- 1 2 回 Text Unit 12 "Shopping"
- 1 3 回 Text Unit 14 "Job Exchange"
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are reading and discussing essays. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors.

教科書 /Textbooks

All written materials will be furnished by the teacher. Written materials for the next class will handed to student by the teacher at the end of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 "Essay - 1 Under the Blossoms By Kaori Shoji
- "
- 第3回 "Essay - 2 The Edo Spirit By Kaori Shoji
- "
- 第4回 "Essay - 3 Tough to Swallow By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第5回 "Essay - 4 Caveat Emptor By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第6回 "Essay - 5 I will survive By Anita Lee
- "
- 第7回 "Essay - 6 Going on ten ... By Anita Lee
- "
- 第8回 "Essay - 7 Honing Appreciation By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第9回 "Essay - 8 Leaving it all behind By Samantha Loong
- "
- 第10回 "Essay - 9 The Halloween Exorcise Plan By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第11回 "Essay - 10 Promoting reading By Joel Assogba
- "
- 第12回 "Essay - 11 Abandoned buildings By Samantha Loong
- "
- 第13回 "Essay - 12 History, is it worth it? By Garry Bassin
- "
- 第14回 "Essay - 13 No ifs, ands, or butts By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor Stephanie A.Houghton / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

This is an intercultural communication course that also develops the four English language skills of listening, speaking, reading and writing. The main objectives of this course are to help you understand intercultural interaction and overcome cultural difference in real life.

教科書 /Textbooks

Identity by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka and Miyuki Iida. Oxford University Press.
ISBN: 0-19-438574-4 (2003年10月)、2439 円 (当時)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Teacher and student self-introductions, and course overview
- 2 回 Identity
- 3 回 Identity
- 4 回 Values
- 5 回 Values
- 6 回 Culture Shock
- 7 回 Culture Shock
- 8 回 Culture in Language
- 9 回 Culture in Language
- 1 0 回 Film Review (Cultural Difference)
- 1 1 回 Film Review (Cultural Difference)
- 1 2 回 Group Work: Discussion Skills
- 1 3 回 Body Language and Customs
- 1 4 回 Body Language and Customs (make-up class)
- 1 5 回 Review (make-up class)

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking Ability 50% Writing Ability 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名
/Instructor

アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義・他
/Class Format

クラス 律政群 1 - D
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
										○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop critical thinking and self-expression by discussing a wide variety of personal and social issues.

教科書 /Textbooks

Day, Richard et al. Impact Issues 1. Pearson Longam. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to course.
- 2回 Unit 1 The Guy with Green Hair. Talking about yourself.
- 3回 Unit 2 The Shoplifter. Difficult experiences.
- 4回 Unit 3 I'm not addicted. Online life.
- 5回 Review
- 6回 Unit 4 Beauty Contest. Big accomplishments.
- 7回 Unit 5 Who Pays? Rules for dating and gender roles.
- 8回 Unit 6 Saying "I Love You." Expressing feelings openly.
- 9回 Review
- 10回 Unit 7 Family Values. Is it always important to tell the truth?
- 11回 Unit 8 Cyber Love. Relationship values.
- 12回 Unit 9 A Letter from Grandma. Staying in touch.
- 13回 Unit 10 Fan Worship. Obsessions.
- 14回 Review
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Tests 30% Assignments 40% Term exam 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Before each lesson students must read the textbook unit and become familiar with the vocabulary. Students may ask about unfamiliar expressions in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students will learn English to help them travel abroad. Listening and speaking are important components of the course. There will be many opportunities to practise the target language and get a good understanding of what is expected when travelling abroad. Hopefully this course will give students the confidence to travel later in life.

教科書 /Textbooks

Passport: Second Edition LEVEL 2 by Angela Buckingham and Lewis Lansford (published by Oxford university press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction
- 第2回 Would you like beef or fish?
- 第3回 Can I have your passport, please?
- 第4回 Do you have any vacancies?
- 第5回 Go straight along Seventh Avenue
- 第6回 Out and About 1: Sightseeing
- 第7回 Do you mind if I watch TV?
- 第8回 How do you feel?
- 第9回 Are you free this weekend?
- 第10回 Are you ready to order?
- 第11回 My father works in a bank.
- 第12回 Out and About 2: Eating Out
- 第13回 Important expressions and vocabulary review
- 第14回 Summary and exam guidance
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義・他

クラス 律政群 1 - F
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
										○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance =50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律政群 1 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

Development of practical communication skills through study of various English materials. Keywords for the course: Communicate, make friends, have fun.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (Pre-Intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Orientation
- 2 回 Timed English Speeches and Q&A sessions.
- 3 回 Unit 1 and discussion in English
- 4 回 Unit 2 and discussion in English
- 5 回 Presentations in class
- 6 回 Unit 3 and discussion in English
- 7 回 Unit 4 and discussion in English
- 8 回 Unit 5 and discussion in English
- 9 回 Presentations in class
- 1 0 回 Unit 6 and discussion in English
- 1 1 回 Unit 7 and discussion in English
- 1 2 回 Unit 8 and discussion in English
- 1 3 回 Presentations in class
- 1 4 回 End of semester review
- 1 5 回 Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance ... 30% Homework ... 30% Examination ...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : Readingの向上をめざす。

教科書 /Textbooks

“British Life Today : An Introduction” 南雲堂
TOEIC : プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (授業の進め方、プリントによるListening演習)
- 2回 授業前半 : TOEIC演習 : Chapter 1 から順次進めていく。
授業後半 : Unit 1 から順次進めていく。
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ... 30% 平常の学習状況 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 律政群 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

Basic communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer
- 2 回 Text Unit 15 “Family”
- 3 回 Text Unit 16 “In a Cafe”
- 4 回 Text Unit 17 “Hurricane”
- 5 回 Text Unit 18 “Memories”
- 6 回 Text Unit 19 “A Day in the Life of...”
- 7 回 Text Unit 20 “Love at First Sight?”
- 8 回 Text Unit 22 “It’s on the Right”
- 9 回 Text Unit 23 “Big Plans”
- 1 0 回 Christmas Lesson!
- 1 1 回 Text Unit 24 “A New Year”
- 1 2 回 Text Unit 26 “North and South”
- 1 3 回 Text Unit 27 “The Best Food in Town”
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are reading and discussing essays. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors.

教科書 /Textbooks

All written materials will be furnished by the teacher. Written materials for the next class will handed to student by the teacher at the end of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 "Essay - 1 Earthquake Weather By Samantha Loong
- "
- 第3回 "Essay - 2 Enjoy Every Sandwich By Steve Ford
- "
- 第4回 "Essay - 3 Summer Preserves By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第5回 "Essay - 4 The Island Monologues By Garry Bassin
- "
- 第6回 "Essay - 5 It's tough being a man, but it's a whole new ball game By Kaori Shoji
- "
- 第7回 "Essay - 6 Thriller By Kit Pancoast Nagamur
- "
- 第8回 "Essay - 7 Dialect Diversity By Samantha Loong
- "
- 第9回 "Essay - 8 Fear of the Unknown By Garry Bassin
- "
- 第10回 "Essay - 9 Flee! Fly! Flu! By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第11回 "Essay - 10 The Birds By Garry Bassin
- "
- 第12回 "Essay - 11 Blowing smoke By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第13回 "Essay - 12 Don't Kill the Messenger By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第14回 "Essay - 13 Restore, Not Raze By Karen Severns
- "
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【昼】

担当者名 /Instructor Stephanie A.Houghton / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

This is an intercultural communication course that also develops the four English language skills of listening, speaking, reading and writing. The main objectives of this course are to help you understand intercultural interaction and overcome cultural difference in real life.

教科書 /Textbooks

Identity by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka and Miyuki Iida. Oxford University Press.
ISBN: 0-19-438574-4 (2003年10月)、2439円(当時)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Teacher and student self-introductions, and course overview
- 2回 Individualism
- 3回 Individualism
- 4回 Politeness
- 5回 Politeness
- 6回 Communication Styles
- 7回 Communication Styles
- 8回 Gender and Culture
- 9回 Gender and Culture
- 10回 Film Review (Cultural Difference)
- 11回 Film Review (Cultural Difference)
- 12回 Group Work: Discussion Skills
- 13回 Diversity
- 14回 Diversity
- 15回 Review (make-up class)

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking Ability 50% Writing Ability 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop critical thinking and self-expression by discussing a wide variety of personal and social issues.

教科書 /Textbooks

Day, Richard et al. Impact Issues 1. Pearson Longam. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 First Semester Review.
- 2回 Unit 11 Pet Peeve. Bad experiences.
- 3回 Unit 12 Close Your Eyes and See. Disabilities.
- 4回 Unit 13 Will Children Save the Earth? Environmental problems.
- 5回 Review
- 6回 Unit 14 Get a Job! Life goals.
- 7回 Unit 15 To Tell or Not To Tell. Reasons and excuses.
- 8回 Unit 16 The Dream. The meaning of dreams.
- 9回 Review
- 10回 Unit 17 To Have or Have Not. Having children.
- 11回 Unit 18 Are Humans Smart?
- 12回 Unit 19 Cloning Cyndi. For and against cloning.
- 13回 Unit 20 Why Learn English?
- 14回 Review
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Tests 30% Assignments 40% Term exam 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Before each lesson students must read the textbook unit and become familiar with the vocabulary. Students may ask about unfamiliar expressions in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students will learn English to help them travel abroad. Listening and speaking are important components of the course. There will be many opportunities to practise the target language and get a good understanding of what is expected when travelling abroad. Hopefully this course will give students the confidence to travel later in life.

教科書 /Textbooks

Passport: Second Edition LEVEL 2 by Angela Buckingham and Lewis Lansford (published by Oxford university press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course objectives and a progress review
- 第2回 What's your favourite food?
- 第3回 What would you like to drink?
- 第4回 I won't be home for lunch today.
- 第5回 Could you tell me when we'll there please?
- 第6回 How would you like to pay?
- 第7回 Out and About 3: Getting around
- 第8回 Can I send this airmail?
- 第9回 What time does the show start?
- 第10回 Where did you lose did?
- 第11回 Goodbye and thanks!
- 第12回 How many bags do you have?
- 第13回 Important expressions and vocabulary review
- 第14回 Summary and exam guidance
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義・他
クラス /Class: 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語III). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques
- Week 8 Control Techniques
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting
- Week 11 Charting
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 律政群 1 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

Development of practical communication skills through study of various English materials. Keywords for the course: Communicate, make friends, have fun.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (Pre-Intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Timed Speeches and Q&A sessions
- 2 回 Unit 9 and discussion in English
- 3 回 Unit 10 and discussion in English
- 4 回 Unit 11 and discussion in English
- 5 回 Presentations in class
- 6 回 Unit 12 and discussion in English
- 7 回 Unit 13 and discussion in English
- 8 回 Unit 14 and discussion in English
- 9 回 Presentations in class
- 1 0 回 Unit 15 and discussion in English
- 1 1 回 Unit 16 and discussion in English
- 1 2 回 Unit 17 and discussion in English
- 1 3 回 Presentations in class
- 1 4 回 End of semester review
- 1 5 回 Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance ... 30% Homework ... 30% Examination ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : Readingの向上をめざす。

教科書 /Textbooks

“British Life Today : An Introduction” 南雲堂
TOEIC : プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
授業前半 : TOEIC演習 : Chapter 1 から順次進めていく。
授業後半 : Reading : Unit 1から順次進めていく。
- 2回
3回
4回
5回
6回
7回
8回
9回
10回
11回
12回
13回
14回
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ... 30% 平常の学習状況 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：法律と文化
ねらい：① 英語教材を通して、法律と文化を考える
② TOEICなどに必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の進め方・ Unit 1
第2回 Unit 2
第3回 Unit 3
第4回 Unit 4
第5回 Unit 5
第6回 Unit 6
第7回 Unit 7
第8回 Unit 8
第9回 Unit 9
第10回 Unit 10
第11回 Unit 11
第12回 Unit 12
第13回 Unit 13
第14回 Unit 14
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業への参加度...15% 期末試験...80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本コースではCIA Fact Book等のデータをもとに編集されたテキストを読む。環境問題、人口問題など現代社会が抱える問題を英語で読んでいく。また読むだけでなく、そこで使われている表現や語彙を習得し、使える（アウトプット）ように「トレーニング」していく。TOEIC対策も行う。

教科書 /Textbooks

『A World of Change on the Web 変貌する世界』 Setsuko Watanabe他、南雲堂。
『Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2 新TOEIC Test文法・リーディング対策中級問題集』 David E. Bramley / 河合忠仁著、松柏社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション (成績評価の説明、予習の仕方、授業の進め方等)
- 2回 Unit 1 Ethnic Stereotypes
- 3回 Unit 2 Endangered Species 1
- 4回 Unit 3 Endangered Species 2
- 5回 Unit 4 Modern Masters of Art
- 6回 Unit 5 Champions of Peace
- 7回 Unit 6 Myspace and Wikipedia
- 8回 Unit 7 Champions of Charity
- 9回 Unit 8 Global Warming
- 10回 Unit 9 Polar Bears on Thin Ice
- 11回 Unit 10 Over Population
- 12回 Unit 11 An Era of Adoption?
- 13回 Unit 12 Are Diamonds Really a Girl's Best Friend?
- 14回 Unit 13 Gambling around the Globe
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) ... 50%、 学期末試験 ... 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定した方法で予習をしてくること。必ず辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。

教科書 /Textbooks

林 裕二著 Seize the main points of the TOEIC Test 「ターゲットとポイントで学ぶTOEIC テスト」(金星堂 ¥1995)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICと講義概要
- 2回 Unit1 基本時制
- 3回 Unit1
- 4回 Unit2 進行形・完了形
- 5回 読解プリント
- 6回 Unit2
- 7回 Unit3 名詞と主語と動詞の一致
- 8回 Unit3
- 9回 Unit3
- 10回 読解プリント
- 11回 Unit7 助動詞
- 12回 Unit7
- 13回 Unit7
- 14回 Unit7
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(20%) + 学期末試験(80%) × TOEIC・TOEFL受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 律政群2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の四技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

Successful Keys To the ToEIC Test 1 by Kirihara Shoten

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 単語のテスト 2 . Listening 3 . 読解。

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 1 0 % 試験 ... 9 0 %

4 回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語のテストの準備 C D を聞いて、Self Study Quiz の予習をしてくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律政群2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
(1) 英語のReading及びListeningの能力を養う。
(2) 英語の資格試験に必要な文法事項を学習する。

教科書 /Textbooks

How to Receive a Better Score for the New TOEIC Test (松柏社)、2008年4月
「新TOEICテスト全パート得点のコツをレッスン」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集 Vol.3 (発行：財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 1 類似音、語彙、ビジネスレター
- 第3回 Chapter 2 Yes/No Question、語彙、記事
- 第4回 Chapter 3 プライベートな会話、品詞、広告
- 第5回 Chapter 4 部分的不一致、品詞、通知、告知
- 第6回 Chapter 5 Wh-questions、関係詞、図表
- 第7回 Chapter 6 ビジネス上の会話、関係詞、e-mail
- 第8回 Chapter 7 公共アナウンス、時制、ビジネスレター
- 第9回 Chapter 8 間接疑問文、時制、記事
- 第10回 Chapter 9 他人同士の会話、倒置構文、広告
- 第11回 Chapter 10 商業案内、倒置構文、通知、告知
- 第12回 Economic Growth
- 第13回 Automobile Society
- 第14回 小テスト (100)
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 小テスト、レポート (20%)
 - ・ 出席、授業参加 (20%)
 - ・ 期末考査 (60%)
- 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

以下の5項目に目標を設定してTOEICのスコアアップを目指す。
 1. 語彙を増やす 2. リスニング力を強化する 3. 文法、語法の知識を身につける
 4. 速読の能力を高める 5. 出題傾向を把握し、解答のコツを身につける

教科書 /Textbooks

“Total Strategy for the TOEIC Test” by T. Ishii et al. (成美堂)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Computers and Society
- 3回 Business Transaction
- 4回 At the Office
- 5回 Cars and Society
- 6回 Eating and Drinking
- 7回 Shopping
- 8回 Entertainment
- 9回 Accidents & Crimes
- 10回 Teaching & Learning
- 11回 Finance and Banks
- 12回 Economy and Industry
- 13回 Geography and Travels
- 14回 Weather and Climate
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)... 50%、 期末試験... 50%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に小テストや予習範囲等について説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEIC問題を扱った教材を通して、特にリスニング及びリーディング力の向上を目指す。1学期は、TOEICスコア500点を目標とする。

教科書 /Textbooks

田中清美 著 「Effective Approaches to the TOEIC Test」 南雲堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大量に問題が出題されるTOEICテストで目標スコアを確実に取得する実力をつけるために、授業で使用するテキストとは別にTOEIC問題をレベル別に扱った問題集(スコア500~レベル)で自己学習することを勧める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実力テスト(必ず出席のこと)
- 2回 Unit 1 ~2 各パート問題
- 3回 Unit 3 ~4 各パート問題
- 4回 Unit 5 ~6 各パート問題
- 5回 Unit 7 ~8 各パート問題
- 6回 Unit 9 ~10 各パート問題
- 7回 Unit 11 ~12 各パート問題
- 8回 Unit 13 ~14 各パート問題
- 9回 Unit 15 ~16 各パート問題
- 10回 Unit 17 ~18 各パート問題
- 11回 Unit 19 ~20 各パート問題
- 12回 TOEIC 問題を扱ったプリント配布
- 13回 TOEIC 問題を扱ったプリント配布
- 14回 TOEIC 問題を扱ったプリント配布
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト40% + 期末テスト50% + TOEICスコア500点以上10%
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。TOEIC400点未満単位取得不可。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：政治と文化
ねらい：① 英語教材を通して、政治と文化を考える
② TOEICなどに必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方・ Unit 1
- 第2回 Unit 2
- 第3回 Unit 3
- 第4回 Unit 4
- 第5回 Unit 5
- 第6回 Unit 6
- 第7回 Unit 7
- 第8回 Unit 8
- 第9回 Unit 9
- 第10回 Unit 10
- 第11回 Unit 11
- 第12回 Unit 12
- 第13回 Unit 13
- 第14回 Unit 14
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業への参加度...15% 期末試験...80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政群 2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本コースでは前期と同じテキストを7回目まで読んでいく。それ以降は英字新聞を読み進めていく。また読むだけではなく、そこで使われている表現や語彙を習得し、使える(アウトプット)ように「トレーニング」していく。TOEIC対策も行う。

教科書 /Textbooks

『A World of Change on the Web 変貌する世界』 Setsuko Watanabe他、南雲堂。
『Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2 新TOEIC Test文法・リーディング対策中級問題集』 David E. Bramley / 河合忠仁著、松柏社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(成績評価の説明、予習の仕方、授業の進め方等)
- 2回 Unit 14 Our Bodies and Obesity
- 3回 Unit 15 Growing Old—Living Long
- 4回 Unit 16 Ever—Changing Energy
- 5回 Unit 17 The Natural Way—Medicine and Trade
- 6回 Unit 18 Copyright—What Are the Rules?
- 7回 Unit 19 Veg—Out!
- 8回 Unit 20 HIV/ AIDS around the World
- 9回 英字新聞の読み方: 見出し、パラグラフの構成
- 10回 英字新聞を読む1
- 11回 英字新聞を読む2
- 12回 英字新聞を読む3
- 13回 英字新聞を読む4
- 14回 英字新聞を読む5
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストや課題提出含む) ... 50%、 学期末試験 ... 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定した方法で予習をしてくること。必ず辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。

教科書 /Textbooks

林 裕二著 Seize the main points of the TOEIC Test 「ターゲットとポイントで学ぶTOEIC テスト」(金星堂 ¥1995)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICと講義概要
- 2回 Unit6 不定詞と動名詞
- 3回 Unit6
- 4回 Unit6
- 5回 読解プリント
- 6回 Unit6
- 7回 Unit6
- 8回 Unit6
- 9回 Unit6
- 10回 読解プリント
- 11回 Unit5 分詞
- 12回 Unit5
- 13回 Unit5
- 14回 Unit5
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(20%) + 学期末試験(80%) × TOEIC・TOEFL受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 律政群2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の四技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

新TOEICテスト全パート対応 ヴォキャブラリー徹底演習 by Satoru Huruya

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 単語のテスト 2 . Listening 3 . 読解。

- 1 回 Lesson1
- 2 回 lesson2
- 3 回 Lesson3
- 4 回 Lesson4
- 5 回 Lesson5
- 6 回 Lesson6
- 7 回 Lesson7
- 8 回 Lesson8
- 9 回 Lesson9
- 1 0 回 Lesson10
- 1 1 回 Lesson11
- 1 2 回 Lesson12
- 1 3 回 Lesson13
- 1 4 回 Lesson14
- 1 5 回 review

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 1 0 % 試験 ... 9 0 %

4 回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語のテストの準備 CDを聞いて予習をしてくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor Stephanie A.Houghton / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 律政群2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

This is an intercultural communication course that also develops the four English language skills of listening, speaking, reading and writing. The main objectives of this course are to help you understand intercultural interaction and overcome cultural difference in real life. In addition, you will study and take the TOEIC test independently to help you function effectively in international society using English after you have graduated.

教科書 /Textbooks

Teaching materials (Mirrors & Windows) will be provided by the teacher.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Teacher and student self-introductions, and course overview
- 2 回 Rock around the clock (1)
- 3 回 Rock around the clock (2)
- 4 回 You are what you eat? (1)
- 5 回 You are what you eat? (2)
- 6 回 Conversation and ... silence (1)
- 7 回 Conversation and ... silence (2)
- 8 回 Men and women, girls and boys – Gendered identities (1)
- 9 回 Men and women, girls and boys – Gendered identities (2)
- 1 0 回 All you need is love (?) (1)
- 1 1 回 All you need is love (?) (2)
- 1 2 回 Bringing up baby (1)
- 1 3 回 Bringing up baby (2)
- 1 4 回 Stereotypes
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grade = Teacher grade + your actual TOEIC (TOEFL) score (balanced)
TOEIC (TOEFL)スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

- (1) インターネットを利用したアクティビティを通して実践的な英語学習を行う
- (2) オンラインニュースを読み、語彙を増やすとともに速読の能力を高める
- (3) TOEICの練習問題を行う

教科書 /Textbooks

“Web-enhanced Reading & Writing!: Basic Internet Skills and Online News” by Keiko Miyake (イソース)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Basic Computer Terms/ Typing-1/ Online Dictionaries-1
- 3回 Typing-2/ Online Dictionaries-2/ Search Engines-1
- 4回 Search Engines-2/ News Sites-1
- 5回 News Sites-2/ Headlines-1
- 6回 Headlines-2
- 7回 Headlines-3/ Abbreviations and Acronyms-1
- 8回 Abbreviations and Acronyms-2
- 9回 The Lead-1
- 10回 The Lead-2/ News Summaries-1
- 11回 News Summaries-2/ The Paragraph-1
- 12回 The Paragraph-2/ Transitions-1
- 13回 Transitions-2/ Paraphrasing and Summarizing
- 14回 Supportive Information
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト、提出物を含む)...50%、 期末試験...50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に予習範囲や提出物等について説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期に身につけた英語力を踏まえ、毎回のTOEIC問題模擬を通して、英語力の更なる向上を目指す。TOEICスコア550点以上を目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト不使用。
TOEIC問題のプリントを各授業で配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期同様、授業での学習以外に、各個人の目標スコアに適したレベル別TOEIC問題を自己学習することを勧める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実力テスト (必ず出席のこと)
- 2回 プリント模擬テスト & 各問題の解答確認
- 3回 "
- 4回 "
- 5回 "
- 6回 "
- 7回 "
- 8回 "
- 9回 "
- 10回 "
- 11回 "
- 12回 "
- 13回 "
- 14回 "
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 各授業模擬テスト40% + 期末テスト50% + TOEICスコア500点以上10%
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。TOEIC400点未満単位取得不可。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 律政群2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Conversation framework
- 2回 First oral presentations and listening test
- 3回 Unit 1 "A Time to Remember"/Past tense/ "Used to"/writing paragraphs
- 4回 Unit 12 "It's Been a Long Time!"/ Past continuous/ Present Perfect Tense
- 5回 Introductions and address systems/ Second oral presentations/ listening test
- 6回 Unit 4 "I've Never Heard of That!"/ Simple past vs. Present Perfect tense/adverbs
- 7回 Unit 16 "What's Your Excuse?"/Reported Speech: requests/ making excuses
- 8回 Invitations/ Accepting and Refusing
- 9回 Third oral presentations/ listening test
- 10回 Unit 3 "Time for a Change!"/ Evaluations and Comparisons/Wishes/Dreams
- 11回 Unit 7 "What's this for?"/ Infinitives and gerunds/Infinitive complements/writing
- 12回 Thanking people and replying to thanks/ Fourth oral presentations/listening test
- 13回 Unit 2 "Caught in the Rush"/Indirect questions from 'Wh' questions/ Adverbs of quantity
Unit 5 "Going Places"/ Future tense with 'going to' and 'will'
- 14回 Apologizing: making apologies and responding
- 15回 Fifth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%
Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

*Since students will meet twice a week, in coordination with an 英語III class, a single grade will be assigned for a student's work in both classes.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律政群2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 "Weekends"
- 3 回 Text Unit 2 "Excuses"
- 4 回 Text Unit 3 "Life Events"
- 5 回 Text Unit 4 "Travel"
- 6 回 Text Unit 5 "Culture Shock"
- 7 回 Text Unit 6 "Party Time"
- 8 回 Text Unit 7 "Describing People"
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 "Movies"
- 1 1 回 Text Unit 10 "Big Issues"
- 1 2 回 Text Unit 13 "Keepsakes"
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政群 2 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Law majors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Person Longman- Third Edition (the student will also need a memory stick)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions - Picture Story Speech
- 第2回 Delivering Your Message
- 第3回 Putting Your Speech Together
- 第4回 Speech - Self-Introduction - Outlining and Writing
- 第5回 Speech - Self-Introduction - Delivery
- 第6回 Speech - A personal Experience - Delivery
- 第7回 Speech - A Meaningful Object - Delivery
- 第8回 Speech - A specific Fear - Delivery
- 第9回 Speech - A Personal Opinion - Delivery
- 第10回 Speaking to Inform - Outlining and Writing
- 第11回 Delivery - 1
- 第12回 Speaking to Inform - Outlining and Writing
- 第13回 Delivery - 2
- 第14回 Delivery - 3
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名
/Instructor

マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 律政群2 - G
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
										○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for business and communication. Students will practice basic grammar and language skills, which will then be applied to specific business situations.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ORIENTATION / SYLLABUS REVIEW
- 2回 NAMES, TITLES, & INTRODUCTIONS
- 3回 EXPANSION ACTIVITY
- 4回 OCCUPATIONS & WORKPLACES
- 5回 JOBS & JOB RESPONSIBILITIES I
- 6回 JOBS & JOB RESPONSIBILITIES II
- 7回 EXPANSION ACTIVITY
- 8回 NUMBERS & PRICES
- 9回 NUMBERS & PRICES LISTENING
- 10回 COST OF LIVING
- 11回 BUSINESS COSTS & EXPENSES
- 12回 SPECIAL PROJECT
- 13回 SPECIAL PROJECT
- 14回 PROJECT PRESENTATION
- 15回 PROJECT PRESENTATION

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance 20%, Homework 15%, Participation 25%, Projects and Quizzes 20%, Final Examination 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

Students in this course will study the four language skills. They will go systematically through the exercises in the textbook as the teacher sees fit. Each unit will take one whole class and part of another. The final 1/2 of the second class will be devoted to a dialog test, in which each student will memorize the dialog and then make small changes in it.

教科書 /Textbooks

Smart choice Book 2 by Ken Wilson published by Oxford University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

The course will be taught as follows. During the first semester Units One through Six will be completed, along with corresponding dialogs from the test booklet written and distributed by the teacher at the beginning of the semester. Fifty percent of the final grade will be based on dialog tests given every other week and the other fifty percent will come from an average the grammar review and cumulative dialog test give at the end of the course.

- 1回 Unit 1 Talking about Vacations
- 2回 Unit 1 completed & Dialog Test
- 3回 Unit 2 Giving Opinions
- 4回 Unit 2 completed & Dialog Test
- 5回 Unit 3 Talking about experiences
- 6回 Unit 3 completed & Dialog Test
- 7回 Unit 4 Describing Places
- 8回 Unit 4 completed & Dialog Test
- 9回 Unit 5 Describing Special events
- 10回 Unit 5 completed & Dialog Test
- 11回 Unit 6 Giving Advice
- 12回 Unit 6 completed & Dialog Test
- 13回 Grammar Review Test
- 14回 Preparation for Cumulative Dialog Quiz
- 15回 Cumulative Dialog Quiz Units 1 ~ 6

成績評価の方法 /Assessment Method

Students' marks will be made up of an average of marks from dialog quizzes, speeches, written grammar review tests etc. Unexcused absence and late arrival for class will affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名 /Instructor ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・他 クラス 律政群2 - B
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test =40%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

This is a discussion course. It will develop critical thinking and self-expression by discussing a wide variety of personal and social issues in English.

教科書 /Textbooks

Day, Richard et al. Impact Issues 2. Pearson Longam. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to course.
- 2回 Unit 1 First Impressions.
- 3回 Unit 2 Traffic Jam. Traffic problems and pollution.
- 4回 Unit 3 Who Needs the Local Language?
- 5回 Review
- 6回 Unit 4 Getting Ahead. Success and Family Values.
- 7回 Unit 5 Forever Single. Stay single or get married?
- 8回 Unit 6 What Are Friends For?
- 9回 Review
- 10回 Unit 7 What's for Dinner? Impact of food choices.
- 11回 Unit 8 Cyber Bullyng. Asking for advice.
- 12回 Unit 9 Taking Care of Father. The older generation.
- 13回 Unit 10 Why Go to School? Priorities in school.
- 14回 Review
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Tests 30% Assignments 40% Term exam 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Before each lesson students must read the textbook unit and become familiar with the vocabulary. Students may ask about unfamiliar expressions in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 律政群2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Unit 6 "Sure, No Problem!"/two-part verbs/ requests with modals/"Would you mind ...?"
- 2回 Unit 10 "I Don't Like Working on Weekends"/gerunds-/ clause with 'because';
Writing: paragraph---"A job you would be good at"---(three reasons for support)
- 3回 Expressing anger & resolving conflict/ Sixth oral presentations/ listening tests
- 4回 Unit 8 "Let's Celebrate"/relative clauses of time/adverbial clauses of time
- 5回 Unit 14 "So That's What It Means!"/ modals & adverbs/permission, obligation, prohibitions/ Writing: Japanese proverbs w/ written English explanations
- 6回 Giving compliments & replying to compliments
- 7回 Seventh oral presentations/ listening tests
- 8回 Unit 9 "Back to the Future"/time contrasts/conditional sentences using if clauses
Writing: paragraph---partner interview & writing partner's hopes for the future
- 9回 Unit 15 "What would you do?"/ unreal conditional sentences w/ if clauses/past modals
- 10回 Getting people's attention and interrupting/Eighth oral presentations/ listening test
- 11回 Unit 11 "It's Really Worth Seeing"/passive tense with & w/o by /
Writing: paragraph---a country you know
- 12回 Unit 13 "A Terrific Book, but a Terrible Movie"/participles as adjectives/
relative clauses
- 13回 Agreeing and disagreeing/ Ninth oral presentations/ listening test
- 14回 "Explaining 'things Japanese'" + Getting information & Controlling the conversation
- 15回 Tenth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%
Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

*Since students will meet twice a week, in coordination with an 英語IV class, a single grade will be assigned for a student's work in both classes.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

英語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 律政群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Law majors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks
Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Person Longman- Third Edition (the student will also need a memory stick)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 Introduction to Persuasive Speaking
- 第3回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第4回 Dilivery - 1
- 第5回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第6回 Delivery - 2
- 第7回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第8回 Delivery - 3
- 第9回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第10回 Delivery - 4
- 第11回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第12回 Delivery - 5
- 第13回 Symposium - Outling and Writing
- 第14回 Delivery
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method
70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for business and communication. Students will practice basic grammar and language skills, which will then be applied to specific business situations.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ORIENTATION / SYLLABUS REVIEW
- 2回 NAMES, TITLES, & INTRODUCTIONS
- 3回 EXPANSION ACTIVITY
- 4回 OCCUPATIONS & WORKPLACES
- 5回 JOBS & JOB RESPONSIBILITIES I
- 6回 JOBS & JOB RESPONSIBILITIES II
- 7回 EXPANSION ACTIVITY
- 8回 NUMBERS & PRICES
- 9回 NUMBERS & PRICES LISTENING
- 10回 COST OF LIVING
- 11回 BUSINESS COSTS & EXPENSES
- 12回 SPECIAL PROJECT
- 13回 SPECIAL PROJECT
- 14回 PROJECT PRESENTATION
- 15回 PROJECT PRESENTATION

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance 20%, Homework 15%, Participation 25%, Projects and Quizzes 20%, Final Examination 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 律政群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

Students in this course will study the four language skills. They will go systematically through the exercises in the textbook as the teacher sees fit. Each unit will take one whole class and part of another. The final 1/2 of the second class will be devoted to a dialog test, in which each student will memorize the dialog and then make small changes in it.

教科書 /Textbooks

Smart choice Book 2 by Ken Wilson published by Oxford University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

The course will be taught as follows. During the second semester Units Seven through Twelve will be completed, along with corresponding dialogs from the test booklet written and distributed by the teacher at the beginning of the semester. Fifty percent of the final grade will be based on dialog tests given every other week and the other fifty percent will come from an average the grammar review and cumulative dialog test give at the end of the course.

- 1回 Unit 7 Making Complaints
- 2回 Unit 7 completed & Dialog Test
- 3回 Unit 8 Describing preferences
- 4回 Unit 8 completed & Dialog Test
- 5回 Unit 9 Telling stories
- 6回 Unit 9 completed & Dialog Test
- 7回 Unit 10 Making Speculations
- 8回 Unit 10 completed & Dialog Test
- 9回 Unit 11 Talking about Past Habits
- 10回 Unit 11 completed & Dialog Test
- 11回 Unit 12 Explaining Possibilities
- 12回 Unit 12 completed & Dialog Test
- 13回 Grammar Review Test
- 14回 Preparation for Cumulative Dialog Quiz
- 15回 Cumulative Dialog Quiz Units 7 ~ 12

成績評価の方法 /Assessment Method

Students' marks will be made up of an average of marks from dialog quizzes, speeches, written grammar review tests etc. Unexcused absence and late arrival for class will affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
 単位 /Credits: 1単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 講義・他
 クラス /Class: 律政群2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語VII). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.
 The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques
- Week 8 Control Techniques
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting
- Week 11 Charting
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.
 Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

This is a discussion course. It will develop critical thinking and self-expression by discussing a wide variety of personal and social issues in English.

教科書 /Textbooks

Day, Richard et al. Impact Issues 2. Pearson Longam. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Review of First Semester.
- 2回 Unit 11 An International Relationship
- 3回 Unit 12 Too Little, Too Late. Saving the planet.
- 4回 Unit 13 Ben and Mike. Rumors.
- 5回 Review
- 6回 Unit 14 Government Control.
- 7回 Unit 15 Living Together.
- 8回 Unit 16 Size Discrimination.
- 9回 Review
- 10回 Unit 17 Who Will Help Them? Refugees.
- 11回 Unit 18 Finding the Right One.
- 12回 Unit 19 Dress for Success.
- 13回 Unit 20 A Mother's Story. Punishment.
- 14回 Review
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Tests 30% Assignments 40% Term exam 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Before each lesson students must read the textbook unit and become familiar with the vocabulary. Students may ask about unfamiliar expressions in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。

講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音【声調】【母音】【子音】
- 2回 発音、練習問題
- 3回 発音、練習問題
- 4回 発音、練習問題
- 5回 第1課 北京は中国の首都【代詞】【形容詞述語文】【主述述語文】【是構文】
- 6回 第1課 北京は中国の首都、練習問題
- 7回 第2課 美しい杭州【動詞述語文】【的の用法】【時間の表し方】
- 8回 第2課 美しい杭州、練習問題
- 9回 第3課 端午節【名詞述語文】【方位詞】【存在の表現】【所有の表現】
- 10回 第3課 端午節、練習問題
- 11回 第4課 中国老師教我們中文【了の用法】【二重目的語】【連動文】
- 12回 第4課 中国老師教我們中文、練習問題
- 13回 第5課 中国的“情人節”【是～的構文】【動作の進行】【動作・状態の持続】
- 14回 第5課 中国的“情人節”、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む)...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 九州非常有意思【過去の経験】【動量】【時量】
- 2回 第6課 九州非常有意思、練習問題
- 3回 第7課 八月十五中秋節【助動詞】【完全否定】【部分否定】
- 4回 第7課 八月十五中秋節、練習問題
- 5回 第8課 泡温泉賞紅葉【前置詞】【助動詞】
- 6回 第8課 泡温泉賞紅葉、練習問題
- 7回 第9課 “福倒”与“福到”【結果補語】【存現文】
- 8回 第9課 “福倒”与“福到”、練習問題
- 9回 第10課 閩門海峡【方向補語】【把構文】【複文】
- 10回 第10課 閩門海峡、練習問題
- 11回 第11課 月光族【様態補語】【程度補語】【複文】
- 12回 第11課 月光族、練習問題
- 13回 第12課 日本跟中国都是亞州国家【比較の表現】【複文】
- 14回 第12課 日本跟中国都是亞州国家、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 大連交換教員 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律群 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説【中国と中国語について】
- 2回 発音【母音】
- 3回 発音【子音】
- 4回 発音【声調など】
- 5回 発音の総合練習
- 6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 8回 総合練習
- 9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 11回 総合練習
- 12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 13回 第6課【過去の経験など】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 大連交換教員 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 律群 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課【完全否定と部分否定】
- 2回 第8課【助動詞、前置詞】
- 3回 総合練習
- 4回 第9課【結果補語、存現文】
- 5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 6回 総合練習
- 7回 第11課【様態補語、程度補語、複文2】
- 8回 第12課【比較の表現、複文3】
- 9回 総合練習
- 10回 第13課【可能補語、使役表現】
- 11回 第14課【“被”構文、複文4】
- 12回 総合練習
- 13回 第15課、復習【複文5】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

まず一年次に学んだ文法事項を再確認し定着をはかる。次に長文読解の中で、より複雑な表現ができるよう、中級レベルの語彙力と文法及び自然な言い回しを身につけていく。同時に中国の風俗習慣や様々な局面についての理解を深めていく。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、中国への理解である。

教科書 /Textbooks

山下輝彦・蘇英霞著『中国を語る～文化と生活～』金星堂（2008年1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文法確認【状態補語】【結果補語】【方向補語】【動量】【時量】【把構文】【被構文】等
- 2回 文法確認
- 3回 文法確認
- 4回 文法確認
- 5回 第1課 上有天堂【蘇州と杭州】【累加】【使役】【仮定】【条件】【並列】
- 6回 第1課 上有天堂、練習問題
- 7回 第2課 長寿面【誕生日】【把構文】【条件】【並列】【継起】
- 8回 第2課 長寿面、練習問題
- 9回 第3課 七夕【累加】【補語】【被構文】【仮定】【因果】
- 10回 第3課 七夕、練習問題
- 11回 第4課 春節晚会【正月】【条件】【継起】
- 12回 第4課 春節晚会、練習問題
- 13回 第5課 国球【卓球】【因果】【前置詞】【状態の持続】
- 14回 第5課 国球、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

長文読解する中で、より複雑な表現ができるよう、中級レベルの語彙力と文法及び自然な言い回しを身につけていく。同時に中国の風俗習慣や様々な局面についての理解を深めていく。

講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、中国への理解である。

教科書 /Textbooks

山下輝彦・蘇英霞著『中国を語る～文化と生活～』金星堂（2008年1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 高考【大学受験】【数字】【比較の表現】【逆接】【少しも~ない】【条件】
- 2回 第6課 高考
- 3回 第6課 高考、練習問題
- 4回 第7課 北京的“的哥”【タクシー運転手】【比較の表現】【条件】【慣用表現】
- 5回 第7課 北京的“的哥”
- 6回 第7課 北京的“的哥”、練習問題
- 7回 第8課 海帰【海外からの帰国者】【因果】【目的】【条件】【比較の表現】
- 8回 第8課 海帰
- 9回 第8課 海帰、練習問題
- 10回 第9課 跳槽【転職】【比較選択】【慣用表現】
- 11回 第9課 跳槽
- 12回 第9課 跳槽、練習問題
- 13回 第10課 独生子女【一人っ子政策】【条件】【常用表現】
- 14回 第10課 独生子女、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む)...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成することを主眼とするので、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

兵頭和美など著『中国世界遺産めぐり』白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 1回 第1課 長城【動詞+“過”】【好像】【逆接複文】【算】
- 2回 発表
- 3回 第2課 故宮【従】【如果】【動詞+着】
- 4回 発表
- 5回 第3課 敦煌莫高窟【連～都】【終于】【為了】
- 6回 発表
- 7回 第4課 秦の始皇帝陵と兵馬俑坑【被】【総】【由于】【只】
- 8回 発表
- 9回 第5課 黄山【以～為】【除了】【因為】【用】
- 10回 第6課 九寨溝【必須】【尽管～但是...】【不光】
- 11回 発表
- 12回 第7課 孔廟、孔府、孔林【而且】【可以】【使役表現】
- 13回 第8課 ポタラ宮【～的】【～才】【比較表現の“跟”】
- 14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度(出席を含む)...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 済営人律政群2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成することを主眼とするので、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

兵頭和美など著『中国世界遺産めぐり』白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 第9課 峨眉山と泰山大仏【相当于】【按照】
 - 2回 発表
 - 3回 第10課 麗江【一～就...】【像～一様】
 - 4回 発表
 - 5回 第11課 蘇州の古典的園林【正如】【和～一様】【就是說】
 - 6回 発表
 - 7回 第12課 天壇公園【曾經】【即使】【属于】
 - 8回 発表
 - 9回 第13課 頤和園【使～】【通過】【怎麼】
 - 10回 発表
 - 11回 第14課 龍門石窟【值得】【对】
 - 12回 発表
 - 13回 第15課 雲崗石窟【可能補語】【不管】【正是】
 - 14回 発表
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度(出席を含む)...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金貞愛 他 『しっかり初級韓国語』白水社 (2008年4月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音1】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といたします】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

金貞愛 他 『しっかり初級韓国語』白水社 (2008年4月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 これは何ですか【指示代名詞】【体言否定】【助詞1】
- 3回 これは何ですか【指示代名詞】【体言否定】【助詞1】
- 4回 このコンピュータは誰のものですか【人称・所有代名詞】【助詞2】
- 5回 トイレはどこにありますか【存在の有無】【助詞3】
- 6回 それから何をしますか【用言の基本形・丁寧形】【助詞4】
- 7回 それから何をしますか【用言の基本形・丁寧形】【助詞4】
- 8回 二日間予約したいですが【漢数詞】【年月日の言い方】
- 9回 今、何時ですか【固有数詞】【時間・年齢の言い方】
- 10回 今、何時ですか【固有数詞】【時間・年齢の言い方】
- 11回 土曜日には会社に行きません【用言の否定形】
- 12回 海に行きたいです【願望形】
- 13回 とてもうれしかったです【過去形】【助詞5】
- 14回 とてもうれしかったです【過去形】【助詞5】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『チャレンジ！韓国語』白水社（2009年3月）、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音1】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といたします】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』（野間秀樹・ナツメ社）を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

正確な発音の能力を高めながら、初級文法をもとに会話表現を学び、基礎レベルでの日常会話の能力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『チャレンジ！韓国語』白水社（2009年3月）、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 3回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 4回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 5回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 6回 何時ですか【固有数詞】【時間】【助数詞】
- 7回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 8回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 9回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 10回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 11回 週末には何をしましたか【過去形】【接続詞1】
- 12回 週末には何をしましたか【過去形】【接続詞1】
- 13回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 14回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』（野間秀樹・ナツメ社）を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

中級レベルの文型を無理なく駆使できるようになることを目標とする。日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『もっとチャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 空港に出迎え【再会のあいさつ】(1)
- 3回 空港に出迎え【再会のあいさつ】(2)
- 4回 部屋探し【状況をより詳しく説明する】(1)
- 5回 部屋探し【状況をより詳しく説明する】(2)
- 6回 自己紹介【自分について語る】(1)
- 7回 自己紹介【自分について語る】(2)
- 8回 ビデオ上映
- 9回 友たちの家で【目上の人への話し方】【尊敬の表現】(1)
- 10回 友たちの家で【目上の人への話し方】【尊敬の表現】(2)
- 11回 帰り道【様子から推測、判断する】(1)
- 12回 帰り道【様子から推測、判断する】(2)
- 13回 百日記念日【素直な気持ちを表明する】(1)
- 14回 百日記念日【素直な気持ちを表明する】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、中級レベルの文型を無理なく駆使できるようになることを目指す。日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『もっとチャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 引越しパーティーの日【注意や指示をする】(1)
- 3回 引越しパーティーの日【注意や指示をする】(2)
- 4回 汽車に乗ってお出かけ【やりもらいの表現】(1)
- 5回 汽車に乗ってお出かけ【やりもらいの表現】(2)
- 6回 村の風景【説明や描写】(1)
- 7回 村の風景【説明や描写】(2)
- 8回 韓国文化とのふれあい
- 9回 友たちを訪ねて【忠告やアドバイス】(1)
- 10回 友たちを訪ねて【忠告やアドバイス】(2)
- 11回 診察を受ける【許可と禁止】(1)
- 12回 診察を受ける【許可と禁止】(2)
- 13回 悲しみよ、さようなら【コミュニケーションの幅を広げる】(1)
- 14回 悲しみよ、さようなら【コミュニケーションの幅を広げる】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

李昌圭 『韓国語を学ぼう 中級』朝日出版社 (2007年4月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 何を食べましょうか【注文に関する表現】
- 3回 何を食べましょうか【提案と勧誘の表現】
- 4回 何を食べましょうか【意志の表現】
- 5回 電話番号を教えてください【電話に関する表現】
- 6回 電話番号を教えてください【理由の表現】
- 7回 電話番号を教えてください【可能、不可能の用言】
- 8回 趣味は何ですか【趣味に関する表現】
- 9回 趣味は何ですか【仮定形の表現】
- 10回 趣味は何ですか【連体形の表現】
- 11回 韓国ドラマ
- 12回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】
- 13回 仁寺洞にはどのように行きますか【意図、助言の表現】
- 14回 仁寺洞にはどのように行きますか【意志、約束の表現】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 発表・課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

李昌圭 『韓国語を学ぼう 中級』朝日出版社 (2007年4月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 風邪は治りましたか【病気に関する表現】
- 3回 風邪は治りましたか【前置きの表現】
- 4回 風邪は治りましたか【禁止、可能の表現】
- 5回 連休には何をするつもりですか【予定の表現】
- 6回 連休には何をするつもりですか【譲歩、同時進行の表現】
- 7回 雨がたくさん降っているようです【推測に関する表現】
- 8回 雨がたくさん降っているようです【引用・伝聞の表現】
- 9回 雨がたくさん降っているようです【意向を尋ねる表現】
- 10回 韓国ドラマ
- 11回 焼肉を作ることができますか【方法、可能の表現】
- 12回 焼肉を作ることができますか【経験の有無の表現】
- 13回 このズボン、着てみてもいいですか【当然・義務の表現】
- 14回 このズボン、着てみてもいいですか【状態、許容の表現】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 発表・課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 佐木 隆三 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 地域には複合的な問題が存在し、地域の再生と創造に対する一元的な解決方法はありません。このため、自分の専門や興味・関心とは異なる分野における地域の具体的な課題と、その課題に対する取り組みについて理解し、幅広い視野を身につけることが重要です。
 地域学入門では、地域とは何か、総合的理解とは何かといった、地域を学ぶにあたっての基本的概念、理論的背景を学習します。あわせて、地域の抱える具体的な課題と市民の関わり方について、その概略を理解します。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 地域とは何か
 - 2回 地域の総合的な理解
 - 3回 地域学入門の考え方
 - 4回 地域創生とマネジメント①
 - 5回 地域創生とマネジメント②
 - 6回 地域創生とマネジメント③
 - 7回 地域創生とマネジメント④
 - 8回 地域創生とボランティア①
 - 9回 地域創生とボランティア②
 - 10回 地域創生と文学
 - 11回 地域創生と情報
 - 12回 地域創生と福祉①
 - 13回 地域創生と福祉②
 - 14回 地域創生と福祉③
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業中に取り組む課題の達成度 ... 50% レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 様々な視点から地域について説明を行います。柔軟かつ幅広い視野を得るべく、学習をすすめてください。授業中にディスカッションの時間を設けます。積極的な発言を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニティ論【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 今日、コミュニティは単に特定の場所や集団と同一視することができず、一つの理念で説明もできない用語です。社会学的視点による伝統的なコミュニティ(近隣社会、小規模な町、空間的に限定される地域社会や特定の小規模集団を基礎にした社会組織)以外にも、文化的に規定される集団やイデオロギーの視点からのコミュニティ論も存在します。また、社会・文化・政治・テクノロジー等や、ポストモダン・グローバリゼーション・インターネット等の社会情勢の変化も加味する社会理論的立場もあります。講義では伝統的コミュニティと今日的解釈の理解を促します。

教科書 /Textbooks
 使用しない。資料配布の予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 その都度指示する

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 コミュニティ論の概要
 - 2回～3回 伝統的コミュニティ【コミュニティ、共同体、ゲマインシャフト】
 - 4回～6回 コミュニティ論の系譜【シカゴ学派】
 - 7回～8回 文化的・イデオロギーの視点からのコミュニティ【多文化主義】
 - 9回～10回 コミュニティの多様化【バーチャル・コミュニティ】
 - 11回～12回 社会関係資本としてのコミュニティ【地域活動、協同、共同】
 - 13回～14回 調査からみる現代の地域社会とコミュニティ【福祉開発、地域密着】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 出席30% 試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動概論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「市民活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 市民活動の戦後史
 - 4回～5回 市民活動の現代史
 - 6回～7回 市民活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 市民活動の争点①
 - 11回～12回 市民活動の争点②
 - 13回～14回 市民活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加も求められる。ボランティア活動論を受講していない学生を想定している。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北九州社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 神山 和久 / KAZUHISA KOYAMA / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 この講義は、北九州地域の社会状況について幅広く学び地域理解を深めるとともに、地域が抱えるさまざまな問題点について、発生の背景や今後の取り組みについて共に考えていきます。具体的には、北九州市の生い立ちや都市環境、行政施策の今と昔について学び、また市民生活に関する諸問題やまちづくり事例などについても紹介、解説します。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて参考文献を紹介します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 はじめに -都市とはなにか【大学の起源と都市】
 - 2回 北九州市の生い立ち-【地域論】
 - 3回 北九州市の地域政策の歴史【マスタープラン】
 - 4回 北九州市の人口構造
 - 5回 北九州市の消費社会①-消費者行政【情報の非対称性】
 - 6回 北九州市の消費社会②-物価・家計【豊かさ指標】
 - 7回 北九州市の消費社会③-流通【市の台所】
 - 8回 北九州市の消費社会④-消費者行動の考え方【ヒューリスティック】
 - 9回 地域における福祉事業者の立場からみた北九州社会
 - 10回 地域のサービス業の立場からみた北九州社会
 - 11回 地域のまちづくり事例からみた北九州社会
 - 12回 北九州市の住みよさ評価①【都市間比較】
 - 13回 北九州市の住みよさ評価②【ソーシャルマーケティング】【まちなか居住】
 - 14回 北九州市の住みよさ評価③【市民力】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 出席... 30% レポート... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア形成論 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 学生の皆さんは何かのイベントを企画したり、多くの人と協働した経験があると思います。社会人になると様々な利害が複雑に絡み合う中で、問題点を正確に把握して最適な解決策を考えていかなければなりません。単なる「思いつき」ではうまくいかないことが多いのです。この授業では、問題を正確に把握するための思考法について学び、皆さんが普段から使えるようにしていきます。

教科書 /Textbooks
 テキストはありません。適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 『ロジカルシンキングのノウハウ・ドウハウ』野口吉昭編 PHP 研究所、『知的複眼思考法』荻谷剛彦著 講談社文庫、『MBAクリティカルシンキング』GMI 著 ダイヤモンド社

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 全体ガイダンス
 - 2回 ロジカルシンキング 論理的思考とは
 - 3回 ロジカルシンキング 帰納法
 - 4回 ロジカルシンキング 演繹法
 - 5回 フレームワークシンキング フレームで考える
 - 6回 フレームワークシンキング ロジックツリー
 - 7回 フレームワークシンキング マトリックス
 - 8回 クリティカルシンキング 批判的思考とは
 - 9回 クリティカルシンキング 複眼的にみる
 - 10回 クリティカルシンキング データの見方
 - 11回 パワーポイント パワーポイントとは
 - 12回 パワーポイント ファイルを作成する
 - 13回 パワーポイント アニメーションを加える
 - 14回 プレゼンテーション 発表する
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 出席...50% 授業の成果物...25% レポート...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 解決策が分からない、どう問題を考えていいか分からない、等の自分自身問題を想定してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

システム活用 【昼】

担当者名 /Instructor 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

システム活用では、職場内の情報化の推進役として、業務における問題点の発見や改善策の立案ができ、さらにはシステムの構築や運用にあたっての指導、活用推進ができるようなコンピュータに関する知識を習得します。

教科書 /Textbooks

「エンドユーザのための情報基礎」FOM出版
 (1年次の「データ処理」「エンドユーザコンピューティング」で利用したテキスト)
 情報処理教科書「ITパスポート」翔泳社 (販売予定、授業中に指示します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、業務と情報技術の関係
- 2回 コンピュータ構成要素
- 3回 システム構成要素
- 4回 ヒューマンインターフェースとマルチメディア
- 5回 データベース
- 6回 ネットワーク
- 7回 セキュリティ
- 8回 基礎理論
- 9回 アルゴリズムとプログラミング
- 10回 企業と法務
- 11回 経営戦略とシステム戦略
- 12回 システム開発技術とソフトウェア開発技術
- 13回 プロジェクトマネジメント
- 14回 サービスマネジメント
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施するテスト ... 50% 積極的な授業への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

質疑応答を繰り返しながら、授業を展開します。きちんと理解しているか、ほぼ毎回、テストを実施します。しっかりとした予習と復習が必要です。
 授業開始前に、「データ処理」と「エンドユーザコンピューティング」の授業内容を復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。
主とした実習内容は、市内の小中学校でのスクールボランティア活動、療育センター・施設等におけるボランティア活動、自閉症児を対象とした療育キャンプの企画・実施など。

教科書 /Textbooks
特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～4回 実習前指導
- 5～13回 実習(実習期間中に中間報告を含む)
- 12～15回 前期実習の振り返り、報告
- 16～19回 後期実習前指導
- 20～27回 実習(実習期間中に中間振り返りを含む)
- 27～30回 後期実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method
主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア実習I【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 上村 英樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

スポーツボランティア実習Iでは性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。また、2学期では考案したスポーツ種目のルールなどを小学校低学年の子供たちにグループ単位で実際に指導する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1学期(グループ単位にて)	2学期(個人において)
1 回ガイダンス	1 回ガイダンス
2 回スポーツルールの作成 1	2 回学校のスポーツ指導 1
3 回スポーツルールの作成 2	3 回学校のスポーツ指導 2
4 回スポーツルールの作成 3	4 回学校のスポーツ指導 3
5 回スポーツルールの発表 1	5 回学校のスポーツ指導 4
6 回スポーツルールの発表 2	6 回学校のスポーツ指導 5
7 回スポーツルールの発表 3	7 回指導の反省
8 回発表 1 のチェック・サポート	8 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
9 回発表 2 のチェック・サポート	9 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
10 回発表 3 のチェック・サポート	10 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1	11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 4
12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2	12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 5
13 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3	13 回指導の反省 1
14 回指導の反省	14 回指導の反省 2
15 回まとめ	15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 40% 指導力... 30% レポート提出... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

インドアの場合、アウトドアの場合、それぞれのシューズや服装など学群生らしい態度で臨むこと。
また、実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間を含む)に取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者スポーツ実習I【昼】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「失われたものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」-これは、障害者スポーツの最高峰・パラリンピックの創始者であるグッドマン博士の言葉である。障害者が運動・スポーツを通して心身の可能性や自己価値に気づき、人生の満足度を高めるための指導のあり方を、実技を通して学習する。本実習では、障害に応じた運動・スポーツやレクリエーションなど様々な実技を体験する。また、自分たちでプログラムを作成し、実施・評価も行う。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回～3回 ふうせんバレーボール 【聴覚障害の体験】【肢体障害の体験】
 - 4回～5回 車いすの基本操作 【組み立て方】【スラローム】【バリア】【マップ作成】
 - 6回 マップの作成と発表 【バリア】
 - 7回～8回 車いすでボール運動 【バスケットボール】
 - 9回～10回 視覚障害の体験 【ジョギング】【伴走】【縄跳び】【ボール遊び】
 - 11回 障害者アスリート講演・実技体験
 - 12回 マップの体験と評価 【バリア】
 - 13回～14回 ビデオ鑑賞 【レポート作成】
 - 15回 前半のまとめ
 - 16回 前半の復習と後半のガイダンス
 - 17回～18回 高齢者疑似体験 【視野】【可動域】【ジョギング】【ふうせんバレーボール】
 - 19回～20回 レクリエーションスポーツ 【軽スポーツ】【身体遊び】
 - 21回～22回 バドミントン 【聴覚障害の体験】【上肢切断の体験】【肢体障害の体験】
 - 23回～24回 バレーボール 【デフ・バレーボール】【シットティング・バレーボール】
 - 25回 アダプテッド・スポーツプログラムの作成 【グループ実習】
 - 26回 アダプテッド・スポーツプログラムの実施
 - 27回 障害者アスリート講演・実技体験
 - 28回～29回 ビデオ鑑賞 【レポート作成】
 - 30回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% 受講態度...20% 課題(実習・レポート)...30%
(出席が3分の2以下の者の課題は受理しません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回授業で配布するレジュメやワークシートを読み込み、毎回持参すること。
実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
 佐藤 貴之 / 基盤教育センター, 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Aは、地域創生学群での学習や実習を行う際に必要な知識や技術、マナーを習得することを目標とします。また、この演習を通じて、地域創生学群において学習を進めていく上での心構えを身に付けたり、将来に対する目標や自分の進むべき道を模索していきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【一般的な心構え】、【指導的実習】、【学内LAN環境】
- 2回 学生生活プランニング①【目標設定と共有】
- 3回 学生生活プランニング②【ポートフォリオ指導】
- 4回 マナー①【社会人・学生としてのマナー】
- 5回 マナー②【調査・実習・校外活動におけるマナー】
- 6回 マナー③【情報機器の操作におけるネチケット、マナー】
- 7回 デザイン技法 ①【チラシ・ポスターの作り方】
- 8回 文書作成①【エッセイの書き方】
- 9回 文書作法②【調査書・実践報告書の書き方】
- 10回 デザイン技法②【チラシ・ポスター作成実習】
- 11回 文書作成③【実践レポートの書き方】
- 12回 テーマごとのディスカッション
- 13回 学生生活プランニング③【自己の学習管理と目標の見つめなおし】
- 14回 演習・実習の振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2年次以降に地域創生実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、土曜日や日曜日などの正規の授業時間外に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。詳しくは、第1回目の授業のときに説明します。
 遅刻・欠席をしないこと。どうしても遅刻・欠席せざる得ない場合は、事前に、担当教員に連絡をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

障害者支援 (特に発達障害のある人への支援) の考え方や実践的方法を学び、議論していきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 診断基準・方法
- 3回 アセスメント方法①
- 4回 アセスメント方法②
- 5回 アセスメント方法③
- 6回 アセスメント実習
- 7回 個別支援計画の作成①
- 8回 個別支援計画の作成②
- 9回 教育課題の作成①
- 10回 教育課題の作成②
- 11回 教育課題の実施
- 12回 レクレーション案の作成①
- 13回 レクレーション案の作成②
- 14回 レクレーションの実施
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 ... 50 %
積極的な演習への参加 (指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2年次以降に地域創生実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外 (土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む) に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 本演習では、情報システム開発で重要なアイデア創出の方法とプロジェクトマネジメント知識体系 (PMBOK) を学習します。社会的ニーズの調査にはじまり、他の学生とのブレインストーミングを通して、情報システムを企画立案する方法を学びます。さらに、プロジェクトを進めるにあたり、どのような点に注意すべきかを学んでいきます。

教科書 /Textbooks
 特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (今後の演習の進め方、学習の仕方の説明)
- 2回 ブレインストーミング
- 3回 アイデアの整理と創出演習
- 4回 情報システム企画書の作成
- 5回 企画のプレゼンテーション
- 6回 PMBOKの基礎 (1)
- 7回 PMBOKの基礎 (2)
- 8回 PMBOKの基礎 (3)
- 9回 PMBOKの基礎 (4)
- 10回 PMBOKの基礎 (5)
- 11回 プロジェクト演習 (1)
- 12回 プロジェクト演習 (2)
- 13回 プロジェクト演習 (3)
- 14回 プロジェクト演習 (4)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 (指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 2年次以降に地域創生実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外 (土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む) に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Bでは地域創生基礎演習Aにおいて各人の学びの方向性の決定を受けて、各指導者教員のゼミに所属します。当ゼミでは今後必要とされる基本的知識やスキルを学ぶほか、各人の課題を設定した上、2年時から始まるスポーツボランティア実習の目的・具体的計画を策定する。ゼミでの議論を通じて、その目的や具体的計画を練り直し、目的を明確にする。あわせて、実習に必要とされる基本的知識とスキルをロールプレイングを体験しながら具体的に学んでいく。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のねらい、進め方
- 2回 実習の計画
- 3回 コミュニケーション 1
- 4回 コミュニケーション 2(他者との関係)
- 5回 コミュニケーション 3(クラスメイトを知る)
- 6回 コミュニケーション 4(自己を知る)
- 7回 コミュニケーション 5(他人を知る)
- 8回 コミュニケーションの事例研究1
- 9回 コミュニケーションの事例研究2 2
- 10回 コミュニケーションの3Vの法則の理解
- 11回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング(子供の理解)
- 12回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング(地域の理解)
- 13回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング
- 14回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2年次以降に障害者スポーツ実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に「指導的実習」に取り組んでまいります。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Bでは、各指導教員の開講するゼミに所属する。当ゼミでは、2年次から始まる障害者スポーツ実習に必要とされる基本的知識やスキルを学び、実習に備える。主にコミュニケーションワークを軸に基本的知識やスキルを学ぶ。また、毎回の授業でのふり返りや議論を通じて、実習における目標を練っていく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 コミュニケーションワーク①【ラポールの形成】
 - 3回 コミュニケーションワーク②【情報伝達】
 - 4回 コミュニケーションワーク③【ノンバーバル】【メラビアンの法則】
 - 5回 コミュニケーションワーク④【コンセンサス】
 - 6回 コミュニケーションワーク⑤【コンセンサス】【利害関係】
 - 7回 コミュニケーションワーク⑥【ホスピタリティ】
 - 8回 コミュニケーションワーク⑦【他者理解の促進】
 - 9回 コミュニケーションワーク⑧【チェンジトーク】
 - 10回 プレゼンテーションの行い方
 - 11回 ビデオ鑑賞【レポート作成】
 - 12回 プレゼンテーション準備
 - 13回 プレゼンテーション①
 - 14回 プレゼンテーション②
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組み課題の達成度... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回授業で配布するレジュメやワークシートを読み込み、毎回持参すること。
2年次以降に障害者スポーツ実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

自閉症など発達障害のある人への支援、特にコミュニケーション指導法の理論や具体的方法の基礎を学び、議論していきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションとは何か①
- 3回 コミュニケーションとは何か②
- 4回 アセスメント方法
- 5回 心理療法的アプローチの限界と新たな展開
- 6回 応用行動分析学的手法の考え方①
- 7回 応用行動分析学的手法の考え方②
- 8回 応用行動分析学的手法の考え方③
- 9回 応用行動分析学的手法を用いた具体的指導法①
- 10回 応用行動分析学的手法を用いた具体的指導法②
- 11回 その他の指導法①
- 12回 その他の指導法②
- 13回 その他の指導法③
- 14回 その他の指導法④
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

高機能自閉症やアスペルガー障害など発達障害のある人への支援、特に自己認知指導法の考え方や具体的方法の基礎を学び、議論していきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回～4回 自己認知とは何か
- 5回～10回 自己認知の具体的指導法
- 11回～14回 感情のコントロール法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域コーディネート論【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

地域を舞台とした人と人との様々な関わり合いを、「コーディネート」という視点からとらえ直す。分かりやすい事例を1つ1つ授業の中で検討していきながら、「コーディネートする」とはどういうことが、みんなで考える。

教科書 /Textbooks

とくに使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「コーディネート」という視座について
 - 2回 地域の現状をさぐる(1)
 - 3回 地域の現状をさぐる(2)
 - 4回 貧困の問題とコーディネート(1)
 - 5回 貧困の問題とコーディネート(2)
 - 6回 まちづくりとコーディネート(1)
 - 7回 まちづくりとコーディネート(2)
 - 8回 中間まとめorスケジュール調整
 - 9回 家族問題とコーディネート(1)
 - 10回 家族問題とコーディネート(2)
 - 11回 ボランティアとコーディネート(1)
 - 12回 ボランティアとコーディネート(2)
 - 13回 地域の「私」「公」「共」について(1)
 - 14回 地域の「私」「公」「共」について(2)
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では、テーマに即してレジユメや資料を配布する。特別講師を呼ぶ場合もある。受講にあたっては、毎回出席することが前提である。レジユメを読みながら、講師の話をしっかりメモすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域調査論 【昼】

担当者名 /Instructor 神山 和久 / KAZUHISA KOYAMA / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 この講義は、地域社会で起こる事象を対象として、地域の問題発見とその主体的な解決のため実施される「地域調査」について、より実践的な知識を習得することがねらいです。
 このため、具体的に調査結果がどのように報告され活用されるのかについても詳しく解説します。「まちづくり」を基調テーマとし、都市間の人口移動調査や市民力に関する世論調査、消費者の意識と行動調査などを取り上げる予定です。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて参考文献を紹介します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 はじめに -地域調査はなぜ必要か
 - 2回 調査の分類-調査方法はたくさんあるけれど
 - 3回 統計資料から読めること-データを見て考えよう【官庁統計】
 - 4回 データ読み取りに際しての注意事項-【人間的なあやまり】【少数の法則】
 - 5回 世論調査について①-質問文作成の要領と注意点【バイアス】【アンカリング効果】
 - 6回 世論調査について②-実査を行う【RDD】
 - 7回 世論調査について③-集計の手順と報告書作成の注意点【カテゴリー化】
 - 8回 地域調査事例とその読み方 ①【人口移動】【ラベンスタインの法則】
 - 9回 地域調査事例とその読み方 ②【市政評価】【順位法】
 - 10回 地域調査事例とその読み方 ③【就労意識】【市民力】
 - 11回 地域調査事例とその読み方 ④【重要度・満足度】
 - 12回 地域調査事例とその読み方 ⑤【生活意識】【家計・物価】
 - 13回 テキストマイニングの手法
 - 14回 テキストマイニングの実例【自由記述データ】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 出席...30% レポート...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 電卓を使用することがあります。事前に講義でお知らせします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかということ必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する講師による「講義」、②NPO関係者を招いての講演会(2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものになりたいと考えています。

ただし、ゲスト・スピーカーを多数およびする関係からも、授業中の私語は厳しく取り締まります。私語をせずには講義を受けられないという学生は受講しないでください。

教科書 /Textbooks

早瀬昇・松原朗『NPOがわかるQ&A』(岩波書店、2004年)。
檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』(2009年3月)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入—講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識
- 3回 第1回講演会
- 4回 福祉NPO(1)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(2)—社会福祉法人
- 7回 第3回講演会
- 8回 環境NPO(1)
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(2)
- 11回 第5回講演会
- 12回 まちづくりNPO(1)
- 13回 第6回講演会
- 14回 まちづくりNPO(2)
- 15回 講義のまとめおよびレポートについての説明

成績評価の方法 /Assessment Method

出席(授業貢献) ... 50 % レポート... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もってテキストを読む等をして授業に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「政治過程」は、政治制度の下で繰り広げられる様々なアクターによるインターアクションのプロセスを表す概念です。本講義は政治過程についてジャーナリスティック・感覚的にではなく、理論的・実証的に即ち社会科学的に考察します。まず、有権者がニーズを訴える過程（「入力過程」）に目を向けます。つぎに、入力された有権者のニーズを受けて政策を決定・実施・評価する過程（「出力過程」）に焦点を当てますが、本講義では特に政策決定過程を取りあげます。最後に、政策を決定するシステム（「公共システム」）の特徴を、市場システムと比較しながら、描出します。

教科書 /Textbooks

講義ノート（担当教員のウェブサイトからダウンロード・プリントアウトしてください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田浩・松田憲忠編(2009)『現代日本の政治-政治過程の理論と実際』ミネルヴァ書房。
その他、第1回講義で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 イントロダクション
[入力過程]
2回 投票行動 3回 投票行動
4回 投票参加 5回 投票参加
6回 投票参加 7回 世論とメディア
[出力過程]
8回 政策決定過程におけるアクター 9回 政策決定過程におけるアクター
10回 政策決定・政策過程のモデル 11回 政策決定・政策過程のモデル
12回 政策決定・政策過程のモデル
[公共システム]
13回 公共システムと市場システム 14回 公益と政策
15回 総括
※受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（学期末試験では、本講義で提供された知識の習得、社会科学的思考の実践、社会問題や政治状況等についての日常的な観察といった多様な側面からの評価が行われます）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ◆授業には、講義ノートの該当箇所を持参してください。
- ◆政策決定を含めた政策過程全般について深く勉強を進めたい場合は「政策過程論」、行政府や官僚等については「日本行政論」、政策立案・分析・議論における公益等の諸価値の問題については「政策構想論」、政党システムや欧州諸国の政党については「政党政治論」、政党・利益集団・行政省庁に代表される組織全般については「行政組織論」、政治過程のルールである政治制度については「政治学」、日本の政治過程については「日本政治論」の受講をお勧めいたします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策論【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにした。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業ごとに挙げていく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 日本における貧困問題・・・北九州市と福岡市のネットカフェ難民調査から
- 5回 日本における子どもの貧困(1)・・・日本の現状を考える
- 6回 日本における子どもの貧困(2)・・・比較の視座から考える
- 7回 社会実験(1)・・・社会実験とは何か
- 8回 社会実験(2)・・・事例の分析・検討
- 9回 循環型社会(1)・・・導入
- 10回 循環型社会(2)・・・容器包装リサイクル法
- 11回 循環型社会(3)・・・家電リサイクル法
- 12回 介護保険(1)・・・導入
- 13回 介護保険(2)・・・現状分析
- 14回 介護保険(3)・・・問題点とその検討
- 15回 介護保険(4)・・・問題点とその検討

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業貢献度など ... 50 % レポート ... 50 %。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いていただき成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配付するレジュメ、参考資料、論文、新聞記事等をしっかり読んで、次の授業に参加していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治論 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生みなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

山本隆・難波利光・森裕亮『ローカルガバナンスと地方行財政』（2008年）ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治の理念【地方自治とは】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【明治・大正時代の地方自治史】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【機関委任事務のしくみ】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【首長と議会】【二元代表制】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【中央地方関係】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【地方分権改革】【法定受託事務】
- 8回 自治体広域化と地方自治①【自治体の規模論】
- 9回 自治体広域化と地方自治②【市町村合併】
- 10回 自治体広域化と地方自治③【自治体内分権】
- 11回 地方財政と地方自治①【地方財政の基礎編】
- 12回 地方財政と地方自治②【地方債の役割】
- 13回 地方財政と地方自治③【各地の財政改革と住民参加】
- 14回 これからの地方自治【パートナーシップ】【住民自治】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。日本行政論をとっておくとより理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会・政策の決定(合理的決定・ゴミ箱決定、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams, 政策の窓 (Policy Window)、政策実施・調整 (Policy Learning &Changes)・政策変数、終了・評価の政策過程と、アクターの参加 (内閣・官僚・国会、政府間関係、専門家組織、世論とメディア、NPO)とその構造 (補助金・Rent-Seekingのような利益誘導型政治等) について理論・事例を広く検討し、理解してもらう。
(キーワード ; 公私、公共政策、政策の決定、実施、政策調整、終了、アクターの参加、メディアの役割、ガバナンス)

教科書 /Textbooks

- ① 早川純一 貴 外 (2004)、政策過程論、学陽書房
- ② 足立幸男 (2006)、公共政策決定の理論 ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中郵章、竹下讓 (1987)、日本の政策過程 : 自民党・野党・官僚、梓出版社
- 中野実 (1992)、現代日本の政策過程、東京大学出版会
- 草野厚 (1997) 政策過程分析入門、東京大学出版会
- 中村昭雄 (1997)、日本政治の政策過程、芦書房、その他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 授業や本の紹介など
- 第 2回 政策の対象、政策の必要性、費用と利益、政策の種類など。
- 第 3回 政策過程、参加者、政策資源、
- 第 4回 政策過程の理論 1 (川辺川ダム決定を巡る各アクターの利害関係、ビデオ)
- 第 5回 政策過程の理論 2 (政策の窓、イシューネットワーク論、無意思決定論など、中野実 (1992)、草野厚 (1997) を参考。
- 第 6回 政策過程の理論 3 (新聞、インターネットとかで検索した事例分析)
- 第 7回 ~ 第10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、アクター、官僚と国会、政府間関係、利益誘導政治)、実施過程に関する論文などの参考、
- 第 11回 後援会、地域政治構造、
- 第 12回 地域政治と政策過程、中野実 (1992) などを参考。
- 第 13回 政策評価と市民参加、
- 第 14回、第 15回、関心のある政策 (個別事業) を選び、その政策過程を分析、検討。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・試験・発表・出席状況などから総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共経営論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に公共サービス再編成を対象とし、市場原理・企業的経営手法を取り入れた行政機関の管理改革の可能性と問題点を考えます。

教科書 /Textbooks

指定しない。毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
 - ・ 授業の進め方、成績評価について説明するので必ず出席してください。
- 第2回 - 4回 理論 新公共経営と政府体系
 - ・ 新公共経営 (NPM: New Public Management)、能率と責任などの概念整理、準市場化と準政府の拡大。
- 第5回 - 7回 事例 教育・文化施設編①
 - ・ 民間委託の類型化と指定管理者制度 ・ PFI
- 第8回 - 11回 事例 公共事業編
 - ・ 入札改革 ・ 財政投融资など
- 第12回 - 第15回 事例 教育・文化施設編②
 - ・ 学校選択制 ・ 株式会社立学校

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・・・50% レポート・・・50%
 (レポートは学期末に1回の提出)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経営論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

厳しい変革の時代を生き抜くために、企業は経営方針、意思決定の仕組み、組織を大転換しているが、地方自治体においても同様に、政策の選択と集中による都市経営方針を明確にし、戦略的な経営が行われるように、簡素で効率的な行政を進める行政改革・組織改革を進め、都市経営への住民参加に取り組んでいる。この講義では、地方自治体が、都市機能を高め、都市の自律的發展を目指して改革している組織の在り方について学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
 (大学のホームページから受講者がダウンロードすること)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 武藤博巳編著『自治体経営改革』自治体改革2(2004)ぎょうせい
- 天野巡一編著『職員・組織改革』自治体改革6(2004)ぎょうせい
- 大住荘四郎『NPMによる行政革命-経営改革モデルの構築と実践』(2003)日本評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経営論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 地方自治制度と地方分権
- 4回 地方自治体の組織と権能
- 5回 都市経営と政策
- 6回 都市経営と行政計画
- 7回 都市経営と行財政改革
- 8回 地方自治体の組織原理の変化
- 9回 新しい都市経営の基本姿勢
- 10回 新しい組織管理
- 11回 新しい人的資源管理
- 12回 地方公務員の雇用環境の変化
- 13回 新しい都市経営の主体①
- 14回 新しい都市経営の主体②
- 15回 レポート作成・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

激変する日本社会の中で、地方自治体は、住民・企業・団体等の様々なニーズに応じて都市機能を高め、住民福祉の向上や地域経済の活性化を図る財政運営を行っている。都市を取り巻く世界や日本の動きを理解した上で、地方自治体の財政がどのような仕組みで運営されているのか、その課題は何かを学ぶ。併せて、企業活動にどのような変化が出てきているのかを知り、都市経済の活性化のためにどのような政策が必要かを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
 (大学のホームページから受講者がダウンロードすること)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 和田八束ほか編『現代の地方財政(第3版)』(2004)有斐閣ブックス
- 神野直彦編著『地方財政改革』自治体改革8(2004)ぎょうせい
- 森一夫著『日本の経営-会社と人間のあるべき関係』(2004)日経文庫
- 寺本義也ほか著『技術経営の挑戦』(2004)ちくま新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経済論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 日本の経済状況と地方自治体の財政状況
- 4回 地方財政制度の概要
- 5回 国家財政と地方財政
- 6回 地方自治体の予算制度
- 7回 地方財政の収入構造
- 8回 地方税制度と課題
- 9回 地方交付税制度と課題
- 10回 その他の歳入と課題、自治体の歳出構造
- 11回 地方財政制度の課題と今後の方向
- 12回 都市における企業活動の変化と都市経済
- 13回 技術経営の変化
- 14回 技術移転
- 15回 レポート作成・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞の経済記事などを丹念に読み、日々の経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理（行政計画、政策評価、人事・組織・予算管理）など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書 /Textbooks
 指定しない。毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 - 2回 ガイダンスと概論 授業の進め方、成績評価について説明するので必ず出席すること。あわせて社会福祉サービスの政策的視点、行政組織・財政概要などを説明します。	福祉サービスの政策的視点、行政
第3回 - 6回 高齢者福祉と介護保険 ホームヘルプサービスや特別養護老人ホームなど在宅・施設サービスの内容と実施体制を理解します。介護保険から今後の福祉政策全般の動向を考えます。	体制を理解します。介護
第7回 - 9回 児童福祉 児童養護施設などを中心に在宅・施設サービスの内容と実施体制を理解します。保育所改革、児童虐待、少子化対策などの政策課題を考えます。	育所改革、児童虐待、少
第10回 - 15回 障害者福祉 グループホームなどを中心に在宅・施設サービスの内容と実施体制を理解します。障害者と雇用などの政策課題を考えます。	自立支援制度の動向、障

成績評価の方法 /Assessment Method
 期末試験・・・100% 出席・・・次のような加算を行う
 （試験は100点満点、60点以上で合格。概ね40～59点の人に対して出席1回につき2点程度の加算を行い、その結果60点を越えた人は合格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるの？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもちえてません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてもらいたいのは、環境問題の原点とも言われる水俣病です。そのことも毎年実施している私のゼミ及び「政策科学入門I」の環境学習研修旅行の記録を通して学習します。環境教育アクティビティを多用します。

教科書 /Textbooks

その都度資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 栗原彬『証言 水俣病』岩波新書、2000年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成19年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣病講義』日本評論社、2004年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---------------------------------------|------------|
| 第1回 「都市環境論」の授業内容とならひの説明：：簡単な環境意識度チェック | 【環境意識】 |
| 第2回 環境教育とESD (持続可能な開発のための教育) | 【ESD】 |
| 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告 | 【環境学習旅行】 |
| 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 | 【水俣病】 |
| 第5回 日本の環境政策 | 【環境政策】 |
| 第6回 北九州市の環境の現状 | 【北九州市】 |
| 第7回 廃棄物管理 その原理と現状 | 【廃棄物管理】 |
| 第8回 廃棄物管理 ～リサイクル、特にコンポストをめぐる | 【コンポスト】 |
| 第9回 下水処理をめぐる～下水処理の原理 | 【水質汚濁】 |
| 第10回 下水処理をめぐる～途上国インドのし尿処理問題 | 【途上国のし尿問題】 |
| 第11回 上水道 : : (アクティビティ=きき水比べ) | 【おいしい水】 |
| 第12回 大気汚染～汚染の原理と現状 | 【大気汚染】 |
| 第13回 大気汚染～身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定 | 【CO2計測】 |
| 第14回 環境保全・環境教育に取り組む人々=エコツーリズムに関わろう！ | 【エコツーリズム】 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 20 % 小課題の提出 ... 10 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学総論【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 達哉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、慣習、しきたり中心の社会から契約中心の法化社会へ移行しつつある現代社会において必要とされる基本的な法的知識を理解することを目標とします。また、法学についての基本的な考え方を習得することも講義のねらいとします。講義では、日常的な事例を挙げて説明します。日常生活が如何に法に密接に結びついているかを理解してもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

村田彰 編 『リーガルスタディー 法律学入門』 酒井書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

六法および法律用語辞典など (出版社の指定はありません)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 法学を学ぶにあたって「闘争」を意識する。
- 2回 社会規範について、法と道德との違い。
- 3回 法源、六法、法令の調べ方と読み方。
- 4回 判例の調べ方と読み方。
- 5回 裁判制度と法曹
- 6回 民事訴訟と刑事訴訟
- 7回 裁判員制度
- 8回 経済生活と法1 (民法と契約の種類)
- 9回 経済生活と法2 (契約と債務不履行)
- 10回 経済生活と法3 (民法の意思表示)
- 11回 経済生活と法4 (クーリングオフ)
- 12回 家族と法
- 13回 国家と法
- 14回 福祉と法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度(20%) + 知識の確認課題(40%) + レポート課題(40%)を総合的に評価します。
 ※受講態度は減点方式で評価します。私語・途中入退室・携帯電話など講義妨害行為を広く減点対象としております。講義の1回目で詳細を解説し9回目に再度確認します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義は教科書に則して進めます。耳慣れない用語は予め辞書などで調べておいてください。
 受講後に気になる用語があれば必ず辞書などで再確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにさせていただきたい。講義全体のキーワードは【立憲主義】と【民主主義】である。

教科書 /Textbooks

各回ごとにレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大隈義和他『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）
- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義 - 【国家権力の授権と制限】
- 第2回 憲法の展開 - 【近代から現代、そして未来へ】
- 第3回 人権総論① - 【人権の保障と制限】
- 第4回 人権総論② - 【裁判所による人権保障】
- 第5回 統治機構総論① - 【国民主権の意義】
- 第6回 統治機構総論② - 【日本の政治制度】
- 第7回 統治機構総論③ - 【司法制度と違憲審査制】
- 第8回 平和主義論① - 【憲法9条の制定・意義】
- 第9回 平和主義論② - 【平和主義の現実と未来】
- 第10回 平和主義論③ - 【憲法9条と裁判所】
- 第11回 地方自治 - 【新しい地方自治の姿と課題】
- 第12回 象徴天皇制 - 【天皇制の継続と断絶】
- 第13回 憲法保障 - 【憲法保障・憲法改正・憲法変遷】
- 第14回 総括
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 植木 淳 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

日本国憲法における人権理論について概説するとともに、そのことを通じて現代日本社会における問題についても検証する。人間には国家・社会によっても侵してはならない「自分だけの領域」があるはずである。そして、このような「自分だけの領域」の範囲について考えることが「人権論」だと考えている。講義全体のキーワードは【現代日本社会と人権】である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない』(青林書院・2008年)
- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 高橋和之他編『憲法判例百選・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | | |
|------|----------------|---|----------------------|
| 第1回 | 人権総論 | - | 【人権保障の意義・人権制約】 |
| 第2回 | 人権享有主体 | - | 【日本における外国人の人権】 |
| 第3回 | 特別権力関係論・私人間効力 | - | 【企業・団体による人権侵害】 |
| 第4回 | 幸福追求権 | - | 【プライバシー・名誉・自己決定】 |
| 第5回 | 平等原則 | - | 【尊属関係・嫡出性・選挙権】 |
| 第6回 | 精神的自由①(信教の自由) | - | 【政教分離】 |
| 第7回 | 精神的自由②(表現の自由) | - | 【事前抑制禁止と名誉・プライバシー保護】 |
| 第8回 | 精神的自由③(知る権利) | - | 【知る権利の現代的意義】 |
| 第9回 | 精神的自由④(学問の自由他) | - | 【大学の自治】 |
| 第10回 | 経済的自由 | - | 【営業の自由と経済規制】 |
| 第11回 | 社会権①(生存権) | - | 【生存権と社会保障】 |
| 第12回 | 社会権②(学習権・労働権) | - | 【「国家」「教師」「親」と「子供たち」】 |
| 第13回 | 人身の自由 | - | 【適正手続保障と日本の刑事手続】 |
| 第14回 | 参政権・受益権 | - | 【裁判を受ける権利】 |
| 第15回 | 総括 | | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法総則【昼】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

民法は、最も生活に密着した法律であり、「民法総則」という授業は、法学部における基本中の基本科目です。法学部生であれば、極力すべての人が、この民法総則を理解することが望まれます。この講義では、他の科目では講じられない法令用語についても、なんらかの形で時間を割いて説明します。

教科書 /Textbooks

山田卓生他『民法1 総則 Sシリーズ 第3版補訂』(有斐閣)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回(週) 民法とは、民法には何が書いてあるか、市民法の基本原理
- 2回(週) 【意思能力】、【未成年者】
- 3回(週) 【成年被後見人】他、【無効】と【取消】
- 4回(週) 【法人】
- 5回(週) 【物】、【法律行為】
- 6回(週) 法律行為の有効要件、【公序良俗】
- 7回(週) 【心裡留保】、【虚偽表示】
- 8回(週) 【錯誤】、【詐欺・強迫】
- 9回(週) 不動産登記のとの関係
- 10回(週) 【代理】、【無権代理】
- 11回(週) 【無権代理】、【表見代理】
- 12回(週) 【条件】、【期限】、【期間】
- 13回(週) 【時効】
- 14回(週) 【取得時効】、【消滅時効】
- 15回(週) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法は必ず持参して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 現代社会法は、労働法、社会保障法、衛生法などの法分野を包摂し、日本国憲法25条の生存権の具体化と関連の深い法分野である。現代社会における広範な人々の生活の向上のために、社会法が果たしている役割と、そのために開発されてきた社会法独自の法的方法を理解することを目的とするとともに、それぞれの法分野の役割と方法の特徴を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks
 ワープロで作成したテキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 河野正輝他編「社会保障論」法律文化社、浜村彰他著「ベーシック労働法」有斐閣

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 社会法とは
 - 2回 市民法から社会法へ 近代法の変容と社会立法の発生 [工場法、救貧法、労働者保険]
 - 3回 近代法原理と20世紀的憲法 [契約自由、市場原理、公共の福祉]
 - 4回 社会法の意義と役割 [朝日訴訟、労働権、社会保障制度審議会勧告]
 - 5回 社会法の体系と法的特徴 [公的規制、公的給付、特別私法]
 - 6回 福祉国家の公法と私法の社会性 [積極国家、民法1条、社会サービスの法律関係]
 - 7回 現代社会と貧困 [ワーキングプア、見えない貧困、非正規労働者、ホームレス]
 - 8回 労働法の体系と目的 [労働条件の最低基準、団結権]
 - 9回 所得保障法の体系と目的 [生活費の保障、特別費用の保障]
 - 10回 社会サービス法の体系と目的 [医療・介護・福祉サービス]
 - 11回 衛生法の体系と目的 [医事法、予防衛生、環境衛生]
 - 12回 社会権の保護と救済 [権利擁護、審査請求、労働審判]
 - 13回 経済社会的背景の転換と社会法の変容 [規制緩和、給付削減]
 - 14回 諸外国の社会法改革の動向 [アクティベーション、プライバティゼーション]
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 受講前に参考文献の関係箇所を一読しておく、講義内容が解りやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【昼】

担当者名 /Instructor 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

山中敬一著『刑法概説[総論]』（成文堂）2008年10月、2500円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論 [第5版]』（有斐閣）平成15年4月、2105円＋税
 立石二六編『刑法総論30講』（成文堂）平成19年3月（出版予定）、2800円＋税
 齊藤誠二編『演習ノート刑法総論〔全訂第3版〕』（法学書院）平成15年3月
 船山・清水・中村編『ケイスメソッド刑法総論』（不磨書房）平成15年3月、2000円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

第1回～第2回 刑法典の沿革、犯罪論の基本。【刑法の意義】、【犯罪】

第3回～第4回 学派の争い【主観主義刑法理論】、【客観主義刑法理論】

第5回～第6回 罪刑法定主義とその派生原則【類推解釈】、【遡及処罰の禁止】、【慣習法の排斥】、【絶対的不定期刑・不定期刑の禁止】、【構成要件の明確性】、【実体的デュープロセス】

第7回 犯罪の分類【結果犯】【単純行為犯】【実質犯】【形式犯】【侵害犯】【危険犯】 【即成犯】【状態犯】【継続犯】

第8回 犯罪論の体系【行為】【構成要件】【違法】【責任】

第9回～第10回 行為論【作為】、【不作為】、【作為犯】、【不作為犯】、【因果関係】

第11回～第12回 構成要件論【構成要件】、【認識根拠説】、【实在根拠説】

第13回～第14回 違法論【違法性の本質】、【結果無価値】、【行為無価値】、【可罰的違法性】 【許可された危険】

第15回～第17回 違法性阻却事由【正当行為】、【正当防衛】、【緊急避難】、【自救行為】

第18回～第20回 責任論【責任能力】、【故意】、【過失】、【原因において自由な行為】

第21回～第22回 未遂論【実行の着手】、【不能犯】、【中止犯】

第23回～第26回 共犯論【共犯学説】、【共犯の処罰根拠】、【共同正犯】、【教唆犯】、【従犯】、【共犯独立性説】、【共犯従属性説】、【間接正犯】、【共犯と身分】

第27回～第28回 共犯の諸問題【必要的共犯】、【不作為と共犯】、【結果的加重犯と共犯】、【共犯と錯誤】、【共犯と中止犯】、【予備の共犯】

第29回～第30回 罪数論【本来の一罪】、【科刑上一罪】、【包括一罪】、【併合罪】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・欠席を不定期でとり、出席点と学期末試験との総合点（学期末試験100%）で評価する。授業態度が悪い場合、減点の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：法学、刑法各論、刑事訴訟法を履修すると本講座の学習が効率的になります。法学はすべての法律学を学習する上で基本になる科目です。また、刑法各論、刑事訴訟法は同じ刑事法に属する科目ですから、強く関連しているからです。法学は本講座を履修する前に、刑法各論、刑事訴訟法は本講座を履修した後かまたは同時に履修するとよいでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法機構論 【昼】

担当者名 /Instructor 落合 俊行 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

戦後最年少で初の戦後生まれの安倍首相は、新たな時代を切り開く日本にふさわしい憲法をと、新憲法制定を正面から掲げて登場しました。「戦後体制からの脱却」のための社会改革がすすめられ、改憲論議が現実味を帯びています。「官僚主導」から「政治主導」を標榜した民主党が総選挙で圧勝し、選挙によるはじめての政権交代が実現しました。戦後60年間以上におよぶ政治を支えてきた日本国憲法は、内憂外患の政治状況のなかにあつて新たな局面を迎えています。戦後の荒廃と貧弱にあえいでいた日本は経済大国へと変貌し、また東西冷戦下にあつた世界は社会主義体制の自壊によって激変しました。こうした激動の時代を迎えて、わが国の政治のありかたも以前にまして国内外からきびしく問われてきています。わが国の自由と民主主義は「敗戦」を契機として「外から」与えられたものであつて、いわゆる市民革命を通して自ら獲得したものではありません。このような民主主義のひ弱さは、戦後政治の歩みのなかにさまざまな影を落としています。

憲法規範は国会中心主義（41条）と法の支配（81条）を指向していますが、憲法現実はずいぶん行政中心の行政国家現象です。この講義では、規範（憲法）と現実（政治）とのきわめて深刻な乖離を直視して、国会、内閣、裁判所、地方自治など統治システムについて理解を深め、人権保障のための統治システムを理解し、主権者として積極的に政治にかかわっていく目を養うことを目標とします。

教科書 /Textbooks

手島・安藤『新基本憲法学』（法律文化社、2600円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高見勝利『芦部憲法学を読む』（有斐閣）
 野中・中村・高橋・高見『憲法II』（有斐閣）
 芦部信喜『憲法』（岩波書店）
 佐藤幸治『憲法』（青林書院）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに（憲法の学習案内）
- 第2回 明治憲法の特徴とその運用
- 第3回 ポツダム宣言受諾と日本国憲法の制定
- 第4回 象徴天皇制
- 第5回 国民主権と代表制
- 第6回 国会と立法権
- 第7回 内閣と行政権
- 第8回 議院内閣制
- 第9回 裁判所と「法の支配」（違憲審査制度）
- 第10回 選挙制度と参政権
- 第11回 地方自治の本旨と住民自治
- 第12回 第9条と平和主義
- 第13回 憲法改正論議
- 第14回 主権者の視点から見た日本社会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ...30 % 定期試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
 毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 村上 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「行政法」とは、行政に関する法律のことで、約1600の現行法律のうち約3分の1に及びます。このように行政法の数が多い理由は、行政の仕事は、「ごみ集めから宇宙ロケットの打ち上げまで」といわれるように、極めて広範であり、しかも行政の仕事は私たちの権利義務に大きな影響を与えるため、行政の勝手に行われてはならず、国民の代表機関である国会が制定した法律に基づいて行われなければならないからです。授業では、私たちと行政とはどのような法律関係にあるのかを的確に理解できることを目標に、行政(特に地方自治体)の組織、住民の権利、行政の活動と私たちの権利の保障等について、具体的事例をできるだけ多く引用しながら説明していきます。

教科書 /Textbooks

手島孝他編『基本行政法学(第3版)』(法律文化社、2005年、2900円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○塩野宏他編『行政判例百選II(第5版)』(有斐閣、2006年、各2200円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回~2回 行政法とはどのような法か【法律による行政】、【法律の留保】
 - 3回~4回 行政機関、国の行政組織【行政主体】、【行政機関】
 - 5回~6回 地方自治体の行政組織【二元代表制】、【地方議会】
 - 7回~8回 住民の権利(1)【直接請求】、【住民監査請求と住民訴訟】
 - 9回~10回 住民の権利(2)【情報公開制度】、【個人情報保護制度】
 - 11回~12回 行政主体の人的要素【公務員制度】
 - 13回~14回 行政主体の物的手段【公物】、【公の施設】
 - 15回~16回 行政の活動形式【行政立法】
 - 17回~18回 行政行為(1)【行政行為】の意義と種類
 - 19回~20回 行政行為(2)【行政行為】の効力
 - 21回~22回 その他の活動形式【行政契約】、【行政計画】、【行政指導】、【行政調査】
 - 23回~24回 行政手続【行政手続法(条例)】
 - 25回~26回 行政の実効性確保(1)【行政上の強制執行】、【即時強制】
 - 27回~28回 行政の実効性確保(2)【行政罰】、その他の手段
 - 29回~30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

様々な法律を参照することが多くありますので、必ず六法を持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

物権法 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

民法典は、財産の所有や契約、家族関係など身近な人間関係の中で形成される権利や義務について定めています。本講義は、民法典第二編において用意されている物権 (=人が物に対して有している権利) に関する規定の原理・原則、要件・効果などの基礎知識と法の解釈を学びます。

教科書 /Textbooks

淡路剛久 = 鎌田薫 = 原田純孝 = 生熊長幸 『民法II物権〔第3版〕』 (有非閣Sシリーズ、2005年、1995円)
中田裕康ほか編 『民法判例百選I・総則・物権〔第6版〕』 (有斐閣、2009年、2200円)。
* 六法 (出版社は問わない) は必携です。講義には上記教科書と六法の「3点セット」を必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 ガイダンス / 物権法序論【物権の意義と性質】【物権の種類】【物権の効力】
 - 2回 【所有権】と【占有権】
 - 3回 【物権的請求権】
 - 4回 物権変動(1) 不動産物権変動総論 (【物権変動の法的構造】)
 - 5回 物権変動(2) 不動産物権変動各論① (不動産登記制度と【物権変動の対抗要件】)
 - 6回 物権変動(3) 不動産物権変動各論② (背信的悪意者と民法177条)
 - 7回 物権変動(4) 【動産物権変動と対抗要件】
 - 8回 物権変動(5) 【動産の即時取得】
 - 9回 物権変動(6) 法律行為の取消と登記 (民法総則で学んだ事項の発展・応用編)
 - 10回 物権変動(7) 取得時効と不動産登記 (民法総則で学んだ事項の発展・応用編)
 - 11回 共同所有【持分の法的性質】【共有物の分割】【共有物の利用と明渡請求】
 - 12回 担保物権(1) 【留置権】 / 【先取特権】 / 【質権】
 - 13回 担保物権(2) 【抵当権】
 - 14回 担保物権(3) 非典型担保【仮登記担保】【譲渡担保】【所有権留保】
 - 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・100%
期末試験(90分・論述問題)を実施し、その得点を成績評価に反映させます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「民法総則」を受講済みであることが望ましいです。講義は毎回レジユメを配布します。事例の解説に重点を置いています。六法の条文を「見る」のではなく「読む」習慣を身につけてください。試験は、判例なし六法のみ持込を許可しています(付箋・ラインマーカーはOK。書き込みは不可)。私語をはじめ、他の受講者の迷惑になるような行為は厳禁です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族法 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

家族法（親族法・相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思いがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

教科書 /Textbooks

木幡文徳他著『講読親族法・相続法[第2版]』不磨書房 / 信山社（2007年8月）3,000円、水野紀子他編著『家族法判例百選（第7版）』有斐閣（2008年10月）2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣、○中川善之助＝泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣、○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
- 2回 婚姻制度①【婚姻】【婚約】【内縁】
- 3回 婚姻制度②【婚姻】【婚約】【内縁】
- 4回 婚姻制度③【婚姻】【婚約】【内縁】
- 5回 離婚制度①【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 6回 離婚制度②【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 7回 離婚制度③【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 8回 親子制度①【実子】【養子】【親権】【後見】
- 9回 親子制度②【実子】【養子】【親権】【後見】
- 10回 親子制度③【実子】【養子】【親権】【後見】
- 11回 扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
- 12回 法定相続制度①【相続人】【相続分】【遺産分割】
- 13回 法定相続制度②【相続人】【相続分】【遺産分割】
- 14回 遺言相続制度【遺言】【遺言執行】【遺留分】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義には、六法を必ず持参してください。「私法入門」「民法総則」、「物権法」を既に履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本経済入門 A 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

第二次世界大戦後から1970年代までの日本経済の発展の歴史を学ぶ。また、その学習を通して、今日の日本経済がどのように形作られ、どのような特徴を持つに至ったのかを説明する。

教科書 /Textbooks

橋本寿朗ほか(2006)『現代日本経済 - 新版』有斐閣アルマ (2625円 - 価格は、変更の可能性あり)。なお、本テキストは、現代日本経済入門Bのテキストと同一である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがあります。

- 1 回現代日本経済をみる眼と戦後改革
- 2 回経済復興
- 3 回高度成長のメカニズムについての概説
- 4 回産業政策の効果
- 5 回メインバンク・システム
- 6 回安定株主化
- 7 回建造高世界一の造船業
- 8 回輸出世界一の鉄鋼業
- 9 回「民族大移動」と大量消費社会の出現
- 10 回エネルギー革命
- 11 回石油危機と経済構造の転換についての概説
- 12 回赤字国債
- 13 回下請制
- 14 回生産台数世界一の自動車産業
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10~20% 期末試験...80~90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本経済入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 現代の日本経済が抱える問題点について平易に解説していく。中心的なテーマは、日本企業の国際競争力、流通革命、情報化と組織革新、不良債権問題、規制緩和と企業制度改革などである。
 以上のことながらを解説しながら、日本経済と日本企業が直面しているシステム転換の実相を明らかにしていく。

教科書 /Textbooks
 橋本寿朗他著『現代日本経済 新版』有斐閣アルマ、2006年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 (【 】内はキーワード)
 1回 イントロダクション
 2回 日本経済のトレンド(1) 【安定成長】 【バブル経済】 【中国市場】
 3回 日本経済のトレンド(2) 【グローバル化】 【企業統治】 【IT革命】
 4回 日本企業の国際競争力 【東アジア市場】 【電機産業】 【自動車産業】
 5回 日本企業のアジア展開 【アジア間ネットワーク】 【対外開放】
 6回 流通革命と情報化のインパクト 【IT革命】 【サプライチェーン】 【大規模小売店】
 7回 1～6回の復習とまとめ
 8回 トヨタイズムと地域経済 【ジャストインタイム】 【自動車クラスター】
 9回 不良債権問題 【債権大国】 【バブル経済の崩壊と再生】
 10回 規制緩和と企業制度改革 【日本型企业システム】 【構造改革】
 11回 日本企業の組織改革 【フラット化】 【ICT】
 12回 7～11の復習とまとめ
 13回 企業の新規事業展開(各論) 【イノベーション】 【クラスター】
 14回 日本経済のシステム転換 【新日本型ハイブリッド】 【分権化】
 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method
 課題 ... 10～20% 期末試験 ... 80～90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 現代日本経済入門Aを履修することがのぞましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
この講義では、経済学学習の最初の導入として、ミクロ経済学の初歩的な考え方、分析道具の習得を目指します。また、下記の講義内容で挙げられた事項を練習問題を通じて習得し、今後の経済学学習の土台を築きます。

教科書 /Textbooks
適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』(第2版) 東洋経済新報社、2005年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
なぜ経済学を学ぶのか、経済学の考え方(仮定の役割、モデル分析)
- 2回 グラフの読み方、1次関数の学習
【傾き】、【切片】の概念など
- 3~5回 相互依存と交易について(1)
【生産可能性】
- 6~7回 相互依存と交易について(2)
【絶対優位】、【比較優位】
- 8~9回 市場における需要と供給(1)
【市場】と【競争】、【需要】、需要の弾力性、【需要曲線】のシフト
- 10~11回 市場における需要と供給(2)
【供給】、供給の弾力性、【供給曲線】のシフト、
- 12~13回 市場均衡について
【価格】、【均衡】
- 14~15回 経済学再考
市場メカニズムの働き、弾力性概念の利用、
講義内容は進度により若干の変更または追加される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method
評価方法は各担当教員の指示に従うこと。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 この講義では、経済学学習の最初の導入として、ミクロ経済学の初歩的な考え方、分析道具の習得を目指します。また、下記の講義内容で挙げられた事項を練習問題を通じて習得し、今後の経済学学習の土台を築きます。

教科書 /Textbooks
 適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 マンキュー『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』(第2版) 東洋経済新報社、2005年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
なぜ経済学を学ぶのか、経済学の考え方(仮定の役割、モデル分析)
- 2回 グラフの読み方、1次関数の学習
【傾き】、【切片】の概念など
- 3~5回 相互依存と交易について(1)
【生産可能性】
- 6~7回 相互依存と交易について(2)
【絶対優位】、【比較優位】
- 8~9回 市場における需要と供給(1)
【市場】と【競争】、【需要】、需要の弾力性、【需要曲線】のシフト
- 10~11回 市場における需要と供給(2)
【供給】、供給の弾力性、【供給曲線】のシフト、
- 12~13回 市場均衡について
【価格】、【均衡】
- 14~15回 経済学再考
市場メカニズムの働き、弾力性概念の利用、
講義内容は進度により若干の変更または追加される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method
 評価方法は各担当教員の指示に従うこと。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
 この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks
 井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
 経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 テキストに沿って講義を行う。
 1回 インTRODクシヨN (マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
 2・3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
 4・5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】【名目と実質】
 6・7回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】【利子率】
 8・9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】【金融政策】【為替】
 10・11回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
 12・13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
 15回 まとめ
 (第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
 この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks
 井出多加子・井上智夫・北川浩・幸村千佳良 著
 経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 テキストに沿って講義を行う。
 1回 イントロダクション (マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
 2・3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
 4・5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】【名目と実質】
 6・7回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】【利子率】
 8・9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】【金融政策】【為替】
 10・11回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
 12・13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
 15回 まとめ
 (第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント論基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

坂下昭宣『経営学への招待 改訂版』2000年、白桃書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【ドラッカー】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 日本の経営論特徴と課題【終身雇用】【年功制】【成果主義】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果によるが、必要に応じて出席点。小テストの結果を加味する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営情報学科の基礎科目なので出席をしっかりとるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

坂下昭宣『経営学への招待 改訂版』2000年、白桃書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【ドラッカー】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 日本の経営論特徴と課題【終身雇用】【年功制】【成果主義】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果によるが、必要に応じて出席点。小テストの結果を加味する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営情報学科の基礎科目なので出席をしっかりとるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

経営学を学習するには、「学説(史)」・「経営組織論」・「経営戦略論」や「経営学各論(人事・ファイナンス・マーケティングなど)」・「現代企業の経営」という各分野をカバーしなければならない。
この講義では、上記の分類からすると「現代企業の経営」につき発展的に関連するように、企業形態・株式会社制度・日本の企業と経営・経営史(経営事情)について学習していく。

教科書 /Textbooks

細川孝・桜井徹編『転換期の株式会社』ミネルヴァ書房、2009年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

佐久間信夫編『よくわかる企業論』ミネルヴァ書房(2006年)やロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書(2006年)および谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店(2009年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業形態と会社 【起業】【企業】【会社】【私企業】【公企業】【公私混合企業】
- 2回 企業形態の分布 【税務統計からみた法人企業の実態】
- 3回 私企業1 【会社法と企業形態】【持分会社】【公開会社と非公開会社】
- 4回 私企業2 【企業集中】【持株会社】【多国籍企業】
- 5回 私企業3 【株式会社と証券市場】【所有と経営との分離】【経営者支配】
- 6回 株式会社制度1 【会社機関】【会社法と会社機関】【企業ガバナンス】
- 7回 株式会社制度2 【企業のファイナンス】【直接金融】【間接金融】
- 8回 株式会社制度3 【株式所有構造】【株主行動の変化】
- 9回 株式会社の国際比較1 【米国の株式会社】【ドイツの株式会社】
- 10回 株式会社の国際比較2 【中国における株式会社】【資本主義・社会主義市場経済】
- 11回 企業統治1 【機関設計の多様化】【委員会設置会社】
- 12回 企業統治2 【取締役会の改革と会社経営者】
- 13回 持株会社の解禁 【独禁法】【企業集団】【持株会社】
- 14回 株式会社の社会的責任 【現代と株式会社】【企業不祥事】【CSR】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして的小テスト...20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

①、講義の際、レジュメを用意するが、レジュメだけにしがみつかない。②、現実に関心をもつこと。③、経営学全体を意識しながら学習してほしい。④、自分にあった参考文献を見つけよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

経営学を学習するには、「学説(史)」・「経営組織論」・「経営戦略論」や「経営学各論(人事・ファイナンス・マーケティングなど)」・「現代企業の経営」という各分野をカバーしなければならない。
この講義では、上記の分類からすると「現代企業の経営」につき発展的に関連するように、企業形態・株式会社制度・日本の企業と経営・経営史(経営事情)について学習していく。

教科書 /Textbooks

細川孝・桜井徹編『転換期の株式会社』ミネルヴァ書房、2009年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

佐久間信夫編『よくわかる企業論』ミネルヴァ書房(2006年)やロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書(2006年)および谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店(2009年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業形態と会社 【起業】【企業】【会社】【私企業】【公企業】【公私混合企業】
- 2回 企業形態の分佈 【税務統計からみた法人企業の実態】
- 3回 私企業1 【会社法と企業形態】【持分会社】【公開会社と非公開会社】
- 4回 私企業2 【企業集中】【持株会社】【多国籍企業】
- 5回 私企業3 【株式会社と証券市場】【所有と経営との分離】【経営者支配】
- 6回 株式会社制度1 【会社機関】【会社法と会社機関】【企業ガバナンス】
- 7回 株式会社制度2 【企業のファイナンス】【直接金融】【間接金融】
- 8回 株式会社制度3 【株式所有構造】【株主行動の変化】
- 9回 株式会社の国際比較1 【米国の株式会社】【ドイツの株式会社】
- 10回 株式会社の国際比較2 【中国における株式会社】【資本主義・社会主義市場経済】
- 11回 企業統治1 【機関設計の多様化】【委員会設置会社】
- 12回 企業統治2 【取締役会の改革と会社経営者】
- 13回 持株会社の解禁 【独禁法】【企業集団】【持株会社】
- 14回 株式会社の社会的責任 【現代と株式会社】【企業不祥事】【CSR】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして的小テスト...20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

①、講義の際、レジユメを用意するが、レジユメだけにしがみつかない。②、現実に関心をもつこと。③、経営学全体を意識しながら学習してほしい。④、自分にあった参考文献を見つけよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。

教科書 /Textbooks
 白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）。
 加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）。
 TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
- 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
- 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
- 4回 簿記の要素【収益】【費用】
- 5回 取引と勘定
- 6回 仕訳と転記【仕訳】
- 7回 仕訳と転記【転記】
- 8回 仕訳帳と元帳
- 9回 試算表
- 10回 精算表
- 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
- 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
- 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
- 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 予習・復習を必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。

教科書 /Textbooks
 白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）。
 加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）。
 T A C簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（T A C出版）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
- 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
- 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
- 4回 簿記の要素【収益】【費用】
- 5回 取引と勘定
- 6回 仕訳と転記【仕訳】
- 7回 仕訳と転記【転記】
- 8回 仕訳帳と元帳
- 9回 試算表
- 10回 精算表
- 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
- 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
- 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
- 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 予習・復習を必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習を必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習を必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学I【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

教科書 /Textbooks

P.G.ホーエル『初等統計学』培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 森棟公夫『統計学入門』新世社（ほぼテキストと同じレベル。簡明な記述が特色。）
- P.G.ホーエル『入門数理統計学』培風館（テキストよりも若干難しい。）
- 鍋谷清治、丸山文行、河田敬義『大学演習数理統計』裳華房（本格的な演習書）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 統計学とは何か（ガイダンス）
- 2回 点推定と区間推定
- 3回 記号Pr{ }の意味
- 4回 点推定の根拠と確率変数の平均
- 5回 区間推定の根拠と確率変数の分散
- 6回 シミュレーションによる確率分布の導出
- 7回 点推定と区間推定に関する標準的な問題
- 8回 小テスト1および中心極限定理
- 9回 割合pに関する仮説検定（準備）
- 10回 割合pに関する仮説検定（本体）
- 11回 割合pに関する仮説検定（発展）
- 12回 割合の差に関する仮説検定
- 13回 片側検定
- 14回 χ^2 乗検定
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト1 50% 小テスト2 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学II 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義は統計学Iの受講を前提として、実際の統計解析の分野で多用される回帰分析を中心に展開される。

教科書 /Textbooks
 P.G.ホーエル『初等統計学』培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○森棟公夫『統計学入門』新世社 (ほぼテキストと同じレベル。簡明な記述が特色。)
 ○P.G.ホーエル『入門数理統計学』培風館 (テキストよりも若干難しい。)
 ○鍋谷清治、丸山文行、河田敬義『大学演習数理統計』裳華房 (本格的な演習書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 連続型確率変数の平均と分散
- 2回 連続型確率変数の平均と分散の点推定
- 3回 μ の区間推定 (大標本法)
- 4回 μ の検定 (大標本法)
- 5回 μ の区間推定 (小標本法)
- 6回 μ の検定 (小標本法)
- 7回 小テスト1および正規分布
- 8回 回帰分析 - 導入
- 9回 回帰分析 - 最小二乗法、回帰式
- 10回 回帰分析 - 決定係数
- 11回 回帰分析 - σ^2 の推定、 α 、 β に関するt変量
- 12回 回帰分析 - シミュレーションによる、推定量の確率分布の導出
- 13回 回帰分析 - α 、 β に関するt検定
- 14回 回帰分析 - 株価の回帰分析 (実習)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト1 50% 小テスト2 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数学【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

経営や情報で使われる数量によるデータの変化は関数としてあらわされます。関数の性質を微分法の観点から理解していくため、様々な例題や練習問題を通して微分や積分の概念や応用を学びます。

教科書 /Textbooks

「新しい微分積分」培風館、渡辺、厚山、水谷、松本著、1600円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○「経済・経営系 数学概説」新世社、竹内著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～ 2回 関数の考え方と微分：【関数の極限】、【連続関数】、【接線】、【導関数】、【線形性】
 - 3回～ 4回 指数関数と対数関数：【指数関数のグラフ】、【逆関数】、【対数関数のグラフ】
 - 5回～ 6回 導関数：【多項式の微分】、【指数関数の微分】、【対数関数の微分】
 - 7回～ 8回 微分：【関数の和・差の微分】、【関数の積・商の微分】
 - 9回～ 10回 微分法：【合成関数の微分】、【対数微分】、【逆関数の微分】、【曲線とグラフ】
 - 11回～ 12回 不定積分：【多項式的不定積分】、【指数関数・対数関数の不定積分】
 - 13回～ 14回 定積分：【多項式の定積分】、【指数関数・対数関数の定積分】
 - 15回 まとめ
- 新しいことを学ぶたびに、例題を計算して解きます。例題を通して、問題解決方法を具体的に学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30% 期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲からレポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。経営数学で学んだことが、経済・経営・情報などで基礎として活用されます。さらに「経営統計」を履修すると、確率分布の使い方などがよく分かります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営統計【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

統計学は経営や情報において数量的データを扱う上での基本的な学問です。表やグラフを使い、経営のために必要な統計学的分析方法と考え方を経済・経営・情報などの様々な例題とデータを通して身につけていきます。さらに、経営の数理モデルへの応用方法を学びます。授業内容は統計の基礎知識と推定や検定など統計学の応用がテーマです。

教科書 /Textbooks

「初等統計学」培風館、P.G.ボーエル著、浅井晃、村上正康訳、1700円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「統計学の基礎」培風館、J.C.ミラー著、村上正康訳

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データの表現：【度数分布表】、【平均】、【分散】、【標準偏差】
- 2回 確率：【確率】、【条件付き確率】
- 3回 確率分布表：【確率分布表】、【期待値】、【平均と分散の性質】
- 4回 確率分布：【独立試行】、【2項分布】
- 5回 確率分布：【一様分布】、【正規分布】
- 6回 標本抽出：【中心極限定理】、【統計学の基礎理論】
- 7回 推定：【大標本法】
- 8回 推定：【小標本法】、【t分布】
- 9回 仮説検定：【大標本法による平均の検定】、【片側・両側検定】
- 10回 仮説検定：【小標本法による検定】、【2つの平均の差の検定】
- 11回 相関：【相関係数】
- 12回 回帰分析：【最小2乗法】
- 13回 カイ2乗検定：【カイ2乗分布】
- 14回 カイ2乗検定：【適合度の検定】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30% 期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲からレポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。統計学の基本的な考え方や道具立てを学ぶために、この科目を履修することをぜひお勧めします。さらに、「データ解析」を履修すると、コンピュータを使った統計が学習できます。「マーケティング論」を履修すると、実践的なデータで統計学が活用できます。さらに、3年次の「経営数学」ではこの「経営統計」と「数学」をもとに、経営における数学の利用を学びます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済I【昼】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

地域経済およびそれを取り巻く環境が大きく変化していることを理解するために、国と地域のあり方、それぞれの政策などについて解説する。この講義ではとくに基礎的な理論、考え方に焦点を当てていく。そしてそうした動きが我々の日常生活とどのように関係しているのかを考えてもらいたい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田知弘・鈴木誠・川瀬光義・富樫幸一『国際化時代の地域経済学(第3版)』有斐閣、2007年。
 その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 経済の変化と地域(講義の概要)
- 2回 地域経済の構成【企業立地】【家計】【社会資本】
- 3回 地域が抱える様々な問題【地域間格差】【ナショナルミニマム】
- 4回 地域経済変化の要因【産業構造】
- 5回 九州地域の産業構造と経済【食糧基地】【分工場経済】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 地方分権の動き(1)【地方自治】
- 8回 地方分権の動き(2)【権限委譲】【規制緩和】
- 9回 地方財政【三位一体の改革】
- 10回 中心市街地活性化(1)【都市の空洞化】
- 11回 中心市街地活性化(2)【まちづくり3法】
- 12回 7～11回の復習とまとめ
- 13回 都市計画【都市施設】【用途地域】
- 14回 道州制の導入に向けた動き【道州制】【連邦制】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10～20 % 期末試験 ... 80～90 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域経済II』『地域政策』の基礎となっている。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済II 【昼】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

地域が現在直面している問題について、具体的なテーマをもとにして解説する。そうした問題の背景にあるもの、地域経済に対して与える影響、解決するためにとられている政策などを幅広い観点から理解してもらうことを目的としている。これまでに学んだ経済学の考え方が、地域経済にどのように適用されるかについても検討してもらいたい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田知弘・鈴木誠・川瀬光義・富樫幸一『国際化時代の地域経済学(第3版)』有斐閣、2007年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済を取り巻く環境の変化(講義の概要)
- 2回 市町村合併の進展とその影響(1)【地方分権】
- 3回 市町村合併の進展とその影響(2)【合併特例法】
- 4回 地域の環境問題(1)【地球環境の変化】
- 5回 地域の環境問題(2)【エコタウン】
- 6回 1~5回の復習とまとめ
- 7回 観光産業の振興とまちづくり【インバウンド振興】
- 8回 産業クラスター戦略(1)【産業集積】
- 9回 産業クラスター戦略(2)【イノベーション】
- 10回 7~9回の復習とまとめ
- 11回 人口減少の影響とその対策(1)【少子高齢化】
- 12回 人口減少の影響とその対策(2)【中山間地域】【限界集落】
- 13回 人口減少の影響とその対策(3)【コンパクトシティ】
- 14回 地域経済の今後
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10~20 % 期末試験 ... 80~90 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『地域経済I』、『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域政策』の基礎となっている。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論I【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I(および「金融論II」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動について学習する。

教科書 /Textbooks

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回～3回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 4回～6回 家計の金融活動【資産選択】【負債】
- 7回～10回 企業の金融活動【MM定理】【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 11回～14回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストまたは宿題 ... 30% 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論II 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 「金融論I」に引き続き、日本の金融システムを中心に金融制度と金融理論の理解を深める。本講義では、銀行の経済活動やその他金融機関の役割を政府の規制・保護政策を交えて学習する。これらを学習することで、日本の金融システムの長所・短所を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks
 藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回～3回 わが国の銀行とメインバンク制【不良債権処理】【BIS】規制
 4回～6回 プルーデンス政策【銀行規制】【破綻処理】
 7回～10回 日本銀行と金融政策【中央銀行の独立性】【金融政策の波及経路】
 11回～14回 わが国の金融政策【バブル経済】【量的緩和政策】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テストまたは宿題 ... 30% 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 1学期の「金融論I」で金融制度の基礎知識を学習しておくこと、講義内容が理解しやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、直接投資を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 比較優位の理論I【絶対優位】【貿易パターン】
- 3回 比較優位の理論II【リカードモデル】【比較優位】【貿易の利益】
- 4回 ミクロ経済学の復習【生産可能性曲線】【無差別曲線】
- 5回 一般均衡分析【貿易三角形】【オファー曲線】
- 6回 要素賦存の理論I【ヘクシャー＝オリーン・モデル】【要素賦存】【要素集約度】
- 7回 要素賦存の理論II【リプチンスキーの定理】【ストルパー＝サムエルソンの定理】
- 8回 規模の経済と不完全競争
- 9回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 10回 小国の貿易政策【関税政策】、【補助金政策】
- 11回 小国の貿易政策【数量割当政策】
- 12回 大国の貿易政策【最適関税の理論】
- 13回 経済統合【自由貿易地域】
- 14回 国際要素移動【海外直接投資】
- 15回 国際要素移動【労働の国際移動】

成績評価の方法 /Assessment Method

(授業中の) 小テスト 50 % 期末試験 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の基礎知識を習得した上に履修してください。
国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 国際収支表【経常収支】【資本収支】
- 3回 異時点取引としての国際金融取引【時間選好率】【利子率】
- 4回 外国為替の基礎【為替相場制度】【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 5回 為替レートの決定要因I【購買力平価】
- 6回 為替レートの決定要因II【金利平価】
- 7回 為替レートの決定理論【フロー・アプローチ】【アセット・アプローチ】
- 8回 為替介入【不胎化政策】
- 9回 開放経済の45度線分析【国民所得決定】
- 10回 開放経済下のマクロ経済政策I【IS曲線】、【LM曲線】、【BP曲線】
- 11回 開放経済下のマクロ経済政策II【マンデル＝フレミングモデル】【固定相場制】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策III【マンデル＝フレミングモデル】【変動相場制】
- 13回 国際金融システムI【通貨危機の構造】
- 14回 国際金融システムII【国際通貨制度の考え方】
- 15回 国際金融システムIII【通貨統合の論理】

成績評価の方法 /Assessment Method

(授業中の) 小テスト 50 % 期末試験 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学の基礎知識を習得した上に履修してください。
国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。 東北大学経営学グループ 著『ケースに学ぶ経営学[新版]』有斐閣。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求—』有斐閣、1997年、井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年、石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第 2回 経営戦略論の議論の歴史 1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第 3回 経営戦略論の議論の歴史 2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第 4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第 5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第 6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第 7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第 8回 競争の戦略 1【5フォース】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第 9回 競争の戦略 2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第 10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第 11回 戦略と企業間関係【サプライチェーン】、【ビジネスシステム】【アライアンス】
- 第 12回 経営戦略と組織 1【組織形態】、【事業部性】、【マトリックス組織】
- 第 13回 経営戦略と組織 2【組織革新】、【組織学習】【知識創造】。
- 第 14回 事例研究【組織文化】、【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果によるが、必要に応じて出席点。小テストの結果を加味する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論I【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 初歩的なゲーム理論とその応用の紹介を行う。寡占のような経済現象に限らず、様々な分野の分析を行う予定。2つの演習を行う。1つは、道具の操作性を高める演習。もう1つは、学生自ら、興味のある経済現象を選択し、分析を行う演習。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 渡辺隆裕 『ゼミナール・ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2008年。
 岡田章 『ゲーム理論・入門-人間社会の理解のために』有斐閣、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 産業組織論(経済学)とゲーム理論【背景の理解】
 2-7回 戦略形・均衡概念とその応用【静学・数量競争・価格競争】
 8-12回 展開形・均衡概念とその応用【動学・数量競争・価格競争】
 13-15回 不完備情報・均衡概念とその応用【情報・ネットワーク財】

成績評価の方法 /Assessment Method
 課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 ミクロ経済学の基礎知識を前提とする。事前にミクロ経済学の講義を受講すること。または、自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 Industrial Organizationの日本語訳が産業組織論である。Industryという言葉は、昔、『市場』や『取引』という意味を持っていたようです。現代だと、産業組織論は、市場組織論(Market Organization)と呼ぶ方が相応しいのかもしれませんが。講義では、消費者と企業が取引する市場に注目し、効率的な取引を行うことを考えます。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 Luis Cabral. Introduction to Industrial Organization. Cambridge, MA: MIT Press. 2000.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論のコンセプト【背景の理解】
- 2-3回 ミクロ経済学の復習【費用の復習】
- 4-5回 完全競争【ベンチマーク】
- 6-7回 寡占と公共政策【公正取引委員会の仕事】
- 8-9回 独占と公共政策【公正取引委員会の仕事】
- 10回 カルテル【公正取引委員会の仕事】
- 11-12回 市場構造分析【極限定理と無限繰り返しゲーム】
- 13回 自然独占と差別価格【余剰】
- 14-15回 標準化とネットワーク外部性

成績評価の方法 /Assessment Method
 課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 産業組織論I・ミクロ経済学の知識を前提とする。事前にミクロ経済学の講義を受講すること。自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

教科書 /Textbooks

奥林康司編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
 (上記著書の翻訳書として上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂が公開されています。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 2回 人的資源管理の歴史的発展【人事管理論】【人的資源管理論】
 - 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
 - 4回 職務設計【職務拡大】【職務充実】
 - 5回 組織設計【分業】【調整】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 職能資格制度と人事考課制度【人事等級制度】【人事考課】
 - 8回 専門職制度【組織内プロフェッショナル】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】
 - 10回 教育訓練制度とキャリア開発【選択型研修】【自律的キャリア】
 - 11回 福利厚生制度【カフェテリア・プラン】
 - 11回 非正規従業員と人材ポートフォリオ【雇用形態の多様化】
 - 12回 女性労働【ジェンダー】【ダイバーシティ】
 - 13回 労使関係【企業別労働組合】
 - 14回 人的資源管理領域における最近の学説【戦略的人的資源管理論】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% (出席は不定期に取り、単位の修得条件とする) 期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくことよい。
 また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【昼】

担当者名 /Instructor 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、企業や個人でのコンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。また、単にコンピュータを使うのではなく、コンピュータシステムの本質を理解することを目的とする。そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組み、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【ファイル】【ユーザインタフェース】
 - 2回 通信技術とコンピュータの融合の進展【LAN】【TCP/IP】【インターネット】
 - 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
 - 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
 - 5回 データ検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
 - 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【DFD】
 - 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】【クリティカルパス】
 - 8回 問題解決のためのモデル(その2)【フローチャート】【デジコンテーブル】
 - 9回 コンピュータでのデータ表現と計算【2進数】【誤差】
 - 10回 問題演習【条件分岐】【PERT】
 - 11回 これからのコンピュータ【クラウドコンピューティング】【SaaS】
 - 12回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【i-Japan計画】
 - 13回 身の回りの情報技術やメディア【携帯端末】【電子マネー】【画像認識】
 - 14回 問題演習【暗号】【情報落ち】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探す等で自己学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論I【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』新世社、（2007年11月）、1,800円（当時）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会计学）とは何か？【経済活動】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【売却時価】
- 7回 発生主義と実現主義【費用の発生】【収益の実現】
- 8回 資産とは何か 【流動・固定分類】
- 9回 負債とは何か 【債務】
- 10回 原価と時価【有用性】
- 11回 純資産とは何か【資本】【利益】
- 12回 企業会計のルール【企業会計原則】
- 13回 明瞭性の原則【ディスクロージャー】
- 14回 財務報告【投資家】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む） ... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』新世社、（2007年11月）、1,800円（当時）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会（2005年）、4,600円（当時）
西澤健次『負債認識論』国元書房（2005年）、2,300円（当時）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計と言語【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 費用配分という考え方【期間損益】
- 4回 減価償却について【定額法】【定率法】
- 5回 引当金の会計（その1）【退職給付会計】
- 6回 引当金の会計（その2）【条件付債務】【修繕引当金】
- 7回 負債概念について【退職給付会計】
- 8回 有価証券の会計【評価益】
- 9回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 10回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 11回 有価証券評価益と実現概念【原価】【時価】
- 12回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 13回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 14回 財務報告【金融商品取引法】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論の講義をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミングI【昼】

担当者名
/Instructor

隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを用いて、プログラムの作成を行う。
解決すべき問題を正確に把握したうえで、その問題の解決方法を構築する力を養うことを目指す。正確なプログラムを書くことも大切であるが、論理的な考え方を身につけることもこの講義の大きな目標である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋 麻奈 著『やさしいJava』ソフトバンククリエイティブ
(株)アंक 著『Javaの絵本』翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 基本操作【Java】【Eclipse】
 - 2回 Javaの利用【Eclipse】【コメント】
 - 3回 変数の利用【変数宣言】【データ型】【算術演算子】
 - 4回 繰り返し(forループ)【forループ】【条件式】
 - 5回 繰り返し(whileループ)【whileループ】【do-whileループ】
 - 6回 配列の利用【配列宣言】
 - 7回 条件分岐【if文】【条件式】【論理演算子】
 - 8回 問題演習1
 - 9回 値の入力【例外処理】【BufferedReaderクラス】
 - 10回 コマンドライン引数【コマンドライン】【例外処理】
 - 11回 問題演習2
 - 12回 問題演習3
 - 13回 問題演習4
 - 14回 問題演習5
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最初のうちは、なかなかまともに動くプログラムが作れずに苦労すると思うが、エラーが起こったときは、そのエラーをきちんと発見し修正することを心がけて、できるだけたくさんプログラムを作成してもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミングII (新JAVA) 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 雅芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

Javaの基本的な制御文の利用方法を復習しつつ、それらの有効な利用方法を再学習する。
また、クラス構造における継承を利用した多様なプログラムを学習する。
プログラムの実用面から、ファイル管理やGUI、スレッドなどの概念も解説する。

教科書 /Textbooks

やさしいJava 第4版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Java概要【JDK】【コンパイル】
- 2回 Javaにおける変数と演算子【変数】【演算子】【型】
- 3回 制御文(条件分岐)【if文】【switch文】
- 4回 制御文(繰り返し処理)【for文】【while文】【ネスト】
- 5回 配列【配列変数】【多次元配列】
- 6回 クラスの基本【クラス】【オブジェクト】
- 7回 クラスの機能【メンバ変数】【メソッド】【オーバーロード】【コンストラクタ】
- 8回 クラスの利用1【クラスライブラリ】【Stringクラス】
- 9回 クラスの利用2【Mathクラス】
- 10回 クラスの継承1【継承】【オーバーライド】
- 11回 クラスの継承2【インターフェース】
- 12回 例外処理【例外】
- 13回 ファイルの入出力処理【ストリーム】
- 14回 GUIプログラムの基礎【アプレット】
- 15回 GUIプログラムの基礎

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ構造【昼】

担当者名 /Instructor 正代 隆義 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

与えられたデータから目的の情報を見つけ出したり、作り出したりするための手続きをアルゴリズムという。アルゴリズムの良さを測る基準の中で最も重要なのは、手続きを実行しはじめてから、終了するまでの計算時間である。コンピュータで高速に問題を計算するために、与えられたデータをアルゴリズムで扱いやすい形で表現した論理表現をデータ構造という。本講義では、代表的なデータ構造について学習し、それぞれのデータ構造を生かしたアルゴリズムについて理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

杉原厚吉著「データ構造とアルゴリズム」共立出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 アルゴリズムと計算時間
- 2 回 データの型と変数、配列、データの物理表現
- 3 回 リスト構造 (ポインタ、線形リスト、二重線形リスト)
- 4 ~ 5 回 木とヒープ (二進木、ヒープソート)
- 6 ~ 7 回 ハッシュ法と辞書
- 8 回 バケツ法 (バケツソート)
- 9 回 計算の複雑さ (公開鍵暗号)
- 10 回 グラフとグラフ探索
- 11 回 キューとスタック
- 12 回 スタックを使ったアルゴリズム (中置記法、逆ポーランド記法)
- 13 回 最短経路問題
- 14 回 最大流と割当て問題
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト 60% 期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備は必要ありませんが、不明な点があれば積極的に質問してください。メールでの質問も随時受け付けます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ解析【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

近年の、所謂情報化社会においては、情報を如何に読み解くかが重要なキーとなっています。特にデータ・数字の情報の読み取りには統計的な知識・技術が欠かせません。また、自ら情報を発信するに際しても、データ・数字を統計的にどう扱うかは重要なテーマとなります。この授業では、データとは何か、どうやって読むかに始まって、実際に統計的手法を用いてデータの情報を記述し、分析して推定を行う段階までを少しずつ丁寧に説明します。

教科書 /Textbooks

使用しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

竹内光悦他著, 実践ワークショップExcel徹底活用 統計データ分析基礎編, 秀和システム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【データ解析の使い方】
- 2回 1変量データの要約【変数】，【尺度】，【度数分布表】，【ヒストグラム】
- 3回 変数の代表値について，2変数の散布図について【平均】，【分散】，【標準偏差】
- 4回 確率の考え方【確率分布】，【事象】，【2項分布】
- 5回 連続的な分布の扱い方【正規分布】，【確率密度関数】，【累積分布関数】
- 6回 標本平均の安定性について【大数の法則】，【中心極限定理】，【標準誤差】
- 7回 母集団の標準偏差が未知の場合の標本平均の評価【信頼区間】，【t分布】
- 8回 統計的仮説検定の考え方【背理法】，【有意】
- 9回 2つのグループ間での検定による比較【t検定】，【F検定】
- 10回 分割表の分析について【 χ^2 乗検定】
- 11回 多くのグループ間での平均値の比較【分散分析】
- 12回 ある変数で他の変数を予測する【回帰分析】
- 13回 様々な分析手法【多変量解析概観】
- 14回 質問受付
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題...50% 試験...50%
宿題と試験の得点に出席率を掛けて最終的な得点を算出します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、256MB以上のUSBメモリを持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データベース【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。本講義では、まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks
 谷尻 かおり『これだけはおさえないデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社（2006年1月）、2,394円（税込）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)
 根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
 増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
 第2回：データベースシステム
 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
 第4回～第5回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
 第10回～第11回：正規化理論【正規化】
 第12回～第14回：データベース設計【データベース設計】
 第15回：まとめ
 （進行状況等により内容は変更になる場合があります。）

成績評価の方法 /Assessment Method
 出席...25% 小テスト・課題...30% 期末試験...45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 特に準備は必要ありませんが、データベースの利用技術よりも、仕組み、設計が中心になります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

システムデザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

情報システムの構築には、コンピュータの専門家である情報システム技術者だけではなく、コンピュータの一般利用者であるエンドユーザの協力が不可欠です。本授業では、システム構築の際に、エンドユーザの視点からシステムを評価し、よりよい提案ができるようにシステムの仕組みや問題点を理解し、改善していくのに必要な知識と技術を習得します。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 システム開発プロセス、課題提示
- 2回 ウェブシステムの仕組み
- 3回 顧客とのヒアリング
- 4回 システム提案書の作成
- 5回 システム提案書のレビュー
- 6回 外部設計書の作成
- 7回 外部設計書のレビュー
- 8回 開発(1)
- 9回 開発(2)
- 10回 システムの品質
- 11回 テスト(1)
- 12回 テスト(2)
- 13回 システム納品(1)
- 14回 システム納品(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する工程の成果物...50% 積極的な授業参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「エンドユーザコンピューティング」や「データ処理」を既に受講した場合は、本授業がより理解しやすくなります。また、実際に作業する内容が多いため、正規の授業以外に多くの時間を必要とする可能性があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 1 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks
 特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	社会福祉の概念【目的概念】【実体概念】【ウェルビーイング】	
2回	生活問題とソーシャルワーク【人間の基本的欲求】【個人と環境との不適合】【社会関係の	主体的側面】
3回	社会福祉の制度・政策と実践・技術【ソーシャルウエルフェア】【ソーシャルワーク】	
4回	社会政策と社会福祉【社会問題】【貧困問題】【生活問題】	
5回	社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分	配】
6回	社会福祉の思想の独自性と重要性【ロールズの正義論】【センの潜在能力理論】	
7回	社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティアケア】【生活の質】	
8回	社会福祉の歴史(イギリス)【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】	
9回	社会福祉の歴史(日本 - 戦前から高度経済成長まで)【救貧事業】【保護事業】【厚生事	業】
10回	社会福祉の歴史(日本 - 福祉元年以降)【福祉見直し論】【日本型福祉社会論】	
11回	福祉改革と日本の動向【社会福祉基礎構造改革】【規制緩和】【格差社会】	
12回	福祉政策の主体と手法【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉社会】【福祉レジーム】	
13回	現代社会の変化と福祉政策【ワーキングプア】【社会的排除】【社会的包摂】	
14回	福祉政策の関連領域【所得政策】【教育政策】【保健医療政策】【住宅政策】【雇用政	策】
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 各授業で配布したレジュメを閉じる専用ファイルを準備すること。前回の授業の復習のためにテスト用紙を配布、回答を求めらるので、参照のために毎回ファイルを持参のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 2 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中にその都度紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉政策の主要な論点と課題①【効率性と公平性、必要と資源】
- 2回 福祉政策の主要な論点と課題②【普遍主義と選別主義】
- 3回 福祉政策の主要な論点と課題③【自立と依存、参加とエンパワーメント】
- 4回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割①
- 5回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割②
- 6回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割③
- 7回 福祉政策の手法と政策決定過程および政策評価
- 8回 福祉供給部門と福祉供給過程①【公私関係、非営利協働】
- 9回 福祉供給部門と福祉供給過程②【再分配、行財政、計画】
- 10回 福祉利用過程【スティグマ、情報の非対称性】
- 11回 福祉政策と教育政策【資格教育】
- 12回 福祉政策と住宅政策【貧困対策、障害・介護と住宅改修】
- 13回 福祉政策と労働政策【貧困対策、障害・高齢者と就労】
- 14回 福祉供給の政策過程と実施過程【供給システムの多元化】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布する講義レジュメ・資料、参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉国家論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心にわが国の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向(どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか?)、②日本の社会保険の特徴(諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか?)。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks
 テキストは指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 - 2回 ガイダンスと概論 授業の進め方、成績評価について説明するので必ず出席してください。あわせて制的扶助の行政組織・財政概要などを説明します。	度枠組みや社会保険・公
第3回 - 4回 公的扶助 生活保護制度の概要(原理・原則、扶助の種類)、実施体制について学びます。ホームレス自立支援施策について解説します。	た最近注目されているホ
第5回 - 8回 年金保険 制度分類、保険料と保険給付について解説し、空洞化・世代間格差・世代内格差・点を考えます。	資金運用管理などの問題
第9回 - 11回 医療保険 制度分類、保険料と保険給付について解説し、高齢者医療、混合診療、医療サービス	スの質などの問題を考え
第12回 - 第15回 福祉国家の展開と類型論 福祉国家はどのように成立したのか、そしてこれから福祉国家はどこへ行くのか。類型論から日本の福祉国家化の特徴を考えます。	

成績評価の方法 /Assessment Method
 期末試験・・・100% 出席・・・次のような加算を行う
 (試験は100点満点、60点以上で合格。概ね40~59点の人に対して出席1回につき2点程度の加算を行い、その結果60点を超えた人は合格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域福祉の理論と方法 1 【昼】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福祉士養成講座編集委員会編（2008）『地域福祉論第4版』中央法規
福祉士養成講座編集委員会編（2009）『地域福祉の理論と方法』中央法規
牧里毎治（2007）『改訂版地域福祉論-住民自治と地域ケア・サービスのシステム化』日本放送出版協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的コード】
- 4～5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯、ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 6回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 7回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 8～9回 コミュニティソーシャルワークの方法【ケアマネジメント】
- 10回 行政と民間の協働1【地域福祉計画、社会福祉協議会、社会福祉法人】
- 11回 ゲストスピーカー
- 12回 行政と民間の協働2【ボランティア活動、民生委員、保護司、福祉ビジネス】
- 13回 ゲストスピーカー
- 14回 地域福祉の推進と福祉教育【福祉教育、在宅サービス】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度30% 期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に指定する参考文献の講読。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域福祉の理論と方法 2 【昼】

担当者名 /Instructor 渡辺 良司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義・演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 社会保障や社会福祉の制度変革が進む中で、地域福祉の推進は、重要な課題となっている。
 授業では、地域福祉の実践現場での動向をもとに、推進に関わる機関、団体、人材の状況を把握し、福祉コミュニティ創造に向けて、住民や専門職が実際にどのような役割を果たしているのかを理解する。また、今後どのような関わりが必要かを考察する。

教科書 /Textbooks
 新・社会福祉士養成講座『地域福祉の理論と方法-地域福祉論』 中央法規出版、2009年3月、2,730円(出版当時)
 (必要に応じてプリント)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 『誰もが安心して生きられる 地域福祉システムを創造する』ミネルヴァ書房
 『北九州市発21世紀の地域づくり』中央法規出版
 『岐路にたつ大都市生涯学習』北樹出版
 『地域を拓いた人たち』北九州市社会福祉協議会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 (【 】 内はキーワード)
 第 1 回～第 2 回 社会福祉協議会の機能と役割【社会福祉協議会】【社会福祉法人】
 第 3 回～第 4 回 地域福祉の推進方法【ネットワーク】【住民参加】【地域組織】【民生委員】
 第 5 回～第 6 回 地域福祉の人材【ボランティア】【住民参加型サービス】【NPO】
 第 7 回 ニーズ把握とコミュニティワーク【ニーズ】【コミュニティワーク】
 第 8 回～第 9 回 相談援助活動【日常生活自立支援事業】【苦情解決】【第三者評価】
 第 10 回 当事者の組織化と自立生活支援【介護予防】【ホームレス支援】
 第 11 回 地域福祉計画の実際【地域福祉活動計画】【地域福祉計画】
 第 12 回 福祉教育の考え方と推進方法【社会福祉協力校】【体験学習】
 第 13 回 地域福祉の財源【共同基金】【地域福祉基金】
 第 14 回～第 15 回 事例研究

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業態度・平常点... 30%、 課題... 20%、 期末試験(レポート)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 受講にあたっては、自分の暮らしてきた町や北九州市の地域福祉の状況について、できるだけ情報収集して授業にのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

産業化をベースとして、近代化が成熟するとともに、人口構造の高齢化が社会現象として多くの課題をもたらすことになった。更には人口減少が始まり、人口転換が急速に進展すると予測されている。このような現状では人口高齢化を単なる社会問題として把握するにとどまらず、社会的・経済的視野に立脚した人間洞察ができるような視点を身につけることが要求される。高齢者に対する支援と介護保険制度 1 では高齢者の生活実態と社会情勢、人口構造、介護需要とともに、介護の概念や対象及び理念、制度・政策の歴史的経緯、介護保険法や老人福祉法等を概説する。さらに、行政組織や民間団体の役割、財政等の理解を促すよう講義を進める予定。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2010年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
 他は講義の中で指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【キーワード】

- 第 1 回～第 2 回 現代社会と人口減少、少子・高齢化問題と必要な政策課題【人口転換】
- 第 3 回～第 5 回 高齢者の生活実態や社会関係及び高齢者の生活支援の課題【生活支援】
- 第 6 回～第 7 回 老人福祉の歴史的経緯【施設・居宅サービス】【ノーマリゼーション】
- 第 8 回～第 9 回 老人福祉の法律と制度【老人福祉】
- 第 10 回～第 11 回 介護保険制度の概要【介護保険、権利擁護】
- 第 12 回～第 14 回 行政組織や民間団体の役割、財政等【行財政、民間活動】
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 70% 授業態度 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障制度における社会福祉の位置づけや基本的制度に関する知識

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【昼】

担当者名 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

人口構造の転換が始まっている。このことは多くの課題をもたらすことになる。高齢者に対する支援と介護保険制度2では、各論として介護保険制度や老人福祉制度等、関連する法制度について講義をする予定。また、介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方及び専門職としての人間観に基づく相談援助、認知症や週末期ケア等について理解を促す予定。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房2010年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
その他は講義の中で指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【キーワード】
- 第1回～第2回 老人福祉制度と関連法【老人福祉】
 - 第3回～第4回 介護保険法と制度【介護保険】
 - 第5回～第6回 介護保険法における組織及び団体【組織及び団体の役割】
 - 第7回～第8回 介護専門職の役割と地域包括支援センター【地域包括】
 - 第9回～第10回 介護予防に関する専門技術及び、相談援助の方法【介護予防】
 - 第11回～第12回 認知症や週末期ケア、高齢者虐待等と権利擁護【介護過程、権利擁護】
 - 第13回～第14回 老人福祉関連分野の活動 - 住宅、環境整備、サービス団体・組織【民間活動】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験70% 授業態度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障制度における社会福祉の位置づけや基本的制度に関する知識

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童福祉論 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

今日の児童福祉問題と子どもを取り巻く社会環境について理解する。子どもとは何か、子どもの特性や子どもを理解する視点を踏まえ、子どものニーズに対応する社会システムについて考察する。
児童福祉の理念としての子どもの権利条約について学ぶ。

教科書 /Textbooks

- 「子どもたちは今」北九州版・子どもの人権レポート編集委員会
- 社会福祉士養成講座「児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度」ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 児童福祉とは、子どものニーズと社会システム 【マズローのヒューマンニーズの階層】
- 2回 子どもの成長・発達 【アタッチメント】 【マザーリング】 【ソーシャルスキル】
- 3回 子どもの歴史と児童福祉の理念 【子ども理解の視点】
- 4回 子どもの権利条約 【能動的権利】 【受動的権利】 【子どもの意見表明権】
- 5回 子どもの権利条約【子どもオンブズパーソン】 【地方自治体子どもの権利条例】
- 6回 子どもの権利条約と児童福祉への影響 【エンゼルプラン】 【次世代育成事業】
- 7回～8回 児童虐待防止と児童相談所 【児童虐待防止法】
- 9回～10回 児童虐待とマルトリートメント 【親権】 【パターナリズム】
- 11回～15回 我国の子どもの権利をめぐる状況と課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布するレジユメを閉じる専用ファイルを準備すること。
社会福祉士関連科目「児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度」と合わせて学習すると総合的理解が得られる。
单元ごとに配布する復習のプリントで自己学習をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度【昼】

専門科目

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

今日、児童と家庭の支援に関する法律・制度が著しく変化している。児童福祉施策では、子どもの福祉を支える家庭や親への支援などの重要性が認識され、社会福祉士養成のための教育課程においても、それらが強調された。本講義では、現代社会における児童家庭福祉問題に対応する児童家庭福祉に関する法制度、サービスについて理解する。また、児童福祉実施機関、児童福祉施設などの種類、目的、機能などは、視聴覚機材などを用いて、その実際が理解しやすいようにしたい。

教科書 /Textbooks

○社会福祉士養成テキストブック『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 児童家庭福祉を支える法制度【児童福祉法】【母子及び寡婦福祉法】
- 第2回 児童家庭福祉にかかわる組織・団体、児童福祉施設の種類と専門職【児童委員】
- 第3回 児童相談所の役割と他機関との連携【児童福祉司】【一時保護】【児童虐待】
- 第4回 児童健全育成と児童厚生施設【児童遊園】【児童館】
- 第5回 母子保健【リプロダクティブ・ヘルス・ライツ】【性的自立】【母体保護法】
- 第6回 障害児の福祉【重症心身障害児】
- 第7回 保育所と幼稚園【幼保二元化】【認定子ども園】
- 第8回 夜間保育所・認可外保育所・学童保育【多様な保育ニーズ】【待機児童】
- 第9回 乳児院と児童養護施設【要養護児童】【児童家庭支援センター】
- 第10回 グループホーム、里親ケア【養育里親】【専門里親】
- 第11回 児童自立支援施設と少年非行【自立援助ホーム】【少年法】
- 第12回 ひとり親家庭と母子生活支援施設【母子指導員】【母子自立支援員】
- 第13回 DV防止法【ドメスティック・バイオレンス】【配偶者暴力相談支援センター】
- 第14回 婦人保護施設・売春防止法【婦人相談員】【要保護女子】【性暴力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業において配布するプリントなどを整理するファイルを準備しておくこと。児童福祉論と合わせて受講すればわかりやすい。単元ごとに配布する復習のプリントで自己学習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者福祉論 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
障害をもつ人の自立と地域生活、施設利用などの問題を取り上げながら、権利保障とは何かについて検討する。また権利侵害の実態を紹介し、政府がつくる権利擁護システムの問題点や課題を整理し、あるべき権利擁護システムを検討する

教科書 /Textbooks
未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
その都度、講義で紹介する

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 受講上の注意と講義の総論
 - 2回 障害概念と障害者①【ICF】
 - 3回 障害概念と障害者②【身体障害、知的障害】
 - 4回 障害概念と障害者③【精神障害、内部障害等】
 - 5回 現代社会と障害者福祉理念①【ノーマライゼーション、インテグレーション】
 - 6回 現代社会と障害者福祉理念② - 理念の影響
 - 7回 現代社会と障害者福祉理念③ - 我が国障害者の生活標準
 - 8回 障害者福祉の法制度①【障害者基本法と障害者計画】
 - 9回 障害者福祉の法制度②【障害者自立支援法】
 - 10回 障害者福祉の法制度③【利用契約】
 - 11回 障害者福祉のサービス体系① - 児童福祉法と障害児サービス体系
 - 12回 障害者福祉のサービス体系② - 身体障害者福祉法とサービス体系
 - 13回 障害者福祉のサービス体系③ - 知的障害者福祉法とサービス体系
 - 14回 障害者福祉のサービス体系④ - 精神保健福祉法とサービス体系
 - 15回 関連法とサービス体系、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
講義レジュメ・資料および参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

障がいのある人の自立を支援する観点から、働く、住まう、余暇を楽しむなど生き生きと暮らすことが可能となるような社会の仕組みが求められてきた。障害者自立支援法がどのような役割を果たしてきたのかを、地域生活、施設利用などでの問題を取り上げながら、以下の点について吟味する。権利保障とは何かについて検討する。また障害をもつ人たちが、地域で生きていくための諸条件を整理し、権利擁護システムを含めた、地域支援システムのあり方を検討する。さらにはこれまでタブー視されてきた障害者の性を取り上げ、社会福祉援助の中にジェンダーや女性保護、性交に矮小化されることのない生と性の視点がどのように位置づいているのかについて考察する。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の諸注意と総論
- 2回 障害者施策の現状と課題① 【自立支援】
- 3回 障害者施策の現状と課題② 【地域生活】
- 4回 障害者施策の現状と課題③ 【ケアマネージメント】
- 5回 権利擁護システム① 【成年後見制度】
- 6回 権利擁護システム② 【地域福祉権利擁護・日常生活支援】
- 7回 権利擁護システム③ 【虐待・不適切な行為とオンブズ活動】
- 8回 障害者福祉実践の到達点と課題① 【労働支援】
- 9回 障害者福祉実践の到達点と課題② 【生活支援】
- 10回 障害者福祉実践の到達点と課題③ 【家族支援】
- 11回 障害者福祉のこれから① 【障害者介護】
- 12回 障害者福祉のこれから② 【施設解体】
- 13回 障害者福祉のこれから③ 【地域生活支援】
- 14回 障害者福祉のこれから④ 【性の支援】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義レジュメ・資料および参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の基盤と専門職 1 【昼】

担当者名 /Instructor 戸丸 洋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

社会サービスの一環としての相談援助は各人の日常生活の延長上にあることを理解する。
 社会福祉士の役割と地域を基盤にした包括的援助関係を理解する。
 専門職と相談援助活動の係わりからその限界と他相談機関との連携を考える。
 乳幼児相談援助理解のため、可能なら保育現場の実習見学と精神保健福祉資格取得情報提供。
 精神障害者相談援助理解のため、可能なら精神科病院見学と精神科福祉士資格取得情報提供。

教科書 /Textbooks

社会福祉援助技術総論 1 中央法規出版 社会福祉士養成講座編集委員

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 社会福祉の懸念と相談援助の基本的な考え方。
- 2 回 社会福祉士の役割と相談援助の限界。
- 3 回 福祉相談援助の行政と民間の専門職とは。
- 4 回 社会福祉専門職の相談援助とその他の援助の関係。
- 5 回 ソーシャルワーカーの形成家庭とその国際定義に至るまで。
- 6 回 ソーシャルワーカーの専門的援助でのコミュニケーションの働き。
- 7 回 ソーシャルワークの価値と倫理。
- 8 回 ソーシャルワーカーの倫理綱領。
- 9 回 相談援助の理念 人権・社会正義・利用者本意・尊厳の保持。
- 10 回 相談援助の理念 自立支援・社会的包摂・ノーマリゼーション
- 11 回 相談援助の中での権利擁護と成年後見制度の役割を考える。
- 12 回 相談援助の形成と発展。
- 13 回 相談援助技術の理論と動向。
- 14 回 相談援助技術の国内外の動向・ジェネラリストについて。
- 15 回 期末試験で各人の理解度を問い、結果を二学期の授業準備の基礎とする。

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度 ... 40% 試験 ... 40% レポート等 ... 20%
 6回以上の欠席者は単位を認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞の活字から世界の中の日本を読み取る。市場等での人間の歴史的な生活の流れから自らの興味・想像・共感を刺激して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の基盤と専門職 2 【昼】

担当者名 /Instructor 戸丸 洋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

相談援助技術体系と懸念の意義について理解する。
 相談援助に係る専門職の懸念と範囲及び専門職倫理について更に理解する。
 相談援助技術と福祉現場のズレと就職の関係を考える。
 社会福祉士国家資格受験の心得と具体的な準備。
 総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解する。

教科書 /Textbooks

社会福祉援助技術総論 1 中央法規出版 社会福祉士養成講座編集委員会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期の重要課題の復習と相談援助に係る専門職概念と範囲。
- 2回 相談援助技術の共通懸念。
- 3回 相談援助技術の体系。
- 4回 相談援助技術の構成内容。
- 5回 相談援助技術の基本原則・原則。
- 6回 直接・間接・関連相談援助技術のつながり。
- 7回 個別相談援助技術の構造と機能。
- 8回 集団相談援助技術の構造と機能。
- 9回 地域相談援助技術の構造と機能。
- 10回 相談援助技術への包括的・総合的視野。
- 11回 相談援助技術展開の記録と評価。
- 12回 マッピング技法やケーススタディ等と相談援助技術への支援ツールの紹介。
- 13回 専門職の価値と倫理そして倫理綱領を再度検討する。
- 14回 専門職倫理とジレンマと社会福祉法調整機能について。
- 15回 期末試験で年間理解度を問い、国試対策不足分の補講を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度 ... 40% 試験 ... 40% レポート等 ... 20%
 6回以上の欠席者は単位を認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ポラ等を通して福祉現場への自主参加。社会福祉原論テキストを復予習する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

低所得者に対する支援と生活保護制度 【昼】

担当者名 藤敷 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

1 「ネットカフェ難民」「派遣切り」「年越し派遣村」など、近年の日本社会では「貧困」が大きな社会問題となっている。しかし「貧困」問題は、最近発生したものではなく、古くから日本社会に存在していた。「貧困」は見ようとしなければ「見えない」のである。
本講義ではまず、「貧困」とは何か。「貧困」の実態を見つめその原因を探ることから始める。

2 日本において、最終的に人々を「貧困」から救うのは生活保護法である。最後のセーフティネットである以上、福祉事務所のケースワーカーのみならず、福祉施設職員や、病院ソーシャルワーカー、ケアマネージャーなど社会福祉に携わるすべての職種が知っておく必要がある重要な社会福祉制度である。他方その生活保護法は現場の福祉事務所できちんと機能していたのであろうか。なぜ北九州市では生活保護を受けられないことによる餓死事件が続発したのであろうか。
本講義では、「貧困」の実態を受けて、生活保護法の仕組みを具体的なケースを通じて学ぶ。その際には、「生活保護法の矛盾」も検討し、「貧困」問題を解決する責任はだれにあるのかを考えていく。

教科書 /Textbooks

低所得者に対する支援と生活保護制度 (弘文堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉六法、格差・貧困と生活保護 (明石書店)、よくわかる公的扶助 (ミネルバ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 貧困・低所得者問題とは
- 2 見えない貧困を見る
- 3 現代貧困の諸相
- 4 福祉国家と公的扶助
- 5 公的扶助の歴史 (イギリス)
- 6 公的扶助の歴史 (日本)
- 7 生活保護制度の原理と種類
- 8 生活保護基準
- 9 保護の機関と費用、被保護者の権利義務、不服申し立てと行政訴訟
- 10 生活保護の実施体制
- 11 生活保護における援助活動
- 12 被保護者の動向と課題
- 13 低所得・貧困層への他の政策
- 14 自立支援プログラム他
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...25% 期末テスト...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

その他詳しい日程は講義中に知らせる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

保健医療サービス【昼】

担当者名 /Instructor 来田 時子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 1. 相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）や保健医療サービスについて理解する。
 2. 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種共同について理解する。

教科書 /Textbooks
 『新・社会福祉士養成講座 17 保健医療サービス』中央法規

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 (【 】はキーワード)
 1回 保健医療サービスの構成要素と戦後の変化【ひと・もの・かね・情報】
 2回 保健医療サービスの今日的課題【医療連携・チーム医療】
 3回 医療法と医療機能類型【医療法・施設機能】
 4回 保健医療政策と医療機能類型【高度専門医療・拠点病院】
 5回 診療報酬と医療機能類型【診療報酬】
 6回 介護保険法とそのサービス【施設サービス・居宅サービス】
 7回 医療ソーシャルワーカーの役割【歴史と業務の枠組み】
 8回 医療ソーシャルワーカーの業務【貧困問題】【心理・社会的援助】
 9回 医療ソーシャルワーカーの業務【退院援助】【社会復帰】
 10回 医療ソーシャルワーカーの業務【地域の組織化】【ソーシャルアクション】
 11回 専門職の役割【患者の権利】【専門職の倫理】
 12回 保健医療サービスの経済的保障【医療保険】【介護保険】【自立支援医療】
 13回 連携の理論と実際【チームケア】【多職種連携】
 14回 地域の社会資源との連携【ネットワーク】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況(小テスト含む)・・・25% 課題・・・25% 期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

権利擁護と成年後見制度【昼】

担当者名 /Instructor 河原 一雅 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

知的障害や精神疾患あるいは認知症等のため判断能力に問題がある人の日常生活を支える仕組みの現状と課題を学ぶ。本人の権利擁護のために介護保険法・障害者自立支援法により提供される福祉サービスや権利侵害から本人の生活を守る日常生活支援事業、成年後見制度などといった財産管理能力を補完する制度等、福祉職に不可欠な法的問題について知識を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

福祉臨床シリーズ編集委員会編「権利擁護と成年後見制度」(弘文堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」(ミネルバ書房編集部編)もしくは同種のもので可

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エピローグ
- 2回 民法1(権利能力と行為能力)
- 3回 民法2(契約の自由とその修正)
- 4回 民法3(親族と扶養)
- 5回 民法4(相続)
- 6回 福祉サービス・措置から契約へ
- 7回 介護保険法の仕組み
- 8回 自立支援法の仕組み
- 9回 成年後見制度1(後見・保佐・補助)
- 10回 成年後見制度2(任意後見)
- 11回 後見人の仕事とその限界
- 12回 日常生活自立支援事業
- 13回 虐待防止
- 14回 あるべき権利擁護
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 期末試験...75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

法律への違和感をなくすため、毎回の講義で各自法律の条文を見てもらうこととなりますので、「社会福祉小六法」を毎回持参していただきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学概論【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 社会心理学、発達心理学、及び臨床心理学の基礎的内容が主要テーマである。まず、人間の社会的行動を、集団における人間関係、自己意識と社会システムの関係などから考察する。次に、ヒトの発達現象における心理学的な捉え方、生涯発達と発達課題、発達における障害について考察する。最後に、心理臨床の観点からパーソナリティ、ストレスと不応、心理的援助を考察する。

教科書 /Textbooks
 適宜、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業の中で、適宜紹介する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第1回 オリエンテーション：本講義の概要について
 - 第2回 心理学の研究方法について【実証主義】【仮説】【有意性】
 - 第3回 社会心理学の基礎理論【原因帰属】【認知的不協和】
 - 第4回 集団における人間関係【リーダーシップ】【集団凝集性】
 - 第5回 自己と社会の関係【大衆社会化】【自分探し】
 - 第6回 発達現象の心理学的な捉え方【遺伝と環境】
 - 第7回 乳児期から児童期の発達理論【共同注意】【言語発達】【学習理論】
 - 第8回 生涯発達と発達課題【発達段階】【アイデンティティ】
 - 第9回 発達における障害①【肢体不自由】【知的障害】【発達障害】
 - 第10回 発達における障害②【アセスメントと発達支援】
 - 第11回 パーソナリティに関する心理学研究の歴史【類型論】【特性論】
 - 第12回 パーソナリティの形成に関する心理学研究の歴史【愛着理論】
 - 第13回 不応の理解と援助①【発生機序】【防衛機制】【不安】
 - 第14回 不応の理解と援助②【心理アセスメント】【ラポール】【傾聴】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平素の学習状況 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 1学期開講の「基礎心理学」と併せて受講されることを薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老年心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 主として知能、記憶・情報処理、パーソナリティ等に関する老年期特有の変化の有無とその要因について、社会関係も視野に入れて説明する。

教科書 /Textbooks
 使用しない。資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義の中で指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
【キーワード】
 第1回 老年期とは—多様性と共通性【個人差、文化・社会の捉え方】
 第2回～第4回 老年期の知能【言語性能力、動作性能力】
 第5回～第7回 老年期の記憶・学習・情報処理【注意力の分散、再認・再生、体制化】
 第8回～第10回 老年期の人格と社会的適応【社会的出来事、発達課題、成熟した人格】
 第11回～第12回 老年期の精神疾患【認知症】
 第13回～第14回 適応・生きがい
 第15回 まとめとして - 老年期と社会問題

成績評価の方法 /Assessment Method
 試験 70% 授業態度 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当する部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ心理学【昼】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

従来、スポーツ心理学は、スポーツ選手の実力発揮を支援する心理学という意味で使われていた(狭義のスポーツ心理学)。しかし近年では、子どもから高齢者まで、すべての人が行う運動・スポーツにおける心理的効果も含まれるようになった(広義のスポーツ心理学)。そこで本講義では、競技力向上のためのメンタルトレーニングや運動・スポーツの心理的恩恵など、様々な領域について学習し、運動・スポーツ場面で心理面を支援する実践力を養うことを目指す。この講義では、教室内での簡単な実習など体験的要素を導入する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 ラポールの形成
 - 3回 競技スポーツの心理学① 【メンタルトレーニング】 【質問紙による自己分析】
 - 4回 競技スポーツの心理学② 【心理的ゾーンによる自己分析】
 - 5回 競技スポーツの心理学③ 【動機づけ】 【目標設定】
 - 6回 競技スポーツの心理学④ 【リラクゼーション】 【集中力】 【イメージ】
 - 7回 競技スポーツの心理学⑤ 【チームビルディング】 【リーダーシップ】
 - 8回 競技スポーツの心理学⑥ 【スポーツ障害】 【食行動異常】 【キャリアアトランジション】
 - 9回 メンタルトレーニングの実践 【スポーツメンタルトレーニング指導士】 【事例検討】
 - 10回 健康スポーツの心理学① 【メンタルヘルス】 【運動・スポーツの心理的恩恵】
 - 11回 健康スポーツの心理学② 【自己概念】 【ボディ・イメージ】 【パーソナリティ】
 - 12回 健康スポーツの心理学③ 【発育発達期】 【心理的特徴】
 - 13回 健康スポーツの心理学④ 【成人期】 【心理的特徴】
 - 14回 健康スポーツの心理学⑤ 【高齢者】 【心理的特徴】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 40% 受講態度... 20% 試験... 40%
(出席が3分の2以下の者は、学期末試験を受けることはできません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回授業で配布するレジュメをよく読み込んでいくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人体の構造と機能及び疾病 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 二六一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

人体の構造と生理についての理解、臨床医学の概要。医療と介護、福祉の連携。医事法制と保険医療などの理解

教科書 /Textbooks

社会福祉養成講座 医学一般

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 医学のあゆみ・概説
- 2回 人体構造と機能(細胞・血液)
- 3回 人体構造と機能(呼吸器・消化器)
- 4回 人体構造と機能(消化器・物質代謝・泌尿器)
- 5回 人体構造と機能(循環器・支持器官)
- 6回 人体構造と機能(内分泌・支持器官)
- 7回 人体構造と機能(神経・感覚器)
- 8回 先天性疾病(ヒトの体ができるまで)
- 9回 感染症1
- 10回 感染症2
- 11回 神経疾患
- 12回 その他の疾患1
- 13回 その他の疾患2
- 14回 その他の疾患3
- 15回 まとめ

* 各授業において適当にビデオも取り入れる。

成績評価の方法 /Assessment Method

1. 平素の授業態度(全欠席して試験のみは認めない)
2. 期末試験(持ち込みなし)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ボランティア活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

ボランティア活動の中身とそれを取りまく社会状況について理解できるようになることを目的とする。また、自分が取り組んでいるボランティア活動について、振り返ることができる能力を培う。
地域ボランティア養成コースの必修である。

教科書 /Textbooks

とくに使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で随時紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「ボランティア活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 ボランティア活動の戦後史
 - 4回～5回 ボランティア活動の現代史
 - 6回～7回 ボランティア活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 ボランティア活動の争点①
 - 11回～12回 ボランティア活動の争点②
 - 13回～14回 ボランティア活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では、テーマに即してレジュメや資料を配布する。VTRなどの視聴覚教材を用いることがある。受講にあたっては、毎回出席することが前提である。レジュメを読みながら、講師の話をしっかりメモすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ボランティア活動実践論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 ボランティア活動の本質をどう考えるか、授業の中で私たちがなりたい言葉をつかむことを目標とする。適宜ゲストを招きながら、課題、思い、展望などを共有し、議論をしながら進めていく。地域ボランティア養成コースの必修である。

教科書 /Textbooks
 とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～3回 ボランティア活動論の振り返り①
- 4回～5回 ボランティア活動論の振り返り②
- 6回～7回 ボランティア活動の争点
- 8回 中間まとめ
- 9回～14回 適宜ゲストを呼んで課題等を共有する(予定)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 受講者にも、ボランティア活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ指導論【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 君原 健二 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

スポーツの考え方を明らかにし、スポーツを文化としてとらえることの重要性について理解を深め、スポーツ指導者として求められる役割などを学習する。初めてスポーツに出会う子供をはじめ、どの年代からでも生涯を通じて楽しむ方法や機会を提供するとともに、人間としてのマナーやエチケットなどを学習する。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツ技術・戦術以外のスポーツ文化的内容(ルール、マナー、エチケット)
- 2回 21世紀のスポーツ指導者像とは
- 3回 スポーツ指導の心構え
- 4回 競技者育成プログラムの理念とは
- 5回 救急処置
- 6回 指導計画の立て方
- 7回 スポーツ活動と安全管理
- 8回 指導者の法的責任
- 9回 スポーツと人権
- 10回 スポーツ活動中に多いけがや病気
- 11回 新たなスポーツ環境とスポーツ指導者
- 12回 これからのスポーツ振興の方向性
- 13回 部活動とスポーツ指導者
- 14回 日本武道の必要性
- 15回 地域スポーツクラブとスポーツ指導

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 50% 受講態度... 20% レポート... 30%
(遅刻は認めない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者スポーツ指導論【昼】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

近年、障害と共に生きる者が増加し、生き方への支援のあり方が課題となっている。その一助を担う障害者スポーツは、受容体験をもたらすだけでなく、自己の可能性へ挑戦する機会を提供する場となる。本講義では、特に「障害とはなにか」「障害者スポーツの恩恵」「各障害におけるスポーツ」を軸に、障害者スポーツの意義や方法論を学習する。この講義では、自分で考える課題や他者との意見交換を行い発表するという体験的要素を導入する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 ガイダンス【アダプテッド・スポーツ】
 - 2回 障害とはなにか？【障害の定義】【バリア】
 - 3回 障害者スポーツ発展の歴史 【ノーマライゼーション】【インクルージョン】
 - 4回 障害者スポーツの身体的恩恵 【廃用症候群】【身体機能の向上】
 - 5回 障害者スポーツの心理・社会的恩恵① 【障害受容】【QOL】
 - 6回 障害者スポーツの心理・社会的恩恵② 【ソーシャル・サポート】
 - 7回 セラピューティック・レクリエーション 【余暇活用能力モデル】
 - 8回 障害者スポーツ指導員としての心構え 【指導者資格】【ホスピタリティ】
 - 9回 視覚・聴覚障害とスポーツ 【障害の種類や指導上の留意点】を学ぶ
 - 10回 肢体障害とスポーツ - 切断、脳性マヒ - 【障害の種類や指導上の留意点】を学ぶ
 - 11回 肢体障害とスポーツ - 脊髄損傷 - 【障害の種類や指導上の留意点】を学ぶ
 - 12回 知的障害・自閉症とスポーツ 【障害の種類や指導上の留意点】を学ぶ
 - 13回 障害者トップアスリート - パラリンピックの理解 - 【国際大会】【JPC】
 - 14回 障害者トップアスリート - サポートの実践 - 【メンタルトレーニング】【栄養】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 40% 受講態度... 20% 試験... 40%
(出席が3分の2以下の者は、学期末試験を受けることはできません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回授業で配布するレジュメをよく読み込んでいくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア指導論【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

スポーツ活動や身体運動を通して、子供から高齢者まで様々な活動を支援していく。スポーツ教室とスポーツ大会の目的の違いなどを理解すると同時に、スポーツ参加や選考など学生自身がスポーツ種目の企画、立案、実施を通して学んでいく。

例えば、開会式から閉会式までを考え実施していくことや同時に人間的な幅広さをも学んでいく。また、総合型スポーツクラブである北九州スポーツクラブACEの取り組み行事などに積極的に参加し、市民のスポーツ活動の未来を考える。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツボランティアとは
- 2回 スポーツボランティアの目的
- 3回 地域スポーツを考える(1)
- 4回 地域スポーツを考える(2)
- 5回 スポーツイベントの運営(1)
- 6回 スポーツイベントの運営(2)
- 7回 スポーツイベントの計画と実践(1)
- 8回 スポーツイベントの計画と実践(2)
- 9回 中高年者とスポーツ(1)
- 10回 中高年者とスポーツ(2)
- 11回 女性とスポーツ
- 12回 小学生のスポーツ活動
- 13回 小学生のスポーツ実践
- 14回 障がい者スポーツの支援(1)
- 15回 障がい者スポーツの支援(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% 受講態度...20% レポート...30%
(遅刻は認めない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア各論【昼】

担当者名 /Instructor 上村 英樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

講義では、スポーツボランティアとして、子供から高齢者までのスポーツ活動を支援していく上で必要となる様々な知識を学んでいく。
また、北九州市総合型地域スポーツクラブ「NPO法人北九州スポーツクラブACE」のスポーツイベントの企画、立案、運営に参加することで、実体験を通して実践力を身につけていく。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。授業時に随時資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で随時紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 スポーツボランティアのタイプ【分類】
- 3回 スポーツボランティアの現状と事例【現状把握】
- 4回 スポーツボランティアの公的役割について【社会的役割】
- 5回 総合型地域スポーツクラブの現状と課題【総合型地域スポーツクラブ】
- 6回 スポーツイベントの企画・立案【企画力】
- 7回 各世代(ジュニア～シニア)のスポーツ【各世代】
- 8回 ジュニアスポーツ計画の作成①【ジュニアスポーツ】
- 9回 ジュニアスポーツ計画の作成②【ジュニアスポーツ】
- 10回 シニア体カアップ事業計画の作成①【シニア】
- 11回 シニア体カアップ事業計画の作成②【シニア】
- 12回 市民参加型のスポーツイベント計画の作成①【市民参加】
- 13回 市民参加型のスポーツイベント計画の作成②【市民参加】
- 14回 市民参加型のスポーツイベント計画の作成③【市民参加】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 50% 受講態度... 20% レポート... 30%
(遅刻は認めない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニティスポーツ論【昼】

担当者名 /Instructor 中西 純司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会における生涯スポーツ，すなわち地域スポーツの振興方策についての基本的な理解を促すとともに，具体的なスポーツ事業の計画方法や組織の在り方について，スポーツ経営管理学的な観点から学習する。また，地域住民の参加（参画）とスポーツ（文化）行政の協働による地域スポーツ経営の構造と過程についても理解を深める。

教科書 /Textbooks

総合型地域スポーツクラブ育成協議会編著『総合型地域スポーツクラブマネジャー養成テキスト<普及版>』（ぎょうせい，2005）
 （資料等については，必要に応じて，配布する予定である）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本体育・スポーツ経営学会編「テキスト総合型地域スポーツクラブ」（大修館書店，2002）
 黒須充・水上博司編著「ジグソーパズルで考える総合型地域スポーツクラブ」（大修館書店，2002）
 山口泰雄著「地域を変えた総合型地域スポーツクラブ」（大修館書店，2006）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- （【 】内はキーワード）
1. ヨーロッパのスポーツクラブに学ぶ：クラブの原点【Club】【クラブ】【倶楽部】
 2. わが国の地域スポーツの現状と問題点の提起【地域スポーツ経営】【地域コミュニティ】
 - 3~4. 地域スポーツ経営の構造と対象及び領域【地域スポーツ経営】【スポーツ事業】【資源獲得】
 - 5~6. スポーツ（文化）行政における協働概念とその仕組み【スポーツ行政】【住民組織】【民間団体】
 - 7~8. 地域住民主導型の地域スポーツ経営とは？【住民組織づくり】【地域住民組織】【総合型地域スポーツクラブ構想と市民参加型まちづくり】
 - 9~10. 地域スポーツ振興の基盤と事例研究【総合型地域スポーツクラブの育成】【学校開放】【公共スポーツ施設】【コミュニティスクール】【学校部活動】【学校体育】
 - 11~12. 地域コミュニティを創る「総合型地域スポーツクラブ」のマネジメント【自主運営】【運営委員会組織】【受益者負担】【自主財源】
 13. 地域スポーツ指導者の養成【体育指導委員】【有資格指導者】【(財)日本体育協会】
 14. わが国のスポーツ振興基本計画の策定とその改定【スポーツ振興基本計画】
 15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験，平素の学習状況及び授業態度の総合点で評価する。平素の学習状況と授業態度の合計の割合は4割程度の予定。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者スポーツ各論【昼】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

障害者スポーツ指導員とは、障害者が体を鍛えたり、運動・スポーツを楽しむ支援を行ったりするために、障害に応じた適切な指導をする専門家である。本講義では、障害者スポーツ指導員に必要な各論について論じる。特に、全国障害者スポーツ大会の概要やクラス分け、競技に使用される補装具と基礎知識、ドーピング問題など幅広く学習する。この講義では、自分で考える課題や他者との意見交換を行い、まとめて発表するという体験的要素を導入する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 肢体障害とは【脊髄損傷】【切断】
 - 3回 視覚障害とは
 - 4回 聴覚障害とは
 - 5回 脳血管障害・内部障害とは【心臓・腎臓・呼吸器】
 - 6回 知的発達障害とは【ダウン症】【自閉症】
 - 7回 精神障害とは【統合失調症】【うつ病】
 - 8回～9回 アダプテッド・スポーツの理解 - ルールと道具 -
 - 10回 全国障害者スポーツ大会の歴史と目的
 - 11回 全国障害者スポーツ大会の選手団とコーチのあり方
 - 12回～13回 全国障害者スポーツ大会 - 競技内容とクラス分け -
 - 14回 国内大会・国際大会におけるドーピングコントロール
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 40% 受講態度... 20% 試験... 40%
 (出席が3分の2以下の者は、学期末試験を受けることはできません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回授業で配布するレジュメをよく読み込んでいくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査の基礎【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

適切な方法論にそった社会調査とその分析結果は、社会に生きる人々の全体的な意識や問題意識を把握することができる。本講義では、社会調査の基礎について学ぶことを目的とする。社会調査についての基礎的な概念の理解や、調査にあたって適切な方法論を選択するための問題設定について学びながら、実際の資料を用いての分析も試みる。

教科書 /Textbooks

大谷信介(共編),1999,『社会調査へのアプローチ：論理と方法』 ミネルヴァ書房
佐藤郁也,2002,『フィールドワークの技法』 新曜社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

安田三郎,1960,『社会調査ハンドブック』 有斐閣
Denzin, N. K. & Lincoln, Y. S. (共編),2006,『質的研究ハンドブック第1巻・第2巻』 北大路書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会調査とは何か
- 2-5回 量的調査—アンケート調査の実際 【アンケート調査】 【測定尺度】 【調査統計】
- 6回 度数分布【階級】 【相対度数分布】
- 7-8回 分散と標準偏差【平均】 【分散】 【信頼区間】
- 9回 カイ2乗検定【帰無仮説】 【有意水準】
- 10回 t検定【母平均の検定】 【対応あり・なし】
- 11回 分散分析【分散分析表】 【F分布】 【主効果】 【交互作用】
- 12回 相関関係【単相関係数の推定・検定】
- 13回 質的調査—フィールドワークとは何か【フィールドワーク】
- 14回 フィールドワークの方法論【参与観察】 【インタビュー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・・・30% 課題・・・30% 期末試験・・・40%
5回以上の欠席があった場合は、課題提出及び期末試験の受験資格を失うものとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

耳慣れない言葉が毎回出てきますので、都度習熟の上で次の講義に望んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 1 【昼】

担当者名 /Instructor 藤藪 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが目指す社会福祉の仕事としては、生活保護のケースワーカー、児童福祉司、児童養護施設職員、高齢者福祉施設職員、ケアマネージャー、病院ソーシャルワーカーなどが考えられる。

そこで実践される社会福祉援助技術のほとんどが個別援助技術であるケースワークである。

しかし、ケースワークとは「人々とその環境との間に、個々別々に意識的にもたらされる調整を通じて、人格の発達をはかる諸過程（リッチモンド）」と定義されるように、漠然としていてイメージを掴みにくく、書籍で技法を学ぶだけでは不十分である。

本講座では、具体的な事例演習を通じて、ケースワーク、個別援助の在り方を考えていく。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて講義開始時に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ケースワークとは何か
- 2 ケースワークの原則
- 3 ケースワークを必要とする人々とは
- 4 ケースワークの実践モデル
- 5 ケースワークのアプローチ
- 6～8 ケースワークの諸過程
- 9～10 面接技法
- 11～14 事例演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...25% 期末テスト...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

その他具体的な日程は、講義中に知らせる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【昼】

担当者名 /Instructor 松川 素子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 ソーシャルグループワークは、グループのメンバーの相互作用やプログラム活動を通してメンバー1人ひとりが成長し、問題を解決できるように援助する実践である。グループワークの歴史、変遷、原則、具体的な展開過程と必要な技術について理解し、演習によって集団の力動を体験しながら実践的な援助技術の習得を目指す。

教科書 /Textbooks
 授業時にレジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 「グループワーク」大利一雄 劉草書房
 「グループワークの専門技術」黒木保博・横山穰他 中央法規出版
 「グループワーク論」大塚達雄・硯川真旬・黒木保博
 「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法II」中央法規出版

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 集団のもつ意味とその役割
 - 3回 人間の発達における集団の意義と役割
 - 4回 リーダーシップの構造と機能【リーダーシップ】
 - 5回 集団のもつ力【グループダイナミクス】
 - 6回 グループワークの概念と定義
 - 7回 グループの発達
 - 8回 グループワークの実際(視聴覚教材を用いて)
 - 9回 グループワークの展開過程1
 - 10回 グループワークを企画しよう
 - 11回 グループワークの展開過程2
 - 12回 グループワークの展開過程3
 - 13回 グループにおける葛藤解決
 - 14回 ソーシャルワーカーの自己活用
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業態度... 50 % 期末試験... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法3 【昼】

担当者名 藤田 博久 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

- 次の4つの狙いにより授業を構成する。
1. 構造改革、貧困と格差の拡大、分権改革を軸とする関連政策動向（大状況）の分析を行う。
 2. 社会問題、政策主体、社会運動の視座から、技術論の前提となる地域社会・地域福祉の現状と課題についての認識を深める。
 3. コミュニティワーク（コミュニティ・オーガニゼーション）の全体像について理解を深める。
 4. 調査、計画、組織化に係る技術と事例について学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献として、調査報告書、計画書、実践報告書の抜粋資料を必要に応じて配布・紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 論考の基本【社会福祉の3元構造論】【ダイナミズム】【原理・原則論】
 - 2回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ【地域自治】【自治基本条例】
 - 3回 ローカルマニフェスト【地方自治】【住民参加の手法】
 - 4回 地域福祉の計画(事例)【住民組織化活動】
 - 5回 計画づくりについての基本的考え方【主体形成】
 - 6回 コミュニティ・オーガニゼーションの概念と原理【構造的な理解】
 - 7回 コミュニティ・オーガニゼーションの過程【地域診断】【プラン・ドウ・シー】
 - 8回 コミュニティ・オーガニゼーションの過程【ソーシャル・アクション】
 - 9回 マレー・Gロスの「コミュニティ・オーガニゼーション」【組織化13原則】
 - 10回 マレー・Gロスの「コミュニティ・オーガニゼーション」【専門ワーカーの役割】
 - 11回 地域福祉調査の技術(基本事項)【調査の設計】【エンパワーメント】
 - 12回 地域福祉計画策定の技術(基本事項)【プロセスゴール】
 - 13回 関連領域の技術【傾聴】【オルグ】
 - 14回 小地域福祉活動(事例)【地域特性】【住民の流儀】【ネットワーク】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメを事前に読むこと(全体像を把握することが重要)。講義のメモを丹念にとること。不明な点などについては質問すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉行財政と福祉計画【昼】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向たて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks
 社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規（2009年3月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版（2009年4月）

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 福祉行財政と福祉計画I【福祉制度】
 - 2回 福祉行財政と福祉計画II【戦後社会福祉制度】
 - 3回 福祉行政I【行政の骨格】【社会福祉と法制度】
 - 4回 福祉行政II【福祉行政の組織】【社会福祉基礎構造】
 - 5回 福祉財政I【財政理論】【公共財】
 - 6回 福祉財政II【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
 - 7回 福祉財政III【地方自治体の財政と民生費の動向】
 - 8回 福祉行政の組織・団体と専門職の役割【相談過程と体制】【地域相談システム】
 - 9回 福祉行財政まとめ
 - 10回 福祉計画の目的と意義【福祉援助】
 - 11回 福祉計画の論理と技法I【福祉計画の視点と過程】
 - 12回 福祉計画の論理と技法II【ニーズ把握】【評価】【住民参加】
 - 13回 福祉計画の実際I【老人福祉計画】【介護保険事業計画】
 - 14回 福祉計画の実際II【障害者・生涯福祉計画】【次世代育成支援行動計画】【地域福祉計画】
 - 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況（小テスト・中間まとめ含む）... 60% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 テキストを講義前に読んでおくこと。また、新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政についての現状認識を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【昼】

担当者名 /Instructor 藤村 昌憲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

福祉分野において「経営」という言葉が用いられるようになったのは、介護保険制度が施行された以降のことである。このことは、それまでの、措置制度における運営から、それぞれの事業所が自立した経営を行なうことを意味している。この授業では福祉サービス事業所の現状を把握し、今後の福祉サービスの経営について理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

新・社会福祉士養成講座「福祉サービスの組織と経営」(2009年3月)中央法規

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスの経営の現状【公益性】【営利性】
- 2回 福祉サービスにかかわる組織や団体①【社会福祉法人】【公益事業】【収益事業】
- 3回 福祉サービスにかかわる組織や団体②【特定非営利活動法人】
- 4回 福祉サービスにかかわる組織や団体③【コンプライアンス】【ガバナンス】【定款】
- 5回 組織と経営の基礎理論【経営理念】【PDCA】
- 6回 福祉サービスの財源【措置費】【補助金】【介護報酬等】
- 7回 福祉サービスの経営の実際①【経営戦略】【事業計画】
- 8回 福祉サービスの経営の実際②【人事管理】【労務管理】
- 9回 福祉サービスの経営の実際③【財務管理】【財務諸表】【営利性と非営利性】
- 10回 サービス管理における基準【運営基準】【人員基準】【設備基準】
- 11回 サービス管理の手法【QC活動】【リスクマネジメント】【苦情対応】
- 12回 サービスの質の評価【自己評価】【第三者評価】
- 13回 労働環境の整備【キャリアパス】【人事考課】
- 14回 安定した雇用の確保【介護職離れ】【EPA】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...20% 課題 ...20% 期末試験 ...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

多種多様な社会福祉サービスの根拠法と、それぞれのサービスがどのような財源で運営されているかを理解してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障【昼】

担当者名 /Instructor 濱畑 芳和 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「格差社会」が社会の関心事となり、その是正が国政運営上の大きな焦点となっています。これまで「見直し」の対象とされてきた医療・年金・介護などの社会保障制度は、どんな理念によって形成され、どんな制度構築と運用がなされているのでしょうか。この講義では、わたしたちの生活を支える社会保障の理念と制度の現状について学び、人権を基礎とした社会保障のあり方をいっしょに考えていきたいと思います。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代社会保障論』里見賢治著 (高菅出版、2007年)
- 『社会保障と社会改革』真田是著 (かもがわ出版、2005年)
- 『社会保障の市場化・営利化』横山寿一著 (新日本出版社、2003年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回～第 5回 社会保障の生成と変遷
- 第 6回～第 10回 社会保障の各制度の概要 (公的扶助、年金、医療、介護、社会福祉等)
- 第 11回～第 15回 社会保障の展望

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート...70% 小レポート等の平常点...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り出席し、社会保障をめぐる現状と課題について、講義を踏まえてともに考え、論議することを期待します。予習は、必要ありません。復習については、講義時に指示します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から55年体制の成立（1955）までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『桂太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、「文化」という言葉を、ごく日常的に使う。「日本文化」「アメリカ文化」「中国文化」から、「若者文化」「大学文化」「会社文化」まで・・・何でも「文化」であり、どこにも「文化」がある、といったありさまである。そして私達はしばしば、「文化」と名づけられたものは、人間にとって良きものである、というイメージをいだきがちである。しかし、人間は「文化」という御旗をかかげて、互いに諍い、排除しあい、また殺しあうことすらある。「文化」とは、何か？ 本講義では、「文化」の否定的側面にも向き合いながら、人間にとっての「文化」について検討したい。 キーワード 【差異】【ことば】【他者】【アイデンティティ】【国民国家】

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。参考文献は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 「文化」とは何か？
- 1回 「文化」って、何でしょう？
 - 2回 「文化」という言葉に何を託そうとしてきたか：「文化」という概念の変容
 - 3回 「文化」を語る時代・近代
 - 4回 「文化」の発見：博物館という装置から
 - 5回 「文化」が違う、とはどういうことか：文化相対主義から
 - 6回 語られるものとしての「文化」
 - 7回 「文化」の学はいかに可能か？
- 第二部 語られる<沖縄>・語る<沖縄>：文化の政治性を問うために
- 8回 <沖縄>という場所と近代
 - 9回 <沖縄>の「文化」への視線：「日琉同祖」という物語
 - 10回 「詩の国・夢の国」という物語
 - 11回 「国語」と沖縄の桎梏
 - 12回 沖縄方言論争と<沖縄>の「文化」の位置
 - 13回 抗争する「文化」というアリーナ：「文化と政治」へ
 - 14回 まとめ
 - 15回 質問日

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポート... 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ことばの科学【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：ことばの不思議
- 第2回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第3回 連濁
- 第4回 鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 数量詞
- 第11回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第12回 日本語と英語の受動態
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業中の態度...10% 課題...25% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 問題提起、戦争の定義の難しさ
- 5回～6回 平和の定義、積極平和論
- 7回～8回 絶対平和主義(非暴力主義として)
- 9回～10回 絶対平和主義(反戦主義、日本の平和主義)
- 11回～13回 正戦論の登場
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの近代に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【官僚制】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【物象化】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【分業体制】
- 6回 生活世界論のはじまり(1) 近代科学と現象学
- 7回 生活世界論のはじまり(2) フッサールの近代批判
- 8回 生活世界論のひろがり(1) アーレント、人と思想
- 9回 生活世界論のひろがり(2) アーレントの近代批判
- 10回 公私の区別とその起源(1) 古代ギリシャ概説
- 11回 公私の区別とその起源(2) 古代ギリシャにおける政治
- 12回 宗教の私事性と公的領域(1) 宗教弾圧と異端審問
- 13回 宗教の私事性と公的領域(2) 社会との確執
- 14回 宗教の私事性と公的領域(3) 信仰とプライバシー
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 課題...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容はハードだが、一年生向けの科目であることを考慮に入れ、分かりやすい解説に努めたい。聴講にあたっては、高校世界史の教科書を簡単に見直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的な視点からとらえながら、日々の生活を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【共同体感覚】
 - 3回 ストレスマネジメントとは。ストレスの概念を知る。【ストレスコーピング】
 - 4回 自分のストレスに気づく 【セルフカウンセリング】
 - 5回 ストレス対処法を習得する【心理療法】
 - 6回から11回 心の健康法とその主要理論 【積極的傾聴】
 リラクゼーションの視点から ・ 認知療法的視点から
 遊び・アートの視点から ・ 対人関係の視点から
 - 12回から13回 発達障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の運用について。青年期の発達課題の視点から。【同一性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 出席...40% 受講の姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス(心の健康)を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な人格を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
 - 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【とらわれ】
 - 3回～5回 人間の発達と自己形成【エリクソンの発達理論】
 - 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
 - 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
 - 11回～12回 ライフスタイルについて。ライフスタイルとは。ライフスタイル診断。【アドラー】
 - 13回～14回 ライフプランについて(仕事と遊びの心理学)。生活分析カウンセリング
キャリアプラン 【自然】【遊び】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 授業の出席...40% 授業参加の態度・姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の身体とのつきあい方を身につけ、心身ともに健康なライフスタイルの維持・獲得に向けて、理論の学習と実習を行う。なお、実習では、既存のルールにとらわれない誰でも楽しむことのできる運動を取り入れ、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 (講義) 運動と身体の健康【生活習慣病】【運動基準・指針】
- 3回 (実習) ウォーキングと至適運動強度
- 4回 (講義) 運動と心の健康【ストレス社会】【コーピング】
- 5回 (実習) コミュニケーションを楽しむ(1)(ふうせんバレー、ソフトバレー)
- 6回 (実習) コミュニケーションを楽しむ(2)(ふうせんバレー、ソフトバレー)
- 7回 (講義) 運動の継続化を目指して【行動変容】
- 8回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習(1)
- 9回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習(2)
- 10回 (実習) 子どもが楽しめる運動(レクリエーション)
- 11回 (実習) 中高年が楽しめる運動(ルールを変えたスポーツ)
- 12回 (実習) 高齢者が楽しめる運動(ストレッチ、頭とからだの体操)
- 13回 (講義) 健康でステキな人生をおくるために(1)
- 14回 (講義) 健康でステキな人生をおくるために(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

現代において生命科学は広く社会に浸透・貢献しているとともに、遺伝子操作や生命操作等、生命倫理に新たな問題を投げかけている。本講では「生命科学と現代社会」をテーマとし、生命科学についての基礎教養を身につけるとともに、研究をとりまく社会や文化背景についての知識を身につけ、将来に向けた研究のあり方・考え方を学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東京大学生命科学教科書編集委員会『文系のための生命科学入門』羊土社2008年、福岡伸一『生物と無生物のあいだ』講談社2007年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 私たちの生活と遺伝子【遺伝】、【遺伝子】、【DNA】
 - 2回 生物の基本単位【細胞】、【核】
 - 3回 生命の誕生【ウイルス】、【DNA】、【進化】
 - 4回 遺伝子と染色体【細胞分裂】、【遺伝】、【ゲノム】
 - 5回 遺伝子の発見と研究の歴史(1)【DNA】、【RNA】、【タンパク質】
 - 6回 遺伝子の発見と研究の歴史(2)【転写】、【翻訳】
 - 7回 遺伝子操作の原理【遺伝子操作】
 - 8回 遺伝子と生命操作【ES細胞】、【iPS細胞】
 - 9回 医療分野における貢献(1)【がん】、【免疫】
 - 10回 医療分野における貢献(2)【生活習慣病】、【老化】
 - 11回 遺伝子と個人情報【DNA鑑定】、【遺伝子診断】
 - 12回 産業分野における貢献【遺伝子組換え作物】
 - 13回 生命観と生命科学研究【クローン胚】、【倫理】
 - 14回 娯楽作品にみる生命科学【映画】、【小説】、【クローン人間】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校生物を履修していない者は関連する項目について教科書や参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

心理学・心理士の立場から、発達障害リスク児への地域支援について考える。発達障害リスク児の早期スクリーニングとその後の療育的支援・就学移行支援について、行政・医療・教育・福祉・心理などの専門家と子ども本人やその家族が一緒になって地域支援体制を整えてきた具体例を参考に、発達障害リスク児に対する乳児期から小学校への移行支援について“地域で支える”地域連携の視点も踏まえて検討する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大神英裕(2008)『発達障害の早期支援 研究と実践を紡ぐ新しい地域連携』ミネルヴァ書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : オリエンテーション
- 第2回 : 早期幼児特別支援教育を巡る施策と研究の動向
- 第3回 : 乳幼児健診事業と心理・発達アセスメント(1)
- 第4回 : 乳幼児健診事業と心理・発達アセスメント(2)
- 第5回 : 乳幼児期コミュニケーション行動の定型発達過程(1)
- 第6回 : 乳幼児期コミュニケーション行動の定型発達過程(2)
- 第7回 : 発達障害リスク児の早期スクリーニング(1)
- 第8回 : 発達障害リスク児の早期スクリーニング(2)
- 第9回 : 発達障害リスク児の早期支援(1)
- 第10回 : 発達障害リスク児の早期支援(2)
- 第11回 : 発達障害リスク児の早期支援(3)
- 第12回 : 小学校への移行支援(1)
- 第13回 : 小学校への移行支援(2)
- 第14回 : 移行支援における地域連携の重要性と課題
- 第15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植、着床前診断、中絶といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)、○平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)、○川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版](有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは何か ~ 本講義の構成と概説
 第2回~第8回 「正義」の応用問題
 ~ 生命倫理と法【安楽死・尊厳死】【着床前診断】【中絶】【脳死・臓器移植】
 第9回~第13回 「現代正義論」【ロールズ】【ノジック】【共同体主義】【裁判員制度】
 第14回~第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障がい学【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定でいる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【夜】

担当者名 /Instructor
山本 光英 / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡 邦信 / 法律学科, 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
落合 俊行 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「個人と国家との関係」(落合)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
 1980年代後半以降、いわゆる「ニュー・カマーズ」とよばれる外国人労働者の流入が顕著になってきた。さらに、近年、その定住化の進展とともに、日本人(社会)と彼ら/彼女ら(の社会)との共生関係の構築が課題となってきた。こうした課題について考える基礎知識を提供する。
 授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
 ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察を加えたい。なお、民族関係論の基礎知識とともに、グローバルな現象をローカルな場(地域)において実証的に把握していく方法についても習得してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの紹介【グローバル化】、【エスニシティ】
- 2回 グローバル化の進展【国際労働力移動】
- 3回 出入国管理について【外国人登録】、【出入国管理】
- 4～5回 エスニシティに関する理論【道具主義】、【原初主義】、【分断労働市場】、【オリエンタリズム】
- 6～7回 日本の近代化と在日韓国・朝鮮人 - 歴史的把握【韓国併合】【植民地政策】
- 8～9回 在日韓国・朝鮮人と教育・職業【教育達成】、【社会移動】
- 10～11回 在日韓国・朝鮮人と日本の地域社会【生活構造】【生活史】
- 12～13回 日系ブラジル人と日本社会【顔の見えない定住化】、【非正規雇用】
- 14～15回 国家、自治体、NGOの役割【自治体の国際化施策】、【協働と対抗的相補性】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【夜】

担当者名
/Instructor

前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
										○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この科目では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを適宜配布するか、ホームページからのダウンロードを指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。
- 1回 グローバル化とは何か(定義、諸説、歴史)
 - 2～3回 日本・米国経済のグローバル化 【ブラザ合意】 【FTA】
 - 4～6回 EU経済とグローバル化 【ユーロ】 【安定成長協定】
 - 7～8回 アジア経済とグローバル化 【WTO】 【技術移転】
 - 9～10回 企業の国際的活動とグローバル化 【多国籍企業】 【直接投資】 【国際経営比較】
 - 11～13回 金融規制緩和とグローバル化 【証券化】 【為替制度】
 - 14回 グローバル化の展望と世界経済への影響 【貧富の差】 【経済発展】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布されるプリントの予習復習を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣 2006年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○小林道彦『日本評伝選・桂太郎』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 西南戦争
- 第3回 日清戦争
- 第4回 日露戦争
- 第5回 第一次世界大戦とシベリア出兵
- 第6回 山東出兵(1)
- 第7回 山東出兵(2)
- 第8回 満州事変(1)
- 第9回 満州事変(2)
- 第10回 日中戦争(1)
- 第12回 日中戦争(2)
- 第13回 太平洋戦争(1)
- 第14回 太平洋戦争(2)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に最低限高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

旧憲法下最長の政権担当者であり、日英同盟（1902）、日露戦争（1904 - 05）、韓国併合（1910）を行った桂太郎の生涯（1847 - 1913）を中心に、幕末から大正政変までの明治の政治史を概説します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『日本評伝選・桂太郎』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○伊藤之雄『日本評伝選・明治天皇』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 明治維新と桂太郎
- 第3回 ドイツ留学と陸軍の建設
- 第4回 日清戦争への道
- 第5回 政治への目覚め（陸相時代）
- 第6回 伊藤博文との対決（最初の組閣）
- 第7回 日英同盟と日露戦争
- 第8回 国家目標の模索
- 第9回 桂園体制
- 第10回 原敬との駆引き（2回目の組閣）
- 第12回 現状打破への衝動
- 第13回 明治という時代の終わり - 大正政変
- 第14回 桂太郎 - 明治国家の光と影
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史【夜】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代史の通史的な理解を前提に、私たちの日常生活の歴史を、「都市と農村」という問題系から検討することを目的とする。特に資本主義の仕組みが日常生活を取り込み、消費中心の都市生活が進展する一方で、農村の衰微が問題になった1930年代の日本を舞台に講義する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。必要な資料はプリントで配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 「東京が攻めてくる」 【郊外化】
- 第一部 「モダン都市」という暮らし
- 2回 1、第三の空間・「街頭」という生活空間 【盛り場】
- 3回 2、「モボ」と「モガ」という仮面 【銀座】 【新宿】
- 4回 3、「スピード」という価値 【自動車】 【内燃機関】
- 5回 4、「見る」ということと欲望 【博覧会】 【勤工場】
- 6回 5、新たな欲望の装置：デパート 【陳列販売】 【百貨店】
- 7回 6、モダン都市の光と闇 【新中間層】 【細民】
- 第二部 「都市化」する農村の暮らし
- 8回 7、開発される個の欲望 【色を身に纏うこと】 【温かな食物を食うこと】
- 9回 8、消費と農村生活の矛盾 【現金収入】 【養蚕】
- 10回 9、商人の論理と農民の論理の狭間で 【資本主義】
- 11回 10、「親子心中」という問題 【解体される共同体】
- 12回 11、孤立する貧困 【家】 【新たな貧困】
- 13回 12、「都市」のなかの農村へ
- 14回 13、現代日本と「海」の向こうの農村
- 15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 ... 80% 授業中の小レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容・アウトラインに関するレジュメは一切配布しないので、よく聴きノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名
/Instructor

山崎 勇治 / 経済学科, 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
										○	○

授業の概要 /Course Description

講義の目的

歴史の面白さを、特定の人物を中心として学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

第1回 開講に当たって講義の目的と方針ならびに評価の方法について

第2回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか

第3回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史

第4回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領

第5回 「ラスト・サムライ山岡鉄舟と幕末・明治」「上杉鷹山と儒教的経営」

第6回 「保科正之と江戸幕府」「親鸞と平安・鎌倉時代」

第7回 「聖徳太子と飛鳥・奈良時代」

第8回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史

第9回 「ガンディ」の映画鑑賞

第10回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?

第11回 私のイギリス案内-ビュートリックス・ポターと湖水地方のナショナルトラスト運動

第12回 M.ケインズと世界恐慌-ロシア人バレリーナとの恋愛を中心に-

第13回 サッチャーとビッグバン

第14回 ベバリッジと福祉国家

第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席を重視する。具体的な方法については初日の開講時間に説明をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。
講義全体のキーワードは、エンドユーザ、情報セキュリティ、データベースです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 情報システムの利用者としての心得1【PDCAサイクル】
- 3回 情報システムの利用者としての心得2【バックアップ】、【リスク分析】
- 4回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 5回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】、【ビット】、【バイト】、【文字コード】
- 6回 ハードウェア【CPU】、【メモリ】、【HD】、【フラグメンテーション】
- 7回 ソフトウェア【OS】、【拡張子】
- 8回 ネットワークの仕組み【LAN】、【サーバ】、【ドメイン名】、【IPアドレス】
- 9回 データベースの基礎1【正規化】、【主キー】
- 10回 データベースの基礎2【SQL】
- 11回 データベースの基礎・まとめ
- 12回 情報セキュリティ対策1【ID】、【パスワード】、【セキュリティ対策】
- 13回 情報セキュリティ対策2【SSL】、【クッキー】、【ファイル交換ソフト】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%、積極的な授業参加... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。情報社会において必要な知識を習得するとともに、コンピュータの基礎操作の訓練を行います。また、表計算ソフトを活用した情報処理技術について学習します。
講義全体のキーワードは、Excel、タイピング、電子メール、ネチケットです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州市立大学の利用環境【ID】、【パスワード】、【グループウェア】
- 2回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 3回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 4回 情報倫理【セキュリティ対策】、【SSL】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 表・グラフ作成1【セル】、【罫線】、【列幅】、【書式】、【計算式】
- 6回 表・グラフ作成2【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 7回 表・グラフ作成3【グラフウィザード】
- 8回 表・グラフ作成4【グラフ編集】
- 9回 表・グラフ作成・まとめ
- 10回 表計算1【SUM】、【MAX】、【MIN】、【AVERAGE】
- 11回 表計算2【IF】
- 12回 表計算3【COUNTIF】
- 13回 表計算4【VLOOKUP】
- 14回 表計算・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施するExcelの課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作を経験し、タイピング練習をしておくとう受講しやすくなります。
また、テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。情報社会において必要な知識を習得するとともに、コンピュータの基礎操作の訓練を行います。また、表計算ソフトを活用した情報処理技術について学習します。
講義全体のキーワードは、Excel、タイピング、電子メール、ネチケットです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州市立大学の利用環境【ID】、【パスワード】、【グループウェア】
- 2回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 3回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 4回 情報倫理【セキュリティ対策】、【SSL】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 表・グラフ作成1【セル】、【罫線】、【列幅】、【書式】、【計算式】
- 6回 表・グラフ作成2【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 7回 表・グラフ作成3【グラフウィザード】
- 8回 表・グラフ作成4【グラフ編集】
- 9回 表・グラフ作成・まとめ
- 10回 表計算1【SUM】、【MAX】、【MIN】、【AVERAGE】
- 11回 表計算2【IF】
- 12回 表計算3【COUNTIF】
- 13回 表計算4【VLOOKUP】
- 14回 表計算・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施するExcelの課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作を経験し、タイピング練習をしておくとう受講しやすくなります。
また、テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語Ⅲ【夜】

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義・他

クラス 群2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
										○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 佐木 隆三 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 地域には複合的な問題が存在し、地域の再生と創造に対する一元的な解決方法はありません。このため、自分の専門や興味・関心とは異なる分野における地域の具体的な課題と、その課題に対する取り組みについて理解し、幅広い視野を身につけることが重要です。
 地域学入門では、地域とは何か、総合的理解とは何かといった、地域を学ぶにあつての基本的概念、理論的背景を学習します。あわせて、地域の抱える具体的な課題と市民の関わり方について、その概略を理解します。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 地域とは何か
 - 2回 地域の総合的な理解
 - 3回 地域学入門の考え方
 - 4回 地域創生とマネジメント ①
 - 5回 地域創生とマネジメント ②
 - 6回 地域創生とマネジメント ③
 - 7回 地域創生とマネジメント ④
 - 8回 地域創生とボランティア ①
 - 9回 地域創生とボランティア ②
 - 10回 地域創生と文学
 - 11回 地域創生と情報
 - 12回 地域創生と福祉 ①
 - 13回 地域創生と福祉 ②
 - 14回 地域創生と福祉 ③
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業中に取り組む課題の達成度 ... 50% レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 様々な視点から地域について説明を行います。柔軟かつ幅広い視野を得るべく、学習をすすめてください。授業中にディスカッションの時間を設けます。積極的な発言を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア学概論【夜】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

<目的>
 代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、自らのキャリア発達に繋がります。
 講義全体のキーワードは「キャリア」「成長」です。

<進め方>
 グループワークが主体になります。

<期待される効果>
 学群の実習を通して成長したり、そして将来の自分のキャリアを描きたい人にとっては、たくさんのヒントや手法が得られると思います。また将来に教育・人材関連企業や企業の人事担当など、他人のキャリアをサポートするような仕事に興味がある人にとっては、入門的な知識が得られます。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。また、授業の最後に参考文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 第1回 全体ガイダンス(キャリアとは?) | 第2回 キャリア・デベロップメント |
| 第3回 働く個性・仕事へのこだわり | 第4回 働く理由・ワークモチベーション |
| 第5回 一皮むけた経験・トランジション | 第6回 経験からの学習・PDCAサイクル |
| 第7回 計画された偶発性・セレンディピティ | 第8回 企業文化・経営理念 |
| 第9回 企業内人材育成 | 第10回 成人教育学(大人の学び) |
| 第11回 労働支援関連施設のフィールドワーク | 第12回 キャリア・アセスメント |
| 第13回 大学生のキャリア(大学生活・就職活動) | 第14回 第11回の調査発表 |
| 第15回 最終レポート ※【キャリア】【成長】 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業ごとのレポートや発表60%、最終レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※1学期の『キャリア・デザイン』を受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動実践論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
市民活動とは何か、授業の中で私たちなりの言葉をつかむことを目標とする。適宜ゲストを招きながら、課題、思い、展望などを共有し、議論をしながら進めていく。

教科書 /Textbooks
とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～3回 市民活動の良さと悪さ
- 4回～5回 市民活動の多様性
- 6回～7回 運営と資源
- 8回 中間まとめ
- 9回～14回 適宜ゲストを呼んで課題等を共有する(予定)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
受講者にも、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域文化論 【夜】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

地域において、何を「文化」と名づけることができるのか。そして、その文化を、誰がどのように語り、表現 / 表象し、地域の資源として活かしていくことができるのか。「文化」を語り、それに関わることの政治性を自覚した上で、なお地域の暮らしに資する文化をめぐる実践の可能性を検討する。具体的には、文化資源の発掘、保存、活用、さらには地域史の編纂など、主に北九州地域の具体的事例を通して考える。

教科書 /Textbooks

必要な参考文献などは授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、「文化」とは何か？
- 2～3、何が「地域」の文化なのか？
- 4～5、「文化」を語ることと「地域」の創世
- 6、「地域誌 / 史」を語るということ
- 7、「文化財」という思想と「地域」
- 8、「保存」という難儀
- 9、ある神輿のゆくえ ①「文化財」と名づけるために
- 10、ある神輿のゆくえ ②街の暮らしと「文化財」の葛藤から
- 11、ある神輿のゆくえ ③「地域」の創世にむけて
- 12、世界遺産と「文化財」のはざままで
- 13、「伝統」という政治
- 14～15、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験または学期末レポート 80 パーセント。授業内小レポート 20 パーセント。試験または学期末レポートは、業内容を十分に踏まえていることを前提にする。授業内容を踏まえない中途半端な「オリジナリティ」は評価しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に出席をとらない。しかし授業に出なくていいというわけではない。また講義のなかで、参加者の意見を求めることがある。積極的に応え参加することを求める。また授業のアウトラインを示すレジュメは取って配布しない。よくノートをとるようにされたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

危機管理論 【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

危機管理の初歩について講義することを目的とする。おおむね、「危機管理とは何か」に関する概念理解に始まり、危機の予防、危機発生時の強化・減災、発生後の復興などが「危機管理」に含まれるところである。例えば、自然災害も危機であるし、新型インフルエンザも危機であるし、またテロも危機である。

教科書 /Textbooks

使用しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2～5回 危機管理総論 (「危機管理とは何か」、概説、定義、範囲、リスクと危機の違いなど)
- 第6～10回 危機管理各論 (自然災害、感染症、テロなどと危機管理)
- 第11～14回 DIG(Disaster Imagination Game ; 災害図上訓練のこと。予定では、DIGについて (説明)、地図を作る、地図を読み説く、野外調査での確認、シミュレーション、などを考えている)
- 第15回 まとめ

注意。この科目は本年度初の試みとなるため、担当者も試行錯誤の過程を経験しつつ準備作業を展開することになる。したがって、講義計画の大幅な変更がありうる。詳細については初回ガイダンスにて確認する。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

システム活用 【夜】

担当者名 /Instructor 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

システム活用では、職場内の情報化の推進役として、業務における問題点の発見や改善策の立案ができ、さらにはシステムの構築や運用にあたっての指導、活用推進ができるようなコンピュータに関する知識を習得します。

教科書 /Textbooks

「エンドユーザのための情報基礎」FOM出版
 (1年次の「データ処理」「エンドユーザコンピューティング」で利用したテキスト)
 情報処理教科書「ITパスポート」翔泳社 (販売予定、授業中に指示します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、業務と情報技術の関係
- 2回 コンピュータ構成要素
- 3回 システム構成要素
- 4回 ヒューマンインターフェースとマルチメディア
- 5回 データベース
- 6回 ネットワーク
- 7回 セキュリティ
- 8回 基礎理論
- 9回 アルゴリズムとプログラミング
- 10回 企業と法務
- 11回 経営戦略とシステム戦略
- 12回 システム開発技術とソフトウェア開発技術
- 13回 プロジェクトマネジメント
- 14回 サービスマネジメント
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施するテスト ... 50% 積極的な授業への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

質疑応答を繰り返しながら、授業を展開します。きちんと理解しているか、ほぼ毎回、テストを実施します。しっかりとした予習と復習が必要です。
 授業開始前に、「データ処理」と「エンドユーザコンピューティング」の授業内容を復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

まちづくり計画【夜】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

この講義の基本的なテーマは、まちづくりに関する基本的な事項や様々な手法を知ることです。講義では、都市計画に関する重要事項について比較的広範囲に取り上げ、その基本的事項について具体的な事例を交えながら概説します。講義を通して、都市計画の目的である良好な市街地形成を実現するための体系・手法を学ぶことが、この講義の目的です。

教科書 /Textbooks

使用しません。(適宜、資料を配付します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 萩島哲編『新建築学シリーズ10 都市計画』朝倉書店
 - 都市計画教育研究会編『都市計画教科書第3版』彰国社
- その他、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【都市について考える】
- 2回 都市計画の概念と社会的役割【都市計画の概念】
- 3回 歴史上の都市計画・都市デザイン【都市計画史】
- 4回 都市計画の法体系と都市の基本計画【法体系】
- 5回 土地利用の概念【土地利用】
- 6回 土地利用計画の実現【土地利用】
- 7回 再開発の概念と手法【再開発】
- 8回 都市の再開発事例【再開発】
- 9回 都市景観【景観】
- 10回 都市デザイン【都市デザイン】
- 11回 都市の交通計画【都市交通】
- 12回 住環境整備の手法と事例【住環境整備】
- 13回 都市計画の支援ツール【都市解析】
- 14回 都市調査【都市解析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に取り組む課題の達成度 ... 50%
期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

とくになし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習 A 【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 深谷 裕 / 地域戦略研究所
 中島 俊介 / 基盤教育センター, 神山 和久 / KAZUHISA KOYAMA / 地域戦略研究所
 片岡 寛之 / 地域戦略研究所, 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習 A は、地域創生学群での学習や実習を行う際に必要な知識や技術、マナーを習得することを目標とします。また、この演習を通じて、地域創生学群において学習を進めていく上での心構えを身に付けたり、将来に対する目標や自分の進むべき道を模索していきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 オリエンテーション【一般的な心構え】、【指導的実習】、【学内LAN環境】
- 2 回 学生生活プランニング ①【目標設定と共有】
- 3 回 学生生活プランニング ②【ポートフォリオ指導】
- 4 回 マナー ①【社会人・学生としてのマナー】
- 5 回 マナー ②【調査・実習・校外活動におけるマナー】
- 6 回 マナー ③【情報機器の操作におけるネチケット、マナー】
- 7 回 デザイン技法【チラシ・ポスターの作り方】
- 8 回 文書作成 ①【エッセイの書き方】
- 9 回 文書作成 ②【調査書・実践報告書の書き方】
- 10 回 文書作成 ③【レポートの書き方】
- 11 回 文書作成 ④【実践レポートの書き方】
- 12 回 テーマごとのディスカッション
- 13 回 学生生活プランニング ③【自己の学習管理と目標の見つめなおし】
- 14 回 演習・実習の振り返り
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2年次以降に地域創生実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、土曜日や日曜日などの正規の授業時間外に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。詳しくは、第1回目の授業のときに説明します。
 遅刻・欠席をしないこと。どうしても遅刻・欠席せざる得ない場合は、事前に、担当教員に連絡をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 地域創生基礎演習Bは、基礎演習Aで学んだことの一部を実際に活用することを目標とします。具体的には、次の二つの方法を採用します。
 ①担当教員が設定した社会問題について2グループに分かれ、異なる立場から主張・発表。
 ②各自興味のある地域課題（児童虐待、高齢者福祉、ボランティア、差別問題、犯罪、障害者福祉、ホームレス、過疎など）に関する新聞記事や雑誌記事等を選び、疑問点や問題点を整理して、自分なりに検討を加えた結果を報告。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。発表者により資料が配布されることがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 オリエンテーション；グループ分け、報告の方法、注意点、授業の進め方
 2回～14回 報告とディスカッション
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
 積極的な演習への参加（指導的実習への取り組みを含む）・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 地域創生実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外（土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む）に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

各受講生が「生涯発達の視点から、心の育ちの面白さや複雑さを理解する」ことを目標とする。やり方としては、地域創生基礎演習Aで学んだことを基盤にして、自分の興味と関心のあるテーマを生涯発達の視点から考えられる基礎力の養成をめざす。各自がテキストの自分の担当個所についてまとめて、それを軸に受講者同士及び担当者との議論によって内容を深めていくという方法をとりながら学びを深めたい。

教科書 /Textbooks

「こころの旅」神谷美恵子著，みすず書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(講師の自己紹介、受講生の自己紹介、分担決めetc.)
- 2回 ウォーミングアップ(自己開示シートの記載と発表。メンバーの関心事を知る。)
- 3回 生涯発達の視点について(学ぶ意義の理解と共有。)
- 4回 担当個所発表と討議①(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 5回 担当個所発表と討議②(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 6回 担当個所発表と討議③(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 7回 担当個所発表と討議④(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 8回 担当個所発表と討議⑤(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 9回 担当個所発表と討議⑥(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 10回 担当個所発表と討議⑦(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 11回 担当個所発表と討議⑧(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 12回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 13回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 14回 演習Cに向けての議論と展望を得る
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組み課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記に示すように担当個所発表と討議が重要である。テキストだけにとどまらず、関連した文献や自己の体験を踏まえて議論に参加してもらいたい。広くそして興味のあるところは深く掘り下げて自己の学び方の基礎を構築してもらいたいと思う。
2年次以降に地域創生実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【夜】

担当者名 神山 和久 / KAZUHISA KOYAMA / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の地域創生基礎演習Aで、基礎的な知的生産の方法や調査マナーに接したことを踏まえてこの演習では、すべてのメンバーが「消費者」の意識と行動について広く問題意識を高めることを目指します。このため、消費経済に関する文献によって各自に「報告テーマ」を割り当てます。テーマごとに担当者に発表してもらい、毎回、皆で議論しながら消費者力を身につけていきます。

教科書 /Textbooks

最初の講義で説明します。補足資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】)はキーワード
- 1回 「消費者」の意識と行動に関するアプローチの方法
 - 2回～ 4回 「題材」の設定と分担、【行動経済学】、【市民力】、【消費者力】
 - 5回～ 14回 発表とディスカッションその①～その⑩
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2年次以降に地域創生実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【夜】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
この演習の基本的なテーマは、「まちを好きになること」「まちに対して興味を持つこと」「まちを知ること」です。それらの点に主眼を置きつつ、2年生以降、まちづくりについて学んでいく上で必要となる基本的な事項や心構えについて理解すること、今後、取り組んでみたいテーマについて皆で話し合い、皆で考えることが、この演習の目的です。

教科書 /Textbooks
使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 オリエンテーション【目標の共有】
2～4回 わがまちを紹介する【まちを好きになる】
5回 地域に関わるプロに学ぶ【まちづくりの心構え】
6～8回 活動報告【振り返り】
9～11回 まちについて調べてみる【都市調査】【統計処理】
12～14回 街角スナップ写真をもとにまちの魅力を探る【まちを知る】【景観】
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
2年次以降に地域創生実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

受講生どうしのコミュニケーションや議論を深め、それを通じて演習の中で学んでいく上での基礎固めを行う。特定の問題意識にとらわれず、視野を広げ、それをクラス内で共有することが目的である。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インタロダクション(講師の自己紹介、受講生の自己紹介、グループ分けetc.)
- 2回～14回 文献や映像などを使った問題提起と議論(講師が指定する場合もある)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生各自にプレゼンテーションを行ってもらう予定である。講義とは異なり、受講生自身の参加が重要である。
2年次以降に障害者スポーツ実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

地域福祉のコースでは、地域における介護や子育て支援や人権文化の促進など、個人がより健康で幸福に生きていけるような「福祉の価値」の実現に貢献できる人材の養成を目指している。基礎演習Cにおいては、このための実践的理論の一つを会得することをねらいとする。具体的には「共同体感覚」（アドラー心理学）という心理学的概念について学ぶ。

教科書 /Textbooks

「アドラー心理学トークンセミナー 第二部 共同体」野田俊作著，アニマ21

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(分担当めetc.)
- 2回 ウォーミングアップ(自己課題の開示。メンバーそれぞれの関心事を知る。)
- 3回 共同体について(学ぶ意義の理解と共有。)
- 4回 担当個所発表と討議①(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 5回 担当個所発表と討議②(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 6回 担当個所発表と討議③(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 7回 担当個所発表と討議④(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 8回 担当個所発表と討議⑤(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 9回 担当個所発表と討議⑥(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 10回 担当個所発表と討議⑦(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 11回 担当個所発表と討議⑧(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 12回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 13回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 14回 演習Dに向けての議論と展望を得る
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記に示すように担当個所発表と討議が重要である。テキストだけにとどまらず、関連した文献や自己の体験を踏まえて議論に参加してもらいたい。広くそして興味のあるところは深く掘り下げて自己の学び方の基礎を構築してもらいたいと思う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【夜】

担当者名 神山 和久 / KAZUHISA KOYAMA / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 1年次の地域創生基礎演習Bで、「消費者」の意識と行動について広く問題意識を高めることを目指しました。引き続き地域創生基礎演習Cでも、消費者行動に関する文献によって各自に「報告テーマ」を割り当てます。テーマごとに担当者に発表してもらい、毎回、皆で議論しながら消費者行動や生活者力を身に付けていきます。
 これとは別に、地域創生実習Iを受講している皆さんの活動についても、この基礎演習Cで報告を受け、皆さんと議論していきます。地域活動の実践と振り返りによる検証を重ねながら今後の皆さんの実践活動に活かして参りましょう。

教科書 /Textbooks
 最初の講義で説明します。補足資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 (【 】) はキーワード
 1回 「行動経済学」に関するアプローチの方法
 2回～ 4回 「題材」の設定と分担、【行動経済学】、【ヒューリスティック】、【消費者力】
 5回～ 14回 発表とディスカッションその①～その⑩
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【夜】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 この演習の基本的なテーマは、「まちについて調べてみる」「まちに対する理解を深める」ことです。まちづくりに関するセオリーについて学びながら、自らテーマを設定し、まちに関する様々な事項について調べることを通して、まちに対する理解を深め、主体的に取り組む姿勢を養うことが、この演習の目的です。

教科書 /Textbooks
 使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～5回 文献購読およびディスカッション【まちづくり】【景観】
- 6～8回 活動報告【振り返り】
- 9～12回 文献購読およびディスカッション【まちづくり】【景観】
- 13～14回 フィールドワークの結果報告【まちについて調べる】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

1年次の地域創生基礎演習Bでやってきたことを踏まえ、さらに問題意識の裾野を広げることを目的とする。とくに受講生自身が課題を設定し、資料を集め、調べたことを報告するというスタイルを重視する。また適宜、地域創生実習Iの振り返りを行う場合もある。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インタロダクション(講師の自己紹介、受講生の自己紹介、グループ分けetc.)
- 2回~14回 受講生自身の課題設定にもとづいた報告と議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度... 50% 積極的な演習への参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生自身で、資料を用意し、プレゼンテーションを行ってもらう。1年次に引き続き、受講生の参加が重要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 心理・メンタルヘルスに関する理論の一つを基礎から応用までを体系的に学ぶ。地域において個人がより健康で幸福に生きていけるような「福祉の価値」の実現に貢献するには自分のメンタルを健康にする方法と内容について学ばねばならない。基礎演習Dにおいては、このための実践的理論の一つを会得することをねらいとする。具体的には「あるがまま」(森田療法)という心理療法の概念について学ぶ。

教科書 /Textbooks
 「森田療法のすべてがわかる本」北西憲二監修，講談社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション(分担当めetc.)
 - 2回 ウォーミングアップ(メンタル面での自己課題の開示。メンバーそれぞれの課題を知る。)
 - 3回 メンタルにおけるタフさ「あるがまま」について(学ぶ意義の理解と共有。)
 - 4回 担当個所発表と討議①(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 5回 担当個所発表と討議②(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 6回 担当個所発表と討議③(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 7回 担当個所発表と討議④(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 8回 担当個所発表と討議⑤(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 9回 担当個所発表と討議⑥(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 10回 担当個所発表と討議⑦(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 11回 担当個所発表と討議⑧(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 12回 全体討議を通して考えたこと，気づいたことについて議論する。
 - 13回 全体討議を通して考えたこと，気づいたことについて議論する。
 - 14回 演習Dに向けての議論と展望を得る
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 上記に示すように担当個所発表と討議が重要である。テキストだけにとどまらず、関連した文献や自己の体験を踏まえて議論に参加してもらいたい。広くそして興味のあるところは深く掘り下げて自己の学び方の基礎を構築してもらいたいと思う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【夜】

担当者名 神山 和久 / KAZUHISA KOYAMA / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Cの内容を発展させるため、引き続き基礎演習Dにおいても、行動経済学に関する文献によって各自に「報告テーマ」を割り当てます。テーマごとに担当者に発表してもらい、毎回、皆で議論しながら生活者力を身につけていきます。2年次後半でもあり、特に、自らの報告スタイルに少しでも自信がもてるようなプレゼンテーションを期待しています。
これとは別に、地域創生実習Iを受講する皆さんの活動についても、継続してこの基礎演習Dで報告してもらい皆で議論していきます。
なお、3年次以降の地域創生演習に備え、「卒業論文」や「卒業実践報告」に向けたテーマ決めについても取り組みます。

教科書 /Textbooks

最初の講義で説明します。補足資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】) はキーワード
 1回 はじめに
 2回～ 4回 「題材」の再設定と分担、【行動経済学】、【卒業論文】【実践報告書】
 5回～ 14回 発表とディスカッションその①～その⑩
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【夜】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 この演習の基本的なテーマは、「色んなまちと比較してみる」「まちに対する理解を深める」ことです。様々なまちとの比較を通して自分のまちを客観視すること学び、まちに対する理解をさらに深めること、3年次以降、本格的に地域の調査を始める上で必要となる基本的な事項について学ぶことが、この演習の目的です。

教科書 /Textbooks
 使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～6回 事例収集と報告【色んなまちのことを知る】
- 7～9回 活動報告【振り返り】
- 10～12回 事例の整理と報告【色んなまちと比較する】【統計処理】
- 13～14回 自分のまちの特色や課題について考える【まちに対する理解を深める】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
引き続き地域創生基礎演習Cでやってきたことを踏まえ、問題意識の裾野を広げることを目的とする。とくに受講生自身が課題を設定し、資料を集め、調べたことを報告するというスタイルを重視する。また適宜、地域創生実習Iの振り返りを行う場合もある。

教科書 /Textbooks
適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 インタロダクション(講師の自己紹介、受講生の自己紹介、グループ分けetc.)
2回～14回 受講生自身の課題設定にもとづいた報告と議論
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習中に取り組む課題の達成度... 50% 積極的な演習への参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
受講生自身で、資料を用意し、プレゼンテーションを行ってもらう。1年次に引き続き、受講生の参加が重要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。
 授業の特徴として、①具体的な事例を体系的にとりあげること（社会的排除、虐待、家庭内暴力、低所得者、ホームレスなど）②個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行うことが、挙げられます。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点、面接練習のためのグループ分け
 - 2回 ソーシャルワーカーとは専門職か？
 - 3回 価値観について知る
 - 4回 人間の平等と尊厳、個性の尊重
 - 5回 自己実現と社会正義
 - 6回 受容・利益の優先・自己決定
 - 7回 プライバシーと秘密保持
 - 8回 組織への倫理責任
 - 9回 地域社会への倫理責任
 - 10回 倫理的ディレンマ
 - 11回 「インテーク その1」－出会いの場面
 - 12回 「インテーク その1」－語らいの場面（共感）
 - 13回 「インテーク その1」－語らいの場面（核心）
 - 14回 「インテーク その2」－出会いと語らい
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業態度 ... 50% 受講状況 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎回、面接練習をします。必ず自分の担当日までに、面接場면을録画しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 1 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。
 授業の特徴として、①具体的な事例を体系的にとりあげること（社会的排除、虐待、家庭内暴力、低所得者、ホームレスなど）②個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行うことが、挙げられます。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点、面接練習のためのグループ分け
 - 2回 ソーシャルワーカーとは専門職か？
 - 3回 価値観について知る
 - 4回 人間の平等と尊厳、個性の尊重
 - 5回 自己実現と社会正義
 - 6回 受容・利益の優先・自己決定
 - 7回 プライバシーと秘密保持
 - 8回 組織への倫理責任
 - 9回 地域社会への倫理責任
 - 10回 倫理的ディレンマ
 - 11回 「インテーク その1」－出会いの場面
 - 12回 「インテーク その1」－語らいの場面（共感）
 - 13回 「インテーク その1」－語らいの場面（核心）
 - 14回 「インテーク その2」－出会いと語らい
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業態度 ... 50% 受講状況 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎回、面接練習をします。必ず自分の担当日までに、面接場면을録画しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

相談援助演習 1 に引き続き、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点、面接練習のためのグループ分け
- 2回 「クライアント理解(アセスメント)」その1
- 3回 「クライアント理解(アセスメント)」その2 医学モデルとストレングス視点
- 4回 「クライアント理解(アセスメント)」その3 エコロジカル視点
- 5回 「プランニング」その1 プランの作成
- 6回 「プランニング」その2 プランのねらいと効果予測の明確化
- 7回 「インターベンション(介入)」その1 クライアントへの働きかけ
- 8回 「インターベンション(介入)」その2 クライアントの環境への働きかけ
- 9回 「インターベンション(介入)」SSTを学ぶ
- 10回 「モニタリング」その1
- 11回 「モニタリング」その2
- 12回 「効果測定」その1
- 13回 「効果測定」その2
- 14回 支援の終結
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50% 受講状況 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、面接練習をします。必ず自分の担当日までに、面接場面を録画しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

相談援助演習 2 【夜】

キーワード /Keywords

相談援助演習 2 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

相談援助演習 1 に引き続き、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレーイング等）を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点、面接練習のためのグループ分け
- 2回 「クライアント理解（アセスメント）」その1
- 3回 「クライアント理解（アセスメント）」その2 医学モデルとストレングス視点
- 4回 「クライアント理解（アセスメント）」その3 エコロジカル視点
- 5回 「プランニング」その1 プランの作成
- 6回 「プランニング」その2 プランのねらいと効果予測の明確化
- 7回 「インターベンション（介入）」その1 クライアントへの働きかけ
- 8回 「インターベンション（介入）」その2 クライアントの環境への働きかけ
- 9回 「インターベンション（介入）」SSTを学ぶ
- 10回 「モニタリング」その1
- 11回 「モニタリング」その2
- 12回 「効果測定」その1
- 13回 「効果測定」その2
- 14回 支援の終結
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50% 受講状況 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、面接練習をします。必ず自分の担当日までに、面接場面を録画しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域コーディネート論【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 地域を舞台とした人と人との様々な関わり合いを、「コーディネート」という視点からとらえ直す。分かりやすい事例を1つ1つ授業の中で検討していきながら、「コーディネートする」とはどういうことが、みんなで考える。

教科書 /Textbooks
 とくに使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業の中で適宜紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「コーディネート」という視座について
- 2回 地域の現状をさぐる(1)
- 3回 地域の現状をさぐる(2)
- 4回 貧困の問題とコーディネート(1)
- 5回 貧困の問題とコーディネート(2)
- 6回 まちづくりとコーディネート(1)
- 7回 まちづくりとコーディネート(2)
- 8回 中間まとめorスケジュール調整
- 9回 家族問題とコーディネート(1)
- 10回 家族問題とコーディネート(2)
- 11回 ボランティアとコーディネート(1)
- 12回 ボランティアとコーディネート(2)
- 13回 地域の「私」「公」「共」について(1)
- 14回 地域の「私」「公」「共」について(2)
- 15回 まとめ

※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method
 課題提出...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 講義では、テーマに即してレジユメや資料を配布する。特別講師を呼ぶ場合もある。受講にあたっては、毎回出席することが前提である。レジユメを読みながら、講師の話をしっかりメモすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域調査論【夜】

担当者名 /Instructor 神山 和久 / KAZUHISA KOYAMA / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 この講義は、地域社会で起こる事象を対象として、地域の問題発見とその主体的な解決のため実施される「地域調査」について、より実践的な知識を習得することがねらいです。
 このため、具体的に調査結果がどのように報告され活用されるのかについても詳しく解説します。「まちづくり」を基調テーマとし、都市間の人口移動調査や市民力に関する世論調査、消費者の意識と行動調査などを取り上げる予定です。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて参考文献を紹介します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 はじめに -地域調査はなぜ必要か
 - 2回 調査の分類-調査方法はたくさんあるけれど
 - 3回 統計資料から読めること-データを見て考えよう【官庁統計】
 - 4回 データ読み取りに際しての注意事項-【人間的なあやまり】【少数の法則】
 - 5回 世論調査について①-質問文作成の要領と注意点【バイアス】【アンカリング効果】
 - 6回 世論調査について②-実査を行う【RDD】
 - 7回 世論調査について③-集計の手順と報告書作成の注意点【カテゴリー化】
 - 8回 地域調査事例とその読み方 ①【人口移動】【ラベンスタインの法則】
 - 9回 地域調査事例とその読み方 ②【市政評価】【順位法】
 - 10回 地域調査事例とその読み方 ③【就労意識】【市民力】
 - 11回 地域調査事例とその読み方 ④【重要度・満足度】
 - 12回 地域調査事例とその読み方 ⑤【生活意識】【家計・物価】
 - 13回 テキストマイニングの手法
 - 14回 テキストマイニングの実際【自由記述データ】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 出席...30% レポート...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 電卓を使用することがあります。事前に講義でお知らせします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策論【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにした。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業ごとに挙げていく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 日本における貧困問題・・・北九州市と福岡市のネットカフェ難民調査から
- 5回 日本における子どもの貧困(1)・・・日本の現状を考える
- 6回 日本における子どもの貧困(2)・・・比較の視座から考える
- 7回 社会実験(1)・・・社会実験とは何か
- 8回 社会実験(2)・・・事例の分析・検討
- 9回 循環型社会(1)・・・導入
- 10回 循環型社会(2)・・・容器包装リサイクル法
- 11回 循環型社会(3)・・・家電リサイクル法
- 12回 介護保険(1)・・・導入
- 13回 介護保険(2)・・・現状分析
- 14回 介護保険(3)・・・問題点とその検討
- 15回 介護保険(4)・・・問題点とその検討

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業貢献度など ... 50 % レポート ... 50 %。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いていただき成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配付するレジュメ、参考資料、論文、新聞記事等をしっかり読んで、次の授業に参加していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市環境論 【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるの？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもちえてません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてもらいたいのは、環境問題の原点とも言われる水俣病です。そのことも毎年実施している私のゼミ及び「政策科学入門I」の環境学習研修旅行の記録を通して学習します。環境教育アクティビティを多用します。

教科書 /Textbooks

その都度資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 栗原彬『証言 水俣病』岩波新書、2000年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成19年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣病講義』日本評論社、2004年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---------------------------------------|------------|
| 第1回 「都市環境論」の授業内容とならひの説明：：簡単な環境意識度チェック | 【環境意識】 |
| 第2回 環境教育とESD (持続可能な開発のための教育) | 【ESD】 |
| 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告 | 【環境学習旅行】 |
| 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 | 【水俣病】 |
| 第5回 日本の環境政策 | 【環境政策】 |
| 第6回 北九州市の環境の現状 | 【北九州市】 |
| 第7回 廃棄物管理 その原理と現状 | 【廃棄物管理】 |
| 第8回 廃棄物管理 ～リサイクル、特にコンポストをめぐる | 【コンポスト】 |
| 第9回 下水処理をめぐる～下水処理の原理 | 【水質汚濁】 |
| 第10回 下水処理をめぐる～途上国インドのし尿処理問題 | 【途上国のし尿問題】 |
| 第11回 上水道 : : (アクティビティ=きき水比べ) | 【おいしい水】 |
| 第12回 大気汚染～汚染の原理と現状 | 【大気汚染】 |
| 第13回 大気汚染～身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定 | 【CO2計測】 |
| 第14回 環境保全・環境教育に取り組む人々=エコツーリズムに関わろう！ | 【エコツーリズム】 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 20 % 小課題の提出 ... 10 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

景観まちづくり論【夜】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

この講義の基本的なテーマは、「景観」と「まちづくり」です。景観まちづくりの思想や法制度について様々な視点から学び、各地の事例についてレビューすることで、景観を通じたまちづくりのあり方、景観まちづくりの本質について考えることが、この講義の目的です。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本建築学会 著『まちづくり教科書 第8巻 景観まちづくり』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【景観について考える】
- 2回 景観法の制定と景観まちづくりの意義【法制度】【理念】
- 3回 景観まちづくりの方法【手法】
- 4回 景観施策の実態【政策】
- 5回 景観まちづくりと参加【まちづくり】
- 6回 景観まちづくりの現場から【実務】
- 7回 景観条例【法制度】
- 8回 都市計画と景観まちづくり【まちづくり】
- 9回 都市計画と景観まちづくり【まちづくり】
- 10回 景観法による景観まちづくり【法制度】
- 11回 景観法による景観まちづくり【法制度】
- 12回 様々な調査手法【調査】
- 13回 事例紹介とレビュー
- 14回 事例紹介とレビュー
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に取り組む課題の達成度 ... 50%
期末試験もしくはレポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

とくになし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉環境デザイン論 【夜】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 本講義では、成熟社会における今後のまちづくりのあり方を、広く福祉・環境の側面から捉え、公共空間、住宅、交通施設などを対象に、バリアフリーや環境に配慮したデザインの背景、意義及びその手法についての基礎的知識を学ぶことを目的とします。建築・土木の専門用語も多数出てきますが、国内外の事例を交えながら分かりやすく概説します。

教科書 /Textbooks
 なし（適宜、レジュメや参考資料を配付）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○田中直人編『福祉のまちづくりキーワード事典』学芸出版社
 ○土木学会編『日本の交通バリアフリー理解から実践へ』学芸出版社

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 ガイダンス(福祉環境デザインとは)【バリアフリー】、【ユニバーサルデザイン】
 - 2回 人間の行動能力と空間【障がい者】、【高齢者】
 - 3回 公共空間のデザインI(道路、歩道等)【有効幅員】、【段差】、【勾配】
 - 4回 公共空間のデザインII(広場、公園、緑地等)【スロープ勾配】、【公開空地】
 - 5回 公共空間のデザインIII(公共施設、商業施設等)【ハートビル法】、【多機能トイレ】
 - 6回 北九州市におけるバリアフリーのまちづくり
 - 7回 居住空間のデザイン【ライフスタイル】、【バリアフリー住宅】
 - 8回 情報機能のデザイン【サイン】、【情報案内】、【色と光】
 - 9回 公共交通のデザインI(交通施設)【交通バリアフリー法】、【駅】
 - 10回 公共交通のデザインII(車両)【交通バリアフリー法】、【交通システム】、【LRT】
 - 11回 公共交通のデザインIII(交通とまちづくり)【タウンモビリティ】、【コンパクトシティ】
 - 12回 世界の交通まちづくり
 - 13回 住民参加によるまちづくりの合意形成手法【ワークショップ】、【市民参加】
 - 14回 地域運営手法による住民自らのまちづくり【まちづくり協議会】、【維持管理】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 出席・レポート等... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ものづくりマネジメント論【夜】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

工業先進国であるわが国の「ものづくりの現場」が、どのようなしくみで、どのようなことを行い、利益を産み出しているのか、ものづくりの基本を「管理（工場管理）の視点」から学びます。

教科書 /Textbooks

菅間正二『生産管理の仕事がわかる本』同文館出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

加藤治彦『図解でわかる生産の実務 生産管理』日本能率協会マネジメントセンター
 小野道照・直井知与『品質管理教本 QC検定試験3級対応』日本規格協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ものづくりとは【製造業の機能と経営環境】
- 2回 生産システム【生産形態】
- 3回 生産管理【生産方式】
- 4回 " 【生産計画】
- 5回 " 【生産統制】
- 6回 品質管理【品質管理手法】
- 7回 " 【標準化】【ISO9000s】
- 8回 原価管理【原価計算】
- 9回 " 【コストダウン】
- 10回 外注管理、購買管理、在庫管理
- 11回 設備管理、レイアウト管理
- 12回 組織間連携【販売vs.生産】【製品設計vs.生産】
- 13回 グローバル化と情報化【SCM：サプライチェーンマネジメント】
- 14回 環境マネジメント【CSR：企業の社会的責任】【ISO14000s】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平時の学習状況（小テスト・課題含む）... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃からものづくりに関心をもつこと
 (例、身近な製品がどうやって作られているのか、興味を持って考えてみる)
 (例、新聞・雑誌・TVなどのメディアを活用して、ものづくりに関する情報を収集する)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにさせていただきたい。講義全体のキーワードは【立憲主義】と【民主主義】である。

教科書 /Textbooks

各回ごとにレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大隈義和他『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）
- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義 - 【国家権力の授権と制限】
- 第2回 憲法の展開 - 【近代から現代、そして未来へ】
- 第3回 人権総論① - 【人権の保障と制限】
- 第4回 人権総論② - 【裁判所による人権保障】
- 第5回 統治機構総論① - 【国民主権の意義】
- 第6回 統治機構総論② - 【日本の政治制度】
- 第7回 統治機構総論③ - 【司法制度と違憲審査制】
- 第8回 平和主義論① - 【憲法9条の制定・意義】
- 第9回 平和主義論② - 【平和主義の現実と未来】
- 第10回 平和主義論③ - 【憲法9条と裁判所】
- 第11回 地方自治 - 【新しい地方自治の姿と課題】
- 第12回 象徴天皇制 - 【天皇制の継続と断絶】
- 第13回 憲法保障 - 【憲法保障・憲法改正・憲法変遷】
- 第14回 総括
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法概論I【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

民法は、私人（市民）間のさまざまな法律関係（財産関係・家族関係）に適用される基本的ルールを定めるものです。わが国の民法典には、民法全体に共通するルールを扱う総則（第1編）を頂点に、物権（第2編）、債権（第3編）、親族（第4編）、相続（第5編）と、全部で5つの編が置かれています。本講義では、これらのうち、民法の通則である総則と物権総論を中心にお話しします。できる限り具体的な場面を挙げ、法制度や概念について平易な解説を加えます。本講義を通じて、現代社会における民法の役割や位置づけを考えてみてください。

教科書 /Textbooks

- ①尾崎哲夫『ものすごくわかりやすい民法の授業』自由国民社（2009年9月）1,900円
- ②石川明ほか（編集代表）『標準六法'10』信山社（2009年10月）1,280円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○山野目章夫『民法 総則・物権 第4版 有斐閣アルマ』有斐閣（2007年2月）1,800円※その他の参考文献については、講義の際に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード) ※レジュメを配布しますが、テキスト①・②は毎回持参してください。
- 第1回 民法入門【民法の指導原理】【権利義務】【権利濫用】(以下小野担当)
 - 第2回 権利の担い手としての資格①【人】【権能力】【行為能力】【未成年者】
 - 第3回 権利の担い手としての資格②【成年後見】【法人】
 - 第4回 権利の対象となる財産【物】【不動産】【動産】【債権】
 - 第5回 取引活動の自由と限界①【法律行為】【契約の成立と効力】【意思の不存在】
 - 第6回 取引活動の自由と限界②【詐欺】【強迫】【無効取消し】【代理】
 - 第7回 取引によらない権利の取得・消滅&第1回中間試験【取得時効】【消滅時効】
 - 第8回 物権法入門(物権とは何か?)【物権法定主義】【一物一権主義】(以下福本担当)
 - 第9回 物権変動論①【意思主義】【對抗要件】【不動産物権変動】
 - 第10回 物権変動論②【民法177条】【背信的悪意者】【動産物権変動】
 - 第11回 物権変動論③【即時取得】【公信力】
 - 第12回 所有権・占有権・用益物権【物権的請求権】【占有訴権】【地上権】【入会権】
 - 第13回 担保物権①【担保物権の通用性】【抵当権】【質権】【留置権】
 - 第14回 担保物権②&第2回中間試験【先取特権】【物上代位】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

第1回中間試験(45分)...10% 第2回中間試験(45分)...10% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習を心がけ、次回授業までにテキスト該当頁を通読してきてください。また、「民法総則」、「物権法」の講義を履修すると、本講義の内容を深く理解することができます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法概論II【夜】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

法学の中で、民法は最も基本的な科目です。「民法概論1」の後をうけて、この科目では、民法(財産法)の後半部分を中心に、民法の基本を理解することが目標です。

教科書 /Textbooks

未定。ただし、「民法概論1」と同じテキストを使用する予定です。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 民法とは、民法には何が書いてあるか
- 2回 【物権】と【債権】
- 3回 【債務不履行】その1
- 4回 債務不履行その2
- 5回 【債権者代位権】、【詐害行為取消権】
- 6回 債権の消滅
- 7回 【債権譲渡】その1
- 8回 債権譲渡その2
- 9回 【売買契約】
- 10回 【賃貸借契約】その1
- 11回 賃貸借契約その2
- 12回 その他の【有名契約】
- 13回 【事務管理】、【不当利得】、【転用物訴権】
- 14回 【不法行為】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。ただし、民法概論1を受講済みの方が理解が深まると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本経済入門 A 【夜】

担当者名 /Instructor 素川 博司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 日本経済を大きな視点で見ます。生産物の購入（需要）の特徴とマネーの流れの特徴を理解することを重視し、また景気や経済の成長を意識しながら学んでいきます。

教科書 /Textbooks
 使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 『日本経済を学ぶ』岩田規久男著、ちくま新書
 『はじめての経済講義』佐和隆光著、日本経済新聞出版社

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第1回 経済学のエッセンス [GDP、所得]
 - 第2回 日本経済：誰が何をどれだけ買う？ [GDPと輸入、家計・企業・政府・外国]
 - 第3回 日本経済：景気と成長 [景気循環、潜在GDP]
 - 第4回 消費と経済1 [基礎消費]
 - 第5回 消費と経済2 [消費性向]
 - 第6回 企業と経済 [投資]
 - 第7回 企業と経済 [在庫]
 - 第8回 政府と経済 [政府支出、政府の役割]
 - 第9回 政府と経済 [財政赤字、社会資本]
 - 第10回 マネーと経済 [貯蓄]
 - 第11回 マネーと経済 [間接金融、直接金融]
 - 第12回 マネーと経済 [日本銀行の役割]
 - 第13回 外国と日本経済 [グローバル化]
 - 第14回 日本経済の今後 [持続可能性]
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 授業で配布するプリントを利用して、授業の事前事後の学習に役立てること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本経済入門B 【夜】

担当者名 /Instructor 素川 博司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

産業や労働の側面から日本経済を学びます。前期（素川）が主に需要中心であったのに対して、供給に焦点をあてることにします。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『日本経済図説』宮崎勇著、岩波新書
- 『はじめての経済講義』佐和隆光著、日本経済新聞出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 景気と成長 [経済発展の諸要因]
- 第2回 変わる産業構造 [産業構造の高度化、規制緩和]
- 第3回 第1次産業の変化 [農業の生産性]
- 第4回 第2次産業の変化 [高度成長]
- 第5回 第3次産業の変化 [サービス産業、金融サービス]
- 第6回 エネルギーと経済 [エネルギーの供給構造、省資源]
- 第7回 新技術と経済 [大量生産型、知識集約型]
- 第8回 暮らしと労働 [雇用、労働]
- 第9回 暮らしと産業 [就業構造、ミスマッチ]
- 第10回 暮らしと豊かさ [余暇・レジャー、労働時間]
- 第11回 経済力と生活の質 [消費者物価、消費構造、個人資産]
- 第12回 経済力と生活の質 [健康・教育・社会保障]
- 第13回 日本経済の今後1 [労働問題]
- 第14回 日本経済の今後2 [持続可能性、環境問題]
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布するプリントを利用して、授業の事前事後の学習に役立てること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【夜】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
この講義では、経済学学習の最初の導入として、ミクロ経済学の初歩的な考え方、分析道具の習得を目指します。また、下記の講義内容で挙げられた事項を練習問題を通じて習得し、今後の経済学学習の土台を築きます。

教科書 /Textbooks
適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
マンキュー『マンキュー経済学! ミクロ経済学編』(第2版) 東洋経済新報社、2005年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
なぜ経済学を学ぶのか、経済学の考え方(仮定の役割、モデル分析)
- 2回 グラフの読み方、1次関数の学習
【傾き】、【切片】の概念など
- 3~5回 相互依存と交易について(1)
【生産可能性】
- 6~7回 相互依存と交易について(2)
【絶対優位】、【比較優位】
- 8~9回 市場における需要と供給(1)
【市場】と【競争】、【需要】、需要の弾力性、【需要曲線】のシフト
- 10~11回 市場における需要と供給(2)
【供給】、供給の弾力性、【供給曲線】のシフト、
- 12~13回 市場均衡について
【価格】、【均衡】
- 14~15回 経済学再考
市場メカニズムの働き、弾力性概念の利用、
講義内容は進度により若干の変更または追加される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method
評価方法は各担当教員の指示に従うこと。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【夜】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
 この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks
 井出多加子・井上智夫・北川浩・幸村千佳良 著
 経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 テキストに沿って講義を行う。
 1回 イントロダクション (マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
 2・3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
 4・5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】【名目と実質】
 6・7回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】【利子率】
 8・9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】【金融政策】【為替】
 10・11回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
 12・13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
 15回 まとめ
 (第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 西村 香織 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会において、人は、企業をはじめ、学校、政府、地方自治体など何らかの組織に属して生きています。その組織のマネジメント、すなわち組織をいかに運営するかは、社会にとっても、また私たち自身の生き方にとっても非常に重要なテーマであると言えます。本講義では、マネジメント研究の大きな流れを捉え、マネジメントについて考えていく基礎を提供していきます。それによって、マネジメントを学ぶこと、経営学を学ぶことの面白さと意義深さを知ることが講義の目的です。

教科書 /Textbooks

中野裕治・貞松茂・勝部伸夫・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ経営学』ミネルヴァ書房、2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『管理とは何か』文真堂、宮田矢八郎『経営学100年の思想』ダイヤモンド社、
 三戸浩・池内秀巳・勝部伸夫『ひとりで学べる経営学』文真堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 マネジメントのはじまり 【テイラーの科学的管理】
- 2回 一般理論としてのマネジメント 【ファヨールの管理過程論】
- 3回 マネジメントにおける人間性の発見 【ホーソン実験】【人間関係論】
- 4回 自己実現とマネジメント 【マズローの欲求階層説】
- 5回 人の統制における2つの管理観 【マグレガーのX理論・Y理論】
- 6回 動機づけ理論の実証的研究 【ハーズバーグの動機づけ・衛生理論】
- 7回 個と全体(個人と組織)の統合 【フォレット理論の思想的基盤】
- 8回 動的プロセスとしてのマネジメント 【フォレットの組織論・管理論】
- 9回 現代管理論の基礎 【バーナード理論】
- 10回 管理の科学化の思想 【バーナードからサイモンへ】【サイモンの意思決定論】
- 11回 制度としての企業 【ドラッカーの思想体系と企業論】
- 12回 知識社会のマネジメント 【ドラッカーのマネジメント論】
- 13回 日本的経営とマネジメント 【日本的経営】
- 14回 新たなマネジメントへ向けて 【ニューサイエンスとマネジメント】
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(提出物、出席、授業態度等) ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたっては、テキストをしっかりと読んでおいてください。
 また、各回の授業で配布するレジюмеを導入として、学習を深めていってください。
 専門教育科目の「企業論基礎」「経営組織論」とあわせて受講することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 中間 信博 / Nobuhiro Nakama / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、主として企業の仕組みや役割、社会との関係などを学び、現代企業を理解するために必要な基礎的知識の獲得を目的とする。講義全体のキーワードは、株式会社の特徴、コーポレート・ガバナンス（企業統治）、CSR（企業の社会的責任）である。

教科書 /Textbooks

佐久間信夫編『現代企業論の基礎』学文社（2006年8月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 イントロダクション（本講義および企業論についての概要説明）
- 2 回 企業とは何かI【企業の定義】、【企業の本質】
- 3 回 企業とは何かII【企業の目的】、【企業は誰のものか】
- 4 回 現代企業の諸形態I【企業形態】
- 5 回 現代企業の諸形態II【持分会社】、【株式会社】
- 6 回 株式会社の発展I【東インド会社】、【資本の証券化】
- 7 回 株式会社の発展II【経営者支配】、【企業統治】
- 8 回 企業結合の諸形態【企業連合】、【トラスト】、【コンツェルン】、【M&A】
- 9 回 日本の会社機関と企業統治【日本の企業統治】、【委員会設置会社】
- 10 回 企業統治の国際比較I、【米国の企業統治】
- 11 回 企業統治の国際比較II、【ドイツの企業統治】
- 12 回 企業に求められる21世紀型CSR【企業と社会】、【CSR】
- 13 回 企業の環境経営【環境マネジメント・システム】
- 14 回 SRIの広がりとその課題。【SRI（社会的責任投資）】、【CSR】
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営学や会社法関連の科目を受講しておく、本講義の理解が一層深まるであろう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【夜】

担当者名 /Instructor 池口 慶一 / KEIITI IKEGUTI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

企業簿記は、企業の資産と資本の変動を一定の理法と組織によって秩序的に記録・計算・整理し、その結果を適正・明瞭に表示する特殊な技術打である。

本講義ではその理法と組織がいかなるものであるかを考察し、併せてその原理が実務でどのように応用されているかを研究する。簿記は実務学科である。したがって、簿記を修得するためには普段の努力が必要である。受講生は努力を惜しまないで欲しい。

教科書 /Textbooks

入門簿記講義（ワークブック付） 早稲田大学会計学研究室編 中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中央経済社編 会計法規集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 簿記とは何か
- 第2回 簿記の目的
- 第3回 簿記の必要性
- 第4回 計算項目(1) 資産・負債・資本
- 第5回 計算項目(2) 収益・費用
- 第6回 会計取引とは何か
- 第7回 会計取引と帳簿記入(1) 仕訳の法則
- 第8回 会計取引と帳簿記入(1) 元帳転記
- 第9回 仕訳及び元帳の記入練習
- 第11回 試算表の作成
- 第12回 精算表の作成
- 第13回 決算手続(1) 帳簿の修正
- 第14回 決算手続(1) 帳簿の締切
- 第15回 Accounting Cycle

成績評価の方法 /Assessment Method

試験及びレポートによって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

簿記は極めて簡単な原理から成り立っている。その原理を確実に理解するためには練習が必要である。筆記具と紙を用いて何度も練習してほしい。

ただし、基礎知識が習得できたら次はできるだけ難しい問題に取り組むことが肝要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学I【夜】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

教科書 /Textbooks

P.G.ホーエル『初等統計学』培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 森棟公夫『統計学入門』新世社（ほぼテキストと同じレベル。簡明な記述が特色。）
- P.G.ホーエル『入門数理統計学』培風館（テキストよりも若干難しい。）
- 鍋谷清治、丸山文行、河田敬義『大学演習数理統計』裳華房（本格的な演習書）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 統計学とは何か（ガイダンス）
- 2回 点推定と区間推定
- 3回 記号Pr{ }の意味
- 4回 点推定の根拠と確率変数の平均
- 5回 区間推定の根拠と確率変数の分散
- 6回 シミュレーションによる確率分布の導出
- 7回 点推定と区間推定に関する標準的な問題
- 8回 小テスト1および中心極限定理
- 9回 割合pに関する仮説検定（準備）
- 10回 割合pに関する仮説検定（本体）
- 11回 割合pに関する仮説検定（発展）
- 12回 割合の差に関する仮説検定
- 13回 片側検定
- 14回 χ^2 乗検定
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト1 50% 小テスト2 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【夜】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、直接投資を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 比較優位の理論I【絶対優位】【貿易パターン】
- 3回 比較優位の理論II【リカードモデル】【比較優位】【貿易の利益】
- 4回 ミクロ経済学の復習【生産可能性曲線】【無差別曲線】
- 5回 一般均衡分析【貿易三角形】【オファー曲線】
- 6回 要素賦存の理論I【ヘクシャー＝オリーン・モデル】【要素賦存】【要素集約度】
- 7回 要素賦存の理論II【リプチンスキーの定理】【ストルパー＝サムエルソンの定理】
- 8回 規模の経済と不完全競争
- 9回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 10回 小国の貿易政策【関税政策】、【補助金政策】
- 11回 小国の貿易政策【数量割当政策】
- 12回 大国の貿易政策【最適関税の理論】
- 13回 経済統合【自由貿易地域】
- 14回 国際要素移動【海外直接投資】
- 15回 国際要素移動【労働の国際移動】

成績評価の方法 /Assessment Method

(授業中の) 小テスト 50 % 期末試験 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の基礎知識を習得した上に履修してください。
国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略【夜】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。 東北大学経営学グループ 著『ケースに学ぶ経営学[新版]』有斐閣。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求—』有斐閣、1997年、井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年、石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第 2回 経営戦略論の議論の歴史 1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第 3回 経営戦略論の議論の歴史 2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第 4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第 5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第 6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第 7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第 8回 競争の戦略 1【5フォース】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第 9回 競争の戦略 2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第 10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第 11回 戦略と企業間関係【サプライチェーン】、【ビジネスシステム】【アライアンス】
- 第 12回 経営戦略と組織 1【組織形態】、【事業部性】、【マトリックス組織】
- 第 13回 経営戦略と組織 2【組織革新】、【組織学習】【知識創造】。
- 第 14回 事例研究【組織文化】、【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果によるが、必要に応じて出席点。小テストの結果を加味する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事管理論【夜】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

教科書 /Textbooks

奥林康司編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
 (上記著書の翻訳書として上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂が公開されています。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 2回 人的資源管理の歴史的発展【人事管理論】【人的資源管理論】
 - 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
 - 4回 職務設計【職務拡大】【職務充実】
 - 5回 組織設計【分業】【調整】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 職能資格制度と人事考課制度【人事等級制度】【人事考課】
 - 8回 専門職制度【組織内プロフェッショナル】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】
 - 10回 教育訓練制度とキャリア開発【選択型研修】【自律的キャリア】
 - 11回 福利厚生制度【カフェテリア・プラン】
 - 11回 非正規従業員と人材ポートフォリオ【雇用形態の多様化】
 - 12回 女性労働【ジェンダー】【ダイバーシティ】
 - 13回 労使関係【企業別労働組合】
 - 14回 人的資源管理領域における最近の学説【戦略的人的資源管理論】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% (出席は不定期に取り、単位の修得条件とする) 期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくことよい。
 また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【夜】

担当者名 /Instructor 泉 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、企業や個人でのコンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。また、単にコンピュータを使うのではなく、コンピュータシステムの本質を理解することを目的とする。そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組み、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【ファイル】【ユーザインタフェース】
 - 2回 通信技術とコンピュータの融合の進展【LAN】【TCP/IP】【インターネット】
 - 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
 - 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
 - 5回 データ検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
 - 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【DFD】
 - 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】【クリティカルパス】
 - 8回 問題解決のためのモデル(その2)【フローチャート】【デジコンテーブル】
 - 9回 コンピュータでのデータ表現と計算【2進数】【誤差】
 - 10回 問題演習【条件分岐】【PERT】
 - 11回 これからのコンピュータ【クラウドコンピューティング】【SaaS】
 - 12回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【i-Japan計画】
 - 13回 身の回りの情報技術やメディア【携帯端末】【電子マネー】【画像認識】
 - 14回 問題演習【暗号】【情報落ち】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探す等で自己学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論I【夜】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』新世社、（2007年11月）、1,800円（当時）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会计学）とは何か？【経済活動】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【売却時価】
- 7回 発生主義と実現主義【費用の発生】【収益の実現】
- 8回 資産とは何か 【流動・固定分類】
- 9回 負債とは何か 【債務】
- 10回 原価と時価【有用性】
- 11回 純資産とは何か【資本】【利益】
- 12回 企業会計のルール【企業会計原則】
- 13回 明瞭性の原則【ディスクロージャー】
- 14回 財務報告【投資家】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む） ... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データベース【夜】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。本講義では、まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks
 谷尻 かおり『これだけはおさえないデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社（2006年1月）、2,394円（税込）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)
 根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
 増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
 第2回：データベースシステム
 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
 第4回～第5回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
 第10回～第11回：正規化理論【正規化】
 第12回～第14回：データベース設計【データベース設計】
 第15回：まとめ
 （進行状況等により内容は変更になる場合があります。）

成績評価の方法 /Assessment Method
 出席...25% 小テスト・課題...30% 期末試験...45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 特に準備は必要ありませんが、データベースの利用技術よりも、仕組み、設計が中心になります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 1 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks

特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉の概念【目的概念】【実体概念】【ウェルビーイング】
- 2回 生活問題とソーシャルワーク【人間の基本的欲求】【個人と環境との不適合】【社会関係の主体的側面】
- 3回 社会福祉の制度・政策と実践・技術【ソーシャルウエルフェア】【ソーシャルワーク】
- 4回 社会政策と社会福祉【社会問題】【貧困問題】【生活問題】
- 5回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
- 6回 社会福祉の思想の独自性と重要性【ロールズの正義論】【センの潜在能力理論】
- 7回 社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティケア】【生活の質】
- 8回 社会福祉の歴史（イギリス）【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
- 9回 社会福祉の歴史（日本 - 戦前から高度経済成長まで）【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】
- 10回 社会福祉の歴史（日本 - 福祉元年以降）【福祉見直し論】【日本型福祉社会論】
- 11回 福祉改革と日本の動向【社会福祉基礎構造改革】【規制緩和】【格差社会】
- 12回 福祉政策の主体と手法【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉社会】【福祉レジーム】
- 13回 現代社会の変化と福祉政策【ワーキングプア】【社会的排除】【社会的包摂】
- 14回 福祉政策の関連領域 【所得政策】【教育政策】【保健医療政策】【住宅政策】【雇用政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況（小テスト・宿題など）... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布したレジュメを閉じる専用ファイルを準備すること。前回の授業の復習のためにテスト用紙を配布、回答を求めらるので、参照のために毎回ファイルを持参のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉2 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks
特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
社会福祉士養成講座編集委員会編（2009）『4 現代社会と福祉-社会福祉原論』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 福祉政策の概要①【目的概念、実体概念、L字型構造】
- 2 回 福祉政策の概要②【倫理要綱、専門職】
- 3 回 福祉政策における必要と資源【ニード、社会資源マップ】
- 4～5 回 福祉政策の主体と手法【福祉レジーム、NPM】
- 6～7 回 福祉政策の関連領域【所得政策、保健医療、住宅政策、教育、雇用】
- 8～9 回 社会福祉制度の体系【社会政策、社会福祉法、社会福祉基礎構造改革】
- 10 回 福祉サービスの供給【福祉多元主義、指定管理者制度】
- 11～12 回 福祉政策の国際比較
- 13 回 福祉サービスと援助活動【バイステック、ストレングス、エンパワメント】
- 14 回 福祉政策の課題と展望【ノーマライゼーション、インクルージョン】
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
授業時の小テスト ... 50% 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
事前に指定する参考文献の講読。
前回の授業の内容について授業開始時に小テストを行うので、復習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域福祉の理論と方法 1 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福祉士養成講座編集委員会編（2008）『地域福祉論第4版』中央法規
福祉士養成講座編集委員会編（2009）『地域福祉の理論と方法』中央法規
牧里毎治（2007）『改訂版地域福祉論-住民自治と地域ケア・サービスのシステム化』日本放送出版協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的コード】
- 4～5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯、ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 6回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 7回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 8～9回 コミュニティソーシャルワークの方法【ケアマネジメント】
- 10回 行政と民間の協働1【地域福祉計画、社会福祉協議会、社会福祉法人】
- 11回 ゲストスピーカー
- 12回 行政と民間の協働2【ボランティア活動、民生委員、保護司、福祉ビジネス】
- 13回 ゲストスピーカー
- 14回 地域福祉の推進と福祉教育【福祉教育、在宅サービス】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度30% 期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に指定する参考文献の講読。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

産業化をベースとして、近代化が成熟するとともに、人口構造の高齢化が社会現象として多くの課題をもたらすことになった。更には人口減少が始まり、人口転換が急速に進展すると予測されている。このような現状では人口高齢化を単なる社会問題として把握するにとどまらず、社会経済的視野に立脚した人間洞察ができるような視点を身につけることが要求される。高齢者に対する支援と介護保険制度 1 では高齢者の生活実態と社会情勢、人口構造、介護需要とともに、介護の概念や対象及び理念、制度・政策の歴史的経緯、介護保険法や老人福祉法等を概説する。さらに、行政組織や民間団体の役割、財政等の理解を促すよう講義を進める予定。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2010年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
 他は講義の中で指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【キーワード】

- 第 1 回～第 2 回 現代社会と人口減少、少子・高齢化問題と必要な政策課題【人口転換】
- 第 3 回～第 5 回 高齢者の生活実態や社会関係及び高齢者の生活支援の課題【生活支援】
- 第 6 回～第 7 回 老人福祉の歴史的経緯【施設・居宅サービス】【ノーマリゼーション】
- 第 8 回～第 9 回 老人福祉の法律と制度【老人福祉】
- 第 10 回～第 11 回 介護保険制度の概要【介護保険、権利擁護】
- 第 12 回～第 14 回 行政組織や民間団体の役割、財政等【行財政、民間活動】
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 70% 授業態度 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障制度における社会福祉の位置づけや基本的制度に関する知識

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【夜】

担当者名 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

人口構造の転換が始まっている。このことは多くの課題をもたらすことになる。高齢者に対する支援と介護保険制度2では、各論として介護保険制度や老人福祉制度等、関連する法制度について講義をする予定。また、介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方及び専門職としての人間観に基づく相談援助、認知症や週末期ケア等について理解を促す予定。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房2010年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
その他は講義の中で指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【キーワード】
- 第1回～第2回 老人福祉制度と関連法【老人福祉】
 - 第3回～第4回 介護保険法と制度【介護保険】
 - 第5回～第6回 介護保険法における組織及び団体【組織及び団体の役割】
 - 第7回～第8回 介護専門職の役割と地域包括支援センター【地域包括】
 - 第9回～第10回 介護予防に関する専門技術及び、相談援助の方法【介護予防】
 - 第11回～第12回 認知症や週末期ケア、高齢者虐待等と権利擁護【介護過程、権利擁護】
 - 第13回～第14回 老人福祉関連分野の活動 - 住宅、環境整備、サービス団体・組織【民間活動】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験70% 授業態度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障制度における社会福祉の位置づけや基本的制度に関する知識

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度【夜】

専門科目

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

今日、児童と家庭の支援に関する法律・制度が著しく変化している。児童福祉施策では、子どもの福祉を支える家庭や親への支援などの重要性が認識され、社会福祉士養成のための教育課程においても、それらが強調された。本講義では、現代社会における児童家庭福祉問題に対応する児童家庭福祉に関する法制度、サービスについて理解する。また、児童福祉実施機関、児童福祉施設などの種類、目的、機能などは、視聴覚機材などを用いて、その実際が理解しやすいようにしたい。

教科書 /Textbooks

○社会福祉士養成テキストブック『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 児童家庭福祉を支える法制度【児童福祉法】【母子及び寡婦福祉法】
- 第2回 児童家庭福祉にかかわる組織・団体、児童福祉施設の種類と専門職【児童委員】
- 第3回 児童相談所の役割と他機関との連携【児童福祉司】【一時保護】【児童虐待】
- 第4回 児童健全育成と児童厚生施設【児童遊園】【児童館】
- 第5回 母子保健【リプロダクティブ・ヘルス・ライツ】【性的自立】【母体保護法】
- 第6回 障害児の福祉【重症心身障害児】
- 第7回 保育所と幼稚園【幼保二元化】【認定子ども園】
- 第8回 夜間保育所・認可外保育所・学童保育【多様な保育ニーズ】【待機児童】
- 第9回 乳児院と児童養護施設【要養護児童】【児童家庭支援センター】
- 第10回 グループホーム、里親ケア【養育里親】【専門里親】
- 第11回 児童自立支援施設と少年非行【自立援助ホーム】【少年法】
- 第12回 ひとり親家庭と母子生活支援施設【母子指導員】【母子自立支援員】
- 第13回 DV防止法【ドメスティック・バイオレンス】【配偶者暴力相談支援センター】
- 第14回 婦人保護施設・売春防止法【婦人相談員】【要保護女子】【性暴力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業において配布するプリントなどを整理するファイルを準備しておくこと。児童福祉論と合わせて受講すればわかりやすい。単元ごとに配布する復習のプリントで自己学習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の基盤と専門職 1 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
後日揭示

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の基盤と専門職 2 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
後日揭示

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

低所得者に対する支援と生活保護制度 【夜】

担当者名 藤敷 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

- 「ネットカフェ難民」「派遣切り」「年越し派遣村」など、近年の日本社会では「貧困」が大きな社会問題となっている。しかし「貧困」問題は、最近発生したものではなく、古くから日本社会に存在していた。「貧困」は見ようとしなければ「見えない」のである。
本講義ではまず、「貧困」とは何か。「貧困」の実態を見つめその原因を探ることから始める。
- 日本において、最終的に人々を「貧困」から救うのは生活保護法である。最後のセーフティネットである以上、福祉事務所のケースワーカーのみならず、福祉施設職員や、病院ソーシャルワーカー、ケアマネージャーなど社会福祉に携わるすべての職種が知っておく必要がある重要な社会福祉制度である。他方その生活保護法は現場の福祉事務所できちんと機能していたのであろうか。なぜ北九州市では生活保護を受けられないことによる餓死事件が続発したのであろうか。
本講義では、「貧困」の実態を受けて、生活保護法の仕組みを具体的なケースを通じて学ぶ。その際には、「生活保護法の矛盾」も検討し、「貧困」問題を解決する責任はだれにあるのかを考えていく。

教科書 /Textbooks

低所得者に対する支援と生活保護制度 (弘文堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉六法、格差・貧困と生活保護 (明石書店)、よくわかる公的扶助 (ミネルバ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 貧困・低所得者問題とは
- 2 見えない貧困を見る
- 3 現代貧困の諸相
- 4 福祉国家と公的扶助
- 5 公的扶助の歴史 (イギリス)
- 6 公的扶助の歴史 (日本)
- 7 生活保護制度の原理と種類
- 8 生活保護基準
- 9 保護の機関と費用、被保護者の権利義務、不服申し立てと行政訴訟
- 10 生活保護の実施体制
- 11 生活保護における援助活動
- 12 被保護者の動向と課題
- 13 低所得・貧困層への他の政策
- 14 自立支援プログラム他
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...25% 期末テスト...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

その他詳しい日程は講義中に知らせる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

観光社会学【夜】

担当者名
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義においては、社会学の枠組みから、現代における典型的なイメージ消費としての観光現象について、観光客、観光地住民双方の視点から批判的に分析する。旅行や、観光地のあり方に対し批判的に関心を持つ学生の参加を期待する。本講義は「観光」についての評価から距離を持った立場で講義を進めるので、観光地にいかにか集客すべきかといった、直接的に「役に立つ」テーマ（客観的旅行情報は提供するが）は扱わないので注意。

教科書 /Textbooks

須藤廣『観光化する社会-観光社会学の理論と応用』ナカニシヤ出版、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

須藤廣、遠藤英樹『観光社会学-ツーリズム研究の冒険的試み』明石書店、2005年
安村克己他『観光社会文化論講義』くんぶる、2006年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 イントロダクション
 - 2回 【観光】とは何か(観光文化の構造、及び場所の消費としての観光について)
 - 3回 観光の歴史①前近代(「【伊勢参り】」)
 - 4回 観光の歴史②近代・現代(【修学旅行】の起源から現代観光まで)
 - 5回 「イメージ消費地」としての【ハワイ】(ハワイ観光の表象はだれがどのように作ったのか)
 - 6回 映画『ブルーハワイ』『ハワイの夜』『ハワイの若大将』からハワイの観光表象を分析する
 - 7回 ハワイ観光の発展をとおしてみる、【観光表象】、観光客、観光業者、観光地住民との関係
 - 8回 イメージ消費としての観光地とその問題点①タイのカヤン族(首長族)の観光化
 - 9回 イメージ消費としての観光地とその問題点②門司港
 - 10回 イメージ消費としての観光地とその問題点③湯布院
 - 11回 イメージ消費としての観光地とその問題点④ベトナムのモン族、中国チベット族の観光化
 - 12回 内発的な観光表現の可能性と限界①ハワイモロカイ島住民の「反対運動的」観光地づくり
 - 13回 内発的な観光表現の可能性と限界②ブータン王国の「制限された」観光地づくり
 - 14回 【バックパッカー・ツーリズム】のパラドクス(ヒッピーから「深夜特急」、「あいのり」)
 - 15回 【デイズニー化】する社会の【リアリティ】及びまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の感想、小テストとレポート(書籍やウェブサイトからのコピペ等不正行為は小さなものでも厳禁、0点となります)
出席10%、小テスト30%、レポート60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期間だけの授業では扱いきれないほどの多くの内容を詰め込んで行うので、授業をさぼると理解不能になります。なるべく休まないように。授業内容に積極的に関わり、情報提供してくれる学生歓迎。
バックパッキング情報も随時提供するので、バックパッカーの授業参加歓迎。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老年心理学 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 主として知能、記憶・情報処理、パーソナリティ等に関する老年期特有の変化の有無とその要因について、社会関係も視野に入れて説明する。

教科書 /Textbooks
 使用しない。資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義の中で指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
【キーワード】
 第1回 老年期とは—多様性と共通性【個人差、文化・社会の捉え方】
 第2回～第4回 老年期の知能【言語性能力、動作性能力】
 第5回～第7回 老年期の記憶・学習・情報処理【注意力の分散、再認・再生、体制化】
 第8回～第10回 老年期の人格と社会的適応【社会的出来事、発達課題、成熟した人格】
 第11回～第12回 老年期の精神疾患【認知症】
 第13回～第14回 適応・生きがい
 第15回 まとめとして - 老年期と社会問題

成績評価の方法 /Assessment Method
 試験 70% 授業態度 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人体の構造と機能及び疾病 【夜】

担当者名 /Instructor 宇野 卓也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 健康と疾病、医療と医学、医療制度、現代医療の抱える諸問題、さらに現在トピックとなっている疾患や医療関連の諸問題について解説する。

教科書 /Textbooks
 テキストは使用しません。必要な資料は講義で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 メジカルフレンド社『新体系 看護学全書 6 健康支援と社会保障制度① 現代医療論』

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 近代医学の基礎【生理学】、【病理学】、【細菌学】、【麻酔と消毒】
 - 2回 現代医療の進歩【物理学と工学】、【遺伝学】、【再生医療】
 - 3回 人の成長と発達【身体の発達】、【精神の発達】、【老化】
 - 4回 身体構造の概要【人体解剖学】
 - 5回 心身機能の概要【うつ】、【心身症】
 - 6回 国際生活機能分類の考え方と概要【ICF】
 - 7回 健康の概念【WHO】
 - 8回 疾病と障害の概要【ホメオスタシス】
 - 9回 DSM-IVの概要【精神障害の分類】
 - 10回 医学と医療【インフォームド・コンセント】
 - 11回 医療供給体制【医療法】
 - 12回 医療保障の現状と課題【医療保険制度】
 - 13回 現代医療の諸問題【地域医療連携】、【周産期医療】、【医師不足】
 - 14回 脳卒中・リハビリテーション・がん・心血管障害【地域連携クリティカルパス】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況 ... 25 % 課題レポート ... 25 % 期末試験 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 事前に参考文献に目を通してよくと解りやすい。
 講義で配布する資料に目を通してよくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査の基礎【夜】

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
適切な方法論にそった社会調査とその分析結果は、社会に生きる人々の全体的な意識や問題意識を把握することができる。本講義では、社会調査の基礎について学ぶことを目的とする。社会調査についての基礎的な概念の理解や、調査にあたって適切な方法論を選択するための問題設定について学びながら、実際の資料を用いての分析も試みる。

教科書 /Textbooks
大谷信介(共編),1999,『社会調査へのアプローチ：論理と方法』 ミネルヴァ書房
佐藤郁也,2002,『フィールドワークの技法』 新曜社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
安田三郎,1960,『社会調査ハンドブック』 有斐閣
Denzin, N. K. & Lincoln, Y. S. (共編),2006,『質的研究ハンドブック第1巻・第2巻』 北大路書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会調査とは何か
- 2-5回 量的調査—アンケート調査の実際 【アンケート調査】 【測定尺度】 【調査統計】
- 6回 度数分布【階級】 【相対度数分布】
- 7-8回 分散と標準偏差【平均】 【分散】 【信頼区間】
- 9回 カイ2乗検定【帰無仮説】 【有意水準】
- 10回 t検定【母平均の検定】 【対応あり・なし】
- 11回 分散分析【分散分析表】 【F分布】 【主効果】 【交互作用】
- 12回 相関関係【単相関係数の推定・検定】
- 13回 質的調査—フィールドワークとは何か【フィールドワーク】
- 14回 フィールドワークの方法論【参与観察】 【インタビュー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
授業態度・・・ 30% 課題・・・ 30% 期末試験・・・ 40%
5回以上の欠席があった場合は、課題提出及び期末試験の受験資格を失うものとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
耳慣れない言葉が毎回出てきますので、都度習熟の上で次の講義に望んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 1 【夜】

担当者名 /Instructor 藤藪 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが目指す社会福祉の仕事としては、生活保護のケースワーカー、児童福祉司、児童養護施設職員、高齢者福祉施設職員、ケアマネージャー、病院ソーシャルワーカーなどが考えられる。

そこで実践される社会福祉援助技術のほとんどが個別援助技術であるケースワークである。

しかし、ケースワークとは「人々とその環境との間に、個々別々に意識的にもたらされる調整を通じて、人格の発達をはかる諸過程（リッチモンド）」と定義されるように、漠然としていてイメージを掴みにくく、書籍で技法を学ぶだけでは不十分である。

本講座では、具体的な事例演習を通じて、ケースワーク、個別援助の在り方を考えていく。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて講義開始時に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ケースワークとは何か
- 2 ケースワークの原則
- 3 ケースワークを必要とする人々とは
- 4 ケースワークの実践モデル
- 5 ケースワークのアプローチ
- 6～8 ケースワークの諸過程
- 9～10 面接技法
- 11～14 事例演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...25% 期末テスト...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

その他具体的な日程は、講義中に知らせる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【夜】

担当者名 /Instructor 松川 素子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 ソーシャルグループワークは、グループのメンバーの相互作用やプログラム活動を通してメンバー1人ひとりが成長し、問題を解決できるように援助する実践である。グループワークの歴史、変遷、原則、具体的な展開過程と必要な技術について理解し、演習によって集団の力動を体験しながら実践的な援助技術の習得を目指す。

教科書 /Textbooks
 授業時にレジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 「グループワーク」大利一雄 劉草書房
 「グループワークの専門技術」黒木保博・横山穰他 中央法規出版
 「グループワーク論」大塚達雄・硯川真旬・黒木保博
 「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法II」中央法規出版

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 集団のもつ意味とその役割
 - 3回 人間の発達における集団の意義と役割
 - 4回 リーダーシップの構造と機能【リーダーシップ】
 - 5回 集団のもつ力【グループダイナミクス】
 - 6回 グループワークの概念と定義
 - 7回 グループの発達
 - 8回 グループワークの実際(視聴覚教材を用いて)
 - 9回 グループワークの展開過程1
 - 10回 グループワークを企画しよう
 - 11回 グループワークの展開過程2
 - 12回 グループワークの展開過程3
 - 13回 グループにおける葛藤解決
 - 14回 ソーシャルワーカーの自己活用
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業態度... 50 % 期末試験... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉行財政と福祉計画【夜】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向たて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks
 社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規（2009年3月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版（2009年4月）

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 福祉行財政と福祉計画I【福祉制度】
 - 2回 福祉行財政と福祉計画II【戦後社会福祉制度】
 - 3回 福祉行政I【行政の骨格】【社会福祉と法制度】
 - 4回 福祉行政II【福祉行政の組織】【社会福祉基礎構造】
 - 5回 福祉財政I【財政理論】【公共財】
 - 6回 福祉財政II【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
 - 7回 福祉財政III【地方自治体の財政と民生費の動向】
 - 8回 福祉行政の組織・団体と専門職の役割【相談過程と体制】【地域相談システム】
 - 9回 福祉行財政まとめ
 - 10回 福祉計画の目的と意義【福祉援助】
 - 11回 福祉計画の論理と技法I【福祉計画の視点と過程】
 - 12回 福祉計画の論理と技法II【ニーズ把握】【評価】【住民参加】
 - 13回 福祉計画の実際I【老人福祉計画】【介護保険事業計画】
 - 14回 福祉計画の実際II【障害者・生涯福祉計画】【次世代育成支援行動計画】【地域福祉計画】
 - 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況(小テスト・中間まとめ含む) ... 60% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 テキストを講義前に読んでおくこと。また、新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政についての現状認識を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

人権が尊重される民主的な福祉社会、安心して暮らせる豊かな社会、相互の尊重で支えられる共生社会など、社会保障の目的の実現のために、社会保障が果たす役割を理解すること、および、福祉国家の転換期にあつて、現代社会保障が抱えている課題と現時の社会保障改革の動向について、その特徴を諸外国との比較などを通して理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

河野正輝他編「社会保障論」法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会保障の意味 [世界大恐慌と社会保障、生存権と社会保障]
- 2回 近代国家の生活保障 [エリザベス救貧法、ビスマルク社会保険三部作]
- 3回 福祉国家の社会保障計画 [ベヴァリッジ報告、社会保障制度審議会勧告]
- 4回 社会保障の理念・目的 [現代の人権宣言、個人の尊厳、生存権、平等権]
- 5回 現代の貧困 [見えない貧困、ホームレス、ネットカフェ難民、非正規労働者、DV]
- 6回 社会保障制度の全体像 [社会保険、公的扶助、社会手当、社会福祉サービス]
- 7回 医療の保障 [医療保険、公費負担医療、保険診療]
- 8回 高齢者の介護 [介護保険]
- 9回 高齢者、障害者、遺族の年金 [基礎年金、厚生年金]
- 10回 労働生活の安心 [労働災害、通勤災害、雇用保障]
- 11回 生活困窮者に対する保護と支援 [生活保護、ホームレス支援、自立助長]
- 12回 社会福祉サービスの理念の発展 [自己実現、社会参加、個人の尊厳]
- 13回 子ども家庭、障害者、高齢者に対する支援 [自立支援、ノーマライゼーション]
- 14回 転換期の社会保障 [構造改革、市場原理主義、グローバリゼーション、共生社会]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度 ... 30 %

試験またはレポート ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障はすべての人々の広範な生活領域に関連している。各人の日常生活の中で、社会保障に関する自分なりの問題意識や関心をもって受講すると、その複雑な仕組みもわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords